

令和2年度 近畿ESDコンソーシアム活動実施報告書



2021年3月
近畿ESDコンソーシアム
国立大学法人 奈良教育大学

は じ め に

2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、誰も想像できなかった 1 年でした。国内感染拡大初期であった 3 月 2 日から、内閣総理大臣の要請による全国一斉の臨時休校が行われ、緊急事態宣言が 4 月 16 日に全都道府県に拡大されたことで、全国の学校で臨機休校の措置が継続されました。奈良教育大学でも前期の授業開始が 5 月 7 日から、それもすべてオンラインによる授業となり、学生のみなさんも私たち教職員も、試行錯誤の 1 年でした。

そのような中で、4 月には小学校において新学習指導要領が全面実施されました。この学習指導要領に先だって、平成 28 年 12 月 12 日の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」には、「社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており、(中略)このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが期待される。」と記されています。まるで、新型コロナウイルスの出現とグローバル化による世界中での感染拡大と混乱を予測するかのようです。

スウェーデンの環境活動家のグレタ・トゥーンベリさんが 15 歳の時に始めた「気候のための学校ストライキ」が世界中の学生のストライキに拡大し、世界の気候変動対策に大きな影響を与えていることは有名です。これは心理学者であるロジャー・ハートの「子どもの参画のはしご」の第 8 段階「子ども主導の活動に大人も巻き込む」の典型的な例だと思います。今回の学習指導要領の改訂の趣旨のキーワードのひとつが「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」です。地域の課題解決を目的とした探究型の ESD の授業実践や学校実践が、ますます求められることとなると思われます。

奈良教育大学では、平成 27 年度日本／ユネスコパートナーシップ事業の「(5) 教員研修プログラムのあり方に関する調査研究」を受託し、平成 28 年度より ESD ティーチャープログラムを開発・運営し、ESD を指導できる教員の養成と研修を行ってきました。今年度は、本学はもとより、福岡県大牟田市、山形県山形市、滋賀県長浜市立永原小学校、及び奈良教育大学附属中学校において ESD ティーチャープログラムを展開し、新たに 44 名の現職教員、8 人の学生を ESD ティーチャーに、2 名の現職教員を ESD マスターに認定することができました。この報告書には、1 年間の研修内容と作成された ESD 学習指導案が掲載されています。

わがごと化する力、クリティカルシンキングの力、コミュニケーションの力など、ESD が育む持続可能な社会づくりのための力こそが、コロナ禍において、さらなる求められる力だと思います。全国の ESD の推進役として、次年度もさらなる ESD ティーチャープログラムの展開に期待したいと思います。

2021 年 3 月

奈良教育大学 学長

近畿 ESD コンソーシアム 会長 加藤 久雄

目 次

はじめに	1
E S Dに関する研修の実施状況	3
E S Dティーチャー認証制度	4
E S Dティーチャープログラムの基本資料	7
大牟田市E S Dティーチャープログラム	19
山形市E S Dティーチャープログラム	20
奈良教育大学附属中学校E S Dティーチャープログラム	22
長浜市立永原小学校E S Dティーチャープログラム	23
奈良E S D連続セミナー	24
県立万葉文化館授業づくりセミナー	60
森と水の源流館授業づくりセミナー	73
春日山原始林授業づくりセミナー・フィールドワーク	94
学ぶ喜び・E S D連続公開講座	120
ユネスコスクールオンライン近畿地方研究会	136
E S D・ボランティア活動フォーラム	140
資料	
学生による ESD 活動支援報告	145
おわりに	154

令和2年度 ESDに関する研修会の実施状況

項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ESDティーチャープログラム	大牟田会場					1日・22日		24日					27日 (認定証)
	山形会場					9日・10日			21日				28日 (認定証)
	附属中学校					6日・7日				19日			23日 (認定証)
	永原小学校								30日	25日	20日	3日	22日 (認定証)
奈良連続セミナー					10日・25日	7日・31日	24日	29日	26日		7日・21日	12日	10日 (認定証)
授業づくりセミナー	春日山原始林					11日	13日	24日		5日・12日	30日		
	源流館					18日	5日			20日		20日	
	万葉文化館		30日			22日		17日	14日			13日	
オンライン研修・交流会				29日		24日		12日	16日			8日	
学ぶ喜び連続公開講座					22日 (大西)			1日 (田淵) 16日 (河野)	25日 (吉田)	10日 (手島)			
ユネスコスケール全国大会										6日			
教委・学校研修支援				9日 大台町	29日 附属中	17日 中央高 20日 東登美ヶ丘小	10日 東淀川高	20日 飛鳥公民館 23日 高田高	18日 菊池南中			9日 へき地研修 24日 菊池南中	
ユネスコスケール 近畿地方大会									1日ブレ① 8日ブレ② 15日大会				
奈良SDGs学び旅										18日 学び旅セミナー	10日 ガイド研修① 15日 ガイド研修② 22日 郡山西中1年	4日 郡山西中2年 26日 シンポジウム	

奈良教育大学 ESD ティーチャー認証制度について

1. ESD を適切に計画し指導できる教員に求められる資質・能力

(1) 教師としての基盤的力量

学級経営力、生徒指導力、授業力、そして子ども理解力など、全ての学校教員に求められる資質・能力が基盤的力量として必要である。

(2) SDG s に関心を持ち、様々な書物から学んだり、講演会に参加したりするなど、能動的に SDG s への理解を深めようとする態度と、SDG s に関する課題を自分事とし、自らが持続可能な社会の担い手として、ライフスタイルを見直し、SDG s の達成に積極的に取り組もうとする態度が必要である。

(3) 「当たり前だ」と思っていることを時間的、また空間的に捉えて代替案を考え（クリティカル・シンキング）たり、地域の課題を SDG s の 17 の目標と関連付けて捉え、解決策を多面的・総合的に考え（システムズ・シンキング）たりする、探究的な思考力と行動力が求められる。

(4) ESD には教科書がない。総合的な学習の時間に地域の課題を学習課題として探究型の単元計画を組織し、地域人材や社会教育施設・専門家などと連携しながら、授業実践を行う力が求められる。また、日々の授業実践を対話的で深い学びを促すような授業力が求められる。

(5) ESD は社会づくりに関する価値観と行動の変革を促す教育活動である。ESD で育てたい価値観を育てるためには、系統的で継続的なカリキュラムが必要となる。校内はもちろん異なる校種の教員と連携して、系統的なカリキュラムを創造し、不断の見直し・改善を図ろうとする態度や、学校間交流や学習成果の地域への発信などにより、学びがいのある質の高い ESD 実践を志向する態度も求められる。



2. ESD ティーチャープログラムの概要

(1) ESD ティーチャープログラムの基本型

ESD ティーチャープログラムは、上記の資質・能力を養う目的で、次の5回の研修から構成されている。

第1回：SDG s の理解促進

SDG s の達成が求められる世界の状況を経済・社会・環境の側面から捉え、理解を深める。

第2回：ESD の学習理論の理解

ESD で育てたい価値観、視点、資質能力を紹介するとともに、持続可能な社会づくりに有用なソマティック・マーカーを育てる体験的な学習について理解を深める。

第3回：優良実践事例の分析と単元構想案の作成

ESD の優良実践事例を ESD の観点から分析し、授業づくりのポイントを理解したり、改善ポイントを見出したりすることで、学習指導案の読み方や作成方法について研修し、本学が開発した様式にしたがって単元構想案を作成する。

第4回：単元構想案の相互検討と ESD 学習指導案の作成

単元構想案の相互検討を踏まえ、ESD や ESD 学習指導案についての理解を深める。

※相互検討で修正した単元構想案を用いて、2 か月程度かけて ESD 学習指導案を作成したうえで、第5回に参加する。

第5回：ESD 学習指導案の相互検討会

各自が作成した ESD 学習指導案を発表し、全員で検討する。相互に検討することで、ESD の授業づくりや学習指導案作成のスキルアップを図る。

全ての研修会に参加し、ESD 学習指導案を1月末までに大学に提出する。奈良教育大学では提出された ESD 学習指導案を運営委員会で審議したうえで、本学の教授会に提出し、承認を得ることができれば、学長より ESD ティーチャーの認定証を授与する。

(2) ESD ティーチャープログラムの発展型

現職教員を対象とした ESD ティーチャープログラムにおいては、実践意欲の向上と、ESD に関する理解の深化を目的に、マスターコース、スペシャリストコースを用意している。

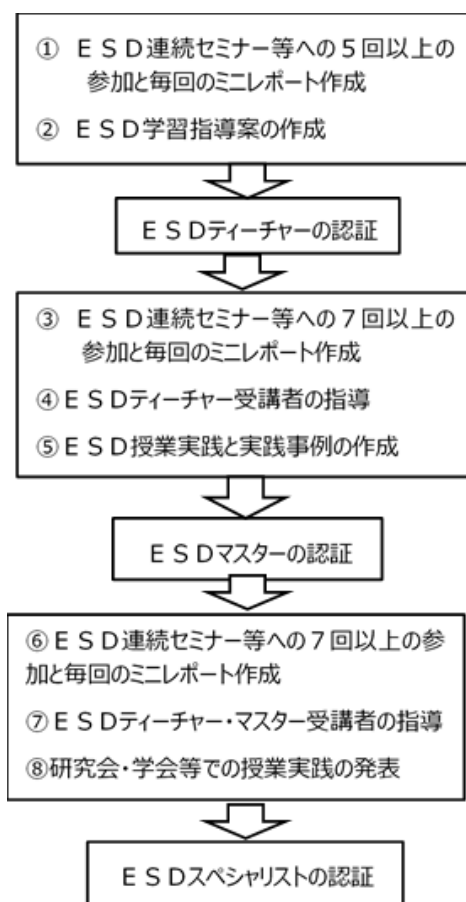
3. ESD ティーチャーについて

奈良だけでなく、ESD ティーチャープログラムを全国で展開することで ESD ティーチャーの拡大を図ると共に、ESD ティーチャーの資質・能力、及び実践意欲の向上を目的に、フォローアップ研修として ESD ティーチャーを対象としたオンライン研修を2ヶ月に1回実施している。

令和元年度までの ESD ティーチャー等の認定者数は以下の通りである。

(名)

	現職教員			学生
	スペシャリスト	マスター	ティーチャー	ティーチャー
平成 28 年度	0	0	21	3
平成 29 年度	0	14	13	4
平成 30 年度	5	2	19	11
令和元年度	4	1	22	5
合計	9	17	75	23



4. 令和2年度のESDティーチャープログラム

今年度は、奈良教育大学、奈良教育大学附属中学校、大牟田市、山形市、長浜市立永原小学校を会場にESDティーチャープログラムを展開した。また、奈良県立万葉文化館、川上村森と水の源流館、春日山原始林授業づくりセミナー・フィールドワークにおいても、ティーチャープログラムを補完する形で連続的に研修を行った。今年度の認定者は以下の通りである。

(1) 現職教員のESDティーチャー等

①ESD マスター (2名) 奈良教育大学附属中学校：吉田 寛 奈良市立朱雀小学校：中村友弥

②ESD ティーチャー (42名)

1	奈良教育大学附属中学校	相生真志	22	大牟田市立宅峰中学校	田中智文
2	奈良教育大学附属中学校	市橋由彬	23	大牟田市立宮原中学校	緒方 亮
3	奈良教育大学附属中学校	佐竹 靖	24	大牟田市立松原中学校	池崎龍一
4	奈良教育大学附属中学校	中嶋たや	25	大牟田市立宮原中学校	中野正貴
5	奈良教育大学附属中学校	中村基一	26	大牟田市立甘木中学校	坂田亜澄
6	奈良教育大学附属中学校	長友紀子	27	山形市立千歳小学校	阿部大輔
7	奈良教育大学附属中学校	成田菜津美	28	山形大学附属特別支援学校	阿部友幸
8	奈良教育大学附属中学校	葉山泰三	29	山形市立第三小学校	岡崎 亮
9	奈良教育大学附属中学校	挽地夕姫	30	上山市立南小学校	太田 馨
10	奈良教育大学附属中学校	山田耕士	31	九里学園高校	川合真澄
11	奈良教育大学附属中学校	山本浩大	32	天童市立寺津小学校	近野 巧
12	兵庫教育大学附属小学校	阿賀研介	33	上山市立南小学校	佐藤亨樹
13	滋賀大学教育学部附属中学校	永田郁子	34	長浜市立永原小学校	今田佑美
14	大牟田市立みなと小学校	石橋剛志	35	長浜市立永原小学校	八田万鈴
15	大牟田市立天領小学校	井川浩司郎	36	長浜市立永原小学校	山田 茂
16	大牟田市立玉川小学校	篠倉健太	37	長浜市立永原小学校	曾根花蓮
17	大牟田市立中友小学校	堤 智紀	38	長浜市立永原小学校	親谷有香子
18	大牟田市立白川小学校	竹崎衣和那	39	長浜市立永原小学校	長谷川要治
19	大牟田市立羽山台小学校	横尾柚花	40	長浜市立永原小学校	小椋菜那
20	大牟田市立上内小学校	廣松 忍	41	長浜市立永原小学校	今井伸哉
21	大牟田市立手鎌小学校	柴田祐道	42	奈良市立平城小学校	村上雄太

(2) 学生のESDティーチャー (8名)

1	教育学部学校教育教員養成課程英語教育専修	下原 舞
2	教育学部学校教育教員養成課程英語教育専修	櫓 乃里花
3	教育学部学校教育教員養成課程社会科教育専修	足立 繁郁
4	教育学部学校教育教員養成課程社会科教育専修	北 将伍
5	教育学部学校教育教員養成課程音楽教育専修	狗飼 菜々子
6	教育学部学校教育教員養成課程美術教育専修	上田 薫
7	教育学部学校教育教員養成課程家庭科教育専修	福井 彩乃
8	教育学部学校教育教員養成課程家庭科教育専修	東尾彩夏

SDGs の理解促進

奈良教育大学 中澤 静男

1. SDGs について

2015 年 9 月ニューヨーク 国連持続可能な開発サミット

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」

その中心が「持続可能な開発目標」Sustainable Development Goals (SDGs)

2030 年までの達成を目指す 17 の目標と 169 のターゲット

◇持続可能な開発目標 (SDGs) (出典：外務省仮訳)

目標 1 (貧困)

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。

目標 2 (飢餓)

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

目標 3 (保健)

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

目標 4 (教育)

すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。

目標 5 (ジェンダー)

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。

目標 6 (水・衛生)

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。

目標 7 (エネルギー)

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

目標 8 (経済成長と雇用)

包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用 (ディーセント・ワーク) を促進する。

目標 9 (インフラ、産業化、イノベーション)

強靱 (レジリエント) なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。

目標 10 (不平等)

各国内及び各国間の不平等を是正する。

目標 11 (持続可能な都市)

包括的で安全かつ強靱 (レジリエント) で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

目標 12 (持続可能な生産と消費)

持続可能な生産消費形態を確保する。

目標 13 (気候変動)

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

目標 14 (海洋資源)

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。

目標 15（陸上資源）

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。

目標 16（平和）

持続可能な開発のための平和で包括的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度を構築する。

目標 17（実施手段）

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

2. SDGs と MDGs

（1）MDGs（ミレニアム開発目標）：2015 年までに達成する 8 つの目標

目標 1：極度の貧困と飢餓の撲滅

目標 2：初等教育の完全普及の達成

目標 3：ジェンダー平等推進と女性の地位向上

目標 4：乳幼児死亡率の削減

目標 5：妊産婦の健康の改善

目標 6：HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止

目標 7：環境の持続可能性確保

目標 8：開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

（2）MDGs から SDGs へ

①MDGs 作成に至るまで

第二次世界大戦後、多くの植民地が独立→途上国へ

途上国の開発として進められた「経済開発」 トリクルダウン理論の失敗

これからの開発は人間開発中心でなければならない。→ MDGs の①～⑥

多国籍企業による途上国の環境破壊はあったものの、環境保全は⑦のみ

（『バナナと日本人』（鶴見良行、1982 年）『エビと日本人』（村井吉敬 1988 年））

②MDGs の成果と課題

・極度の貧困と飢餓の撲滅：1990 年の貧困人口約 17 億人 →2015 年・8 億人

・普遍的初等教育の達成： 2000 年の就学率・83% → 2015 年・91%

・ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上：

1990 年の女子の就学率は男子の 74% →2015 年女子の方が男子を上回る

・乳幼児の死亡率の削減：5 歳未満の子どもの死亡率は 1 / 3 に

・妊産婦の健康の改善：妊産婦の死亡率を 1 / 4 にが目標 → 1 / 2

・HIV／エイズ、マラリア、その他疾病の蔓延の防止：ほぼ目標を達成

▼残された課題

▼約 8 億人が極度の貧困状態・▼経済格差の拡大・▼男女間の不平等（特に意思決定に関して）

▼地球温暖化、▼生物多様性の保全、▼戦争・紛争により毎日 42000 人が難民となっている

③MDGs と SDGs を比較する

MDGs : ミレニアム開発目標	SDGs : 持続可能な開発目標
・ 2000 年～2015 年 ・ 8 つの目標 ・ 人間開発・社会開発が中心 (人間開発：教育・健康・貧困・飢餓・平等などの改善により、その人が本来持っている能力の実現を図る) ・ 途上国の生活レベルの向上	・ 2016 年～2030 年 ・ 17 の目標と 169 のターゲット ・ 社会・環境・経済のバランスのとれた開発 ・ すべての国が対象

④MDGs から SDGs への変化の要因：2000 年～2015 年までの間で世界が変わった

◇MDGs が策定された 2000 年時点、ゴールである 2015 年は、2000 年の延長線にある社会

◇SDGs は「我々の世界を変革する」に表されるように、2015 年時点の社会とゴールである 2030 年の世界は「違う社会」を想定している。

◇違いをもたらした要因

- ・ 2000 年～2015 年に発生した 2 つの大きな事件

2001 年 9 月 11 日

→ 国際協調路線の崩壊 分断、紛争、テロ、難民の増加、軍事費の拡大、

2011 年 3 月 11 日

→ 放射能汚染、原発からの撤退とエネルギー・環境問題への関心の高まり、

※次世代への責任感、自然への態度の変化、グローバル化の実感、防災意識の高まり

- ・ 人類社会への警告の現実化

2009 年 プラネタリー・バウンダリー（地球の限界 ヨハン・ロックストローム）

9 つのプラネタリー・バウンダリー

①気候変動、②淡水の消費、③成層圏オゾン層の破壊、④土地利用の変化、⑤生物多様性の損失率、⑥窒素及びリンによる汚染、⑦化学物質汚染、⑧大気汚染またはエアロゾル負荷、⑨海洋酸性化 について定量的に評価

▼地球の生命維持システムが限界に達しつつある

3. SDGs を分類してみる

①SDGs の 17 のゴールの中で MDGs の①～⑥を引き継いだゴール（6 つ）

②特に環境問題に関するゴール（3 つ） _____

③特に経済問題に関するゴール（3 つ） _____

④その他社会問題に関するゴール（3 つ） _____

⑤実施手段（1 つ） _____

4. 地球的諸課題を考える

(1) 持続可能な社会は経済・環境・社会のバランスのよい社会だと言われています。

社会・経済・環境に関する地球的諸課題を3つずつ書いてください。

社会に関する問題	経済に関する問題	環境に関する問題

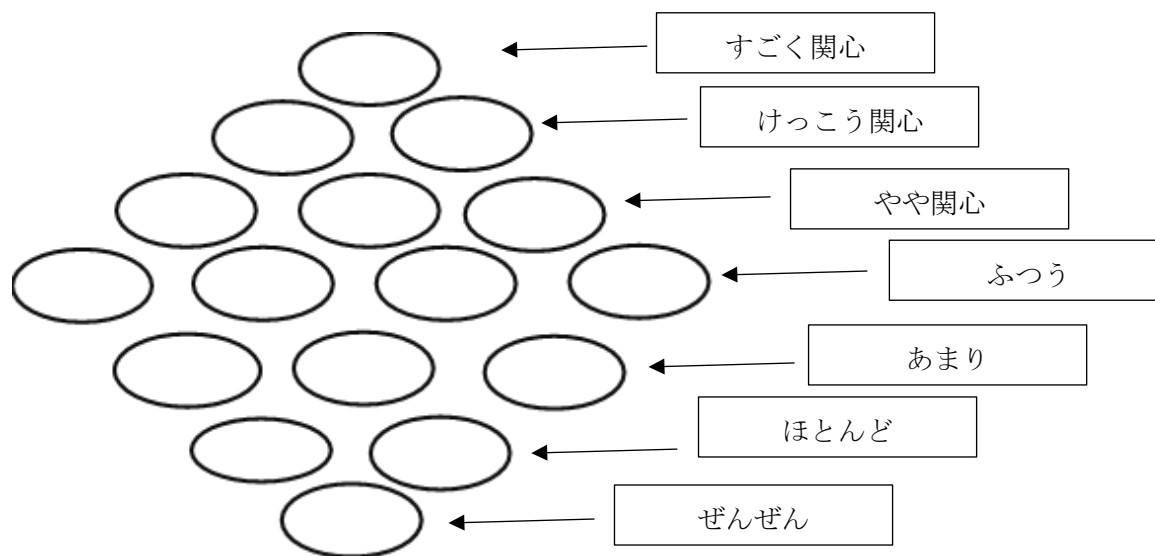
(2) SDGsはこれから達成すべき目標です。ということは、そこには解決しなければならない地球的課題が存在するということです。次の問題は、SDGsのどの目標と関わっているのでしょうか？

() に目標番号を書いて下さい。ただし、1つとは限りません。

- ①7億人が深刻な水不足に陥る恐れがある。()
- ②予防可能な病気で毎日15000人が亡くなっている。()
- ③5人に1人の子どもが学校に通うことができていない。()
- ④若者の5人に1人は、学校にも仕事にも参加できていない()
- ⑤インターネット普及率は、先進国(81%)・開発途上国(40%)・後発開発途上国(18%)()
- ⑥20億人はごみ収集サービスを利用できていない。()
- ⑦気温は上昇し続けている。()
- ⑧世界で5億3500万人(4人に1人)の子どもが紛争地域で暮らしている。()
- ⑨絶対的貧困者の46%は14歳未満の子どもである。()
- ⑩世界の8人の大富豪が、世界人口の半分である36億人分の資産を持っている。()
- ⑪8億人が栄養不良の状態にある。()
- ⑫5歳未満に亡くなる子どもが540万人いる。()
- ⑬海洋酸性度は、産業革命前と比較して26%上昇している。()
- ⑭読み書きができない大人が7億8100万人いる。()
- ⑮42億人が安全に管理されたトイレを使えていない。()
- ⑯1億5200万人の子どもが児童労働に従事している。()
- ⑰10億人が電力供給を受けていない。()
- ⑱年間で521万ヘクタールの森林が破壊されている。()

(3) SDGs ダイヤモンドランキング

①～⑯について、あなたの関心の度合でランキングを作成してください。⑰はのぞく。



上位3つについて、それを選んだ理由を書いて下さい。

メモ

ESDの学習理論

奈良教育大学 中澤 静男

1. 持続可能な社会の創り手に育てたい価値観とそれを育む活動

- ①世代間の公正を意識する
- ②世代内の公正を意識する
- ③自然環境・生態系の保全を重視する
- ④人権・文化を尊重する
- ⑤幸福感に敏感になる。幸福感を大切にする。

A：利他的活動（ボランティア活動）

B：自然との交歓

C：人との交歓

2. 持続可能な社会の創り手を育てるための心理学的考察

（1）利他的活動（ボランティア活動）を促すために



マズローの欲求の5段階説より

承認欲求が満たされることで、「自分も世の中のために何かしたい」「人の役に立つことがしたい」という自己実現の欲求が促される。

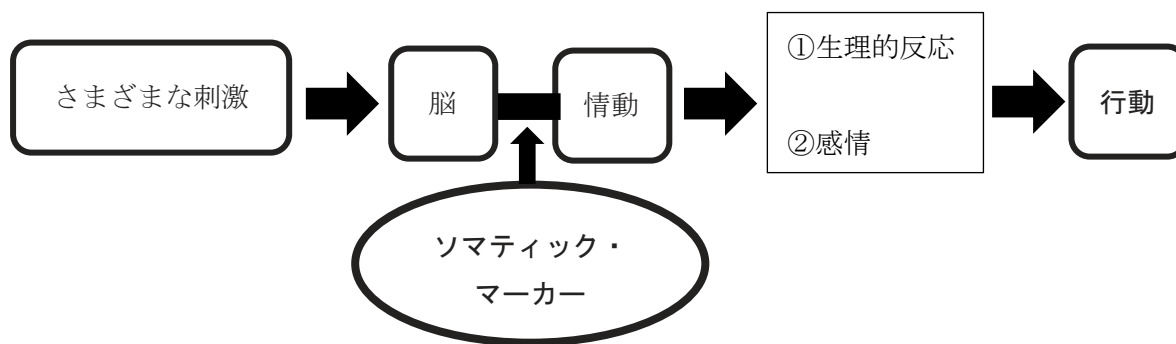
自己による承認と他者からの承認

親・教員は子どもにとって「特別な他者」

努力していることを見出し、承認・応援するという姿勢

（2）ライフスタイルを変容するために（ESDは価値観と行動の変容を促す教育）

ダマシオのソマティック・マーカー仮説の援用



・ソマティック・マーカー：脳内信号

その行動によってもたらされるかもしれないものに注意をむけさせるための信号

ネガティブ信号 → 警報の役割

ポジティブ信号 → 動因の役割

意思決定の正確さと効率に貢献する役割がある

・ソマティック・マーカーが情動のきっかけをつくる

「人は理屈で考えればやらない方がいいとわかっていることもするし、まったくナンセンスに思えることもヒトの行動に大きな影響を及ぼすことがある。これは情動が理性を越えて行動を支配するからである。」（櫻井武）

- ・「われわれの多くが持っている自動化されたソマティック・マーカー装置は、教育により、その文化の合理性の標準に適応するものとなっている。つまり、ルーツは生体調節にあるにもかかわらず、その装置は特定の社会での生存を確かなものとする文化的規定に合うように調整されている。」（アントニオ・ダマシオ）
- ・ソマティック・マーカーを育てる
知識の網の目をつくる
繰り返し経験すること、繰り返し学習することで、網の目を細かくすることができる。

3. ESDの視点

見方・考え方	身の回りでよさの見つけ方	課題の見つけ方
①多様性	色々なものがある方がいい	多様性に乏しいのは問題だ
②相互性	つながっている方がいい	孤立している・循環していないのは問題だ
③有限性	ものには限りがある	もったいないのは問題だ
④公平性	世代内と世代間が考えられている	不公平なのは問題だ
⑤連携性	なかまはずれをつくっていない	何かを排除しているのは問題だ
⑥責任性	協力がある・やりとげている	責任転嫁、やりっ放し、言いつ放しは問題だ

①・②・③は主に自然環境・社会環境を評価するときの視点

④・⑤・⑥は主に人の営みや集団の意思決定を評価するときの視点

A：あなたの出身地のよさを多様性、相互性・循環性、有限性の視点から述べてください。

B：あなたの知り合いで公平性、連携性、責任性の視点から素晴らしい人を紹介してください。

4. ESDを通して身に付けたい資質・能力

クリティカルシンキング：物事を問い直し、新たな方法を見いだす力、代替案の思考力

システムズシンキング：物事を総合的・構造的にとらえる力、システムとして理解する力

長期的思考力：データに基づき、先のことを考える力

コミュニケーション力：意見を聞いたり、発信したりする力

協働的問題解決力：他の人と協力して最後まで取り組む力

アクティブ・ラーニングにおける子どもの意識の流れ

導入：ソマティック・マーカー 「なんだか腑に落ちない。気持ちが悪い。」

課題発見：クリティカルシンキング ◇課題設定と仮説の作成

調査活動（グループ学習）：コミュニケーション力・協働的問題解決力

話し合いと考察：長期的思考力・システムズシンキング・コミュニケーション力

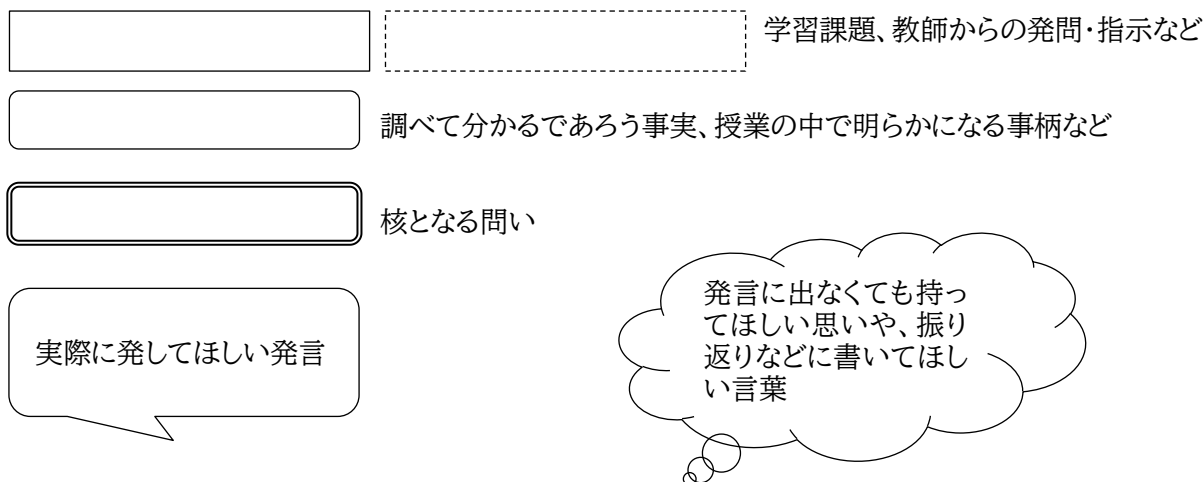
行動化：協働的問題解決力

◆どれだけ具体的に授業をイメージできるか

子どもの反応(発言、疑問、思い、どう動くか...)をイメージしないと、具体的にはならない

単元構想図

具体的な授業をイメージして、児童が発するであろう言葉や、もつであろう思いなどをマップ化して、学習の流れを可視化したもの（別紙参照）



◆問いの質を高める

探究的な学びを進めていくには、問いの質が重要！

- ・単元の目標につながるもの
 - ・単元の流れで必然性があるもの
 - ・答えがいくつあるもの
- 言葉やその使い方にこだわる

子どもの疑問や思いから醸成されたもの
単なる教師からのトップダウンではないもの

- ① 単元を通して核となる問い
- ② ①を深めるための問い
- ③ ①を発展的に考える問い

単元展開の中で、こういうことについて、考えさせたい、話し合わせたい、自分なりの行動計画を立てさせたいというものを明確にできるなら、どの問いから考えてもいいと思います。

◆ESDの授業を構想する際には・・・

その題材(教材)を通して学習することで、

- ・どんなESDの見方・考え方を働かせることができるのか
- ・どんなESDの資質・能力を育てることができるのか
- ・どのようにESDの価値観を変革させようとするのか
- ・どのようなESD的な行動化を求めようとするのか

視点、資質・能力、価値観については、項目だけを羅列するのではなく、学習内容に落とし込んで、その説明を書く。



SDGsの何を達成することに貢献するのか

5年社会科「これからの食料生産とわたしたち」(全5時間)

みつめる①

これまでの学習から、食料生産についての問題点を整理してみよう。

生産する人がどんどん減っていなくなってしまう。

環境にも配慮していないと食料がなくなる。

食料自給率のグラフ

このままじゃ全部輸入しなくては行けなくなる。

輸入できなかったら生きていけない。

日本の食料生産は、わたしたちがどうすれば安心できるものになるのだろうか？

しらべる②

日本はなぜこんなにも食料を輸入するのだろうか？

食料安全保障

日本の農家の現状(高齢化、零細化)
フードマイレージ

国内産か？ 外国産か？

生産者が豊かになるには？

世界農業遺産(佐渡・阿蘇)
ブランド化
「朱鷺と暮らす郷づくり」「棚田米」
嗜好の画一化

輸入できなくても大丈夫なぐらいの食料は必要だ。

外国産の方が圧倒的に安いのは、大規模に作っているからだ。

農家の人たちが儲かる方法を考えないと。

農業や水産業をしたいと思う人が増えないとだめだ。

安全かどうか分からない。だれがどんなふうに作ったかが分からないと…。

遠くから運ぶと環境に悪い。「地産地消」はいろんな意味で大切なんだ。

環境を守ることと農家の人が豊かになることが両立するのは難しいのかなあ。

ふかめる①

生産者もわたしたちも、環境も豊かになるには、今後どうすればよいだろう？

生産者

ブランド化
直接販売
共同営農、法人化 など
↓
様々な工夫や努力はされている

消費者

「地産地消」「旬産旬消」「土産土法」
食品ロス
↓
普段の食事や買い物の仕方など、結

消費者が求めるものを作らないと儲からない。外国産に負けない「何か」が必要なんじゃ…

産直市場、道の駅、スーパーの産直コーナーな

地産地消だし、いろんな意味でこれは結構いいかも…。活用する価値がある。

ひろげる①

わたしたちは、今後どのように行動していけばよいだろう？

買いすぎや食べ残しをしないで食品ロスを減らしていく。

安さだけで買うのではなく、環境や作った人のことなどいろいろなことを考えて選ぶことが大切。

自分たちの「食」について根本から考え直す必要がある。

○この題材で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・ 相互性…食料生産やその輸送は自然と密接な関係にあり、これを無視して続けていけば地球環境に大きな負荷をかけること
- ・ 連携性…これからの食料生産は、生産者だけが努力するのではなく、私たちが地球全体のことを考えて努力することが大切であること。
- ・ 責任性…私たちが食生活や消費行動を変えていくことが何よりも大切であること。

○この学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・ 批判的に考える力（クリティカル・シンキング）
生産者や環境にも配慮した食生活や消費行動をしているか、自分の生活を見つめ直す。
- ・ 多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）
「生産者も、消費者も、地球環境も豊かになるような食料生産とは？」について考える。
- ・ コミュニケーションを行う力
これからの食料生産や、自分たちの食生活や消費行動について、意見交流を通して自分の考えをつくりあげる。

○この学習を通して育てたいESDの価値観

- ・ 世代内の公正
生産者も、消費者も、地球環境も豊かになるような食料生産を追求することが大切である。
- ・ 自然環境や生態系保全を重視する
環境に配慮した農業生産でないと、環境に負荷をかけてしまい、「豊かな生産」とは言えない。
- ・ 幸福感を大切にする
物が、いつでも、どんな種類も、あり余るほど手に入ることが「本当の豊かさ」ではない。

○達成が期待されるSDGs

- 2 持続可能な農業の促進
- 12 持続可能な生産・消費形態の確保
- 15 陸域生態系の保護

資料

※E S Dの視点（見方・考え方）

見方・考え方	身の回りでよさの見つけ方	課題の見つけ方
A 多様性	色々なものがある	多様性に乏しい、画一的
B 相互性	つながっている、循環している	孤立している・循環していない
C 有限性	もったいないの文化がある 物を大切に長く使う文化がある	使い捨てがあたりまえになっている 大量生産・大量消費の文化がある
D 公平性	世代内と世代間を考えている	不公平、今さえ、自分さえよければいい
E 連携性	分け隔てなく、なかまづくり	なかまはずれをしている、排除している
F 責任性	協力がある・やりとげている	責任転嫁、やりっ放し、言いっ放し

※E S Dで育てたい資質・能力

- ・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）
- ・未来像を予測して計画を立てる力
- ・多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）
- ・コミュニケーションを行う力
- ・長期的思考力（データを使って先のことを考える力）
- ・協働的問題解決力（色々な人を巻き込み、協力して問題解決する力）

※E S Dで育てたい価値観

- ・世代間の公正
- ・世代内の公正
- ・自然環境、生態系の保全を重視する。（生物多様性の重視）
- ・人権・文化を尊重する。（文化多様性の尊重）
- ・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

※SDGs

目標 1：貧困の撲滅	目標 12：生産と消費
目標 2：飢餓の解消	目標 13：気候変動
目標 3：健康・福祉	目標 14：海洋資源
目標 4：教育	目標 15：陸上資源
目標 5：ジェンダー平等	目標 16：平和・公正
目標 6：水と衛生	目標 17：グローバル・パートナーシップ
目標 7：エネルギー	
目標 8：経済成長と雇用	
目標 9：インフラ	
目標 10：不平等解消	
目標 11：まちづくり	

【ESD 学習指導案様式例】

1. 単元名

2. 単元の目標

- ・知識・技能に関わる目標
- ・思考力・判断力・表現力に関わる目標
- ・主体的に学びに向かう態度に関わる目標

3. 単元について

(1) 教材観

取り上げる教材のE S D的な価値や、教科における本教材を用いた学習内容や系統の他、学ぶことで養うことができる資質・能力等を記述します。

(2) 児童・生徒観

単元の学習を行う前の子どもの学習内容に対する関心や既存の知識などを記述します。

(3) 指導観

教科に応じた指導上の工夫や、E S Dの資質・能力を養うための指導上の工夫について記述します。

4. 単元の評価規準（単元の目標との整合性に注意しなければなりません）

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度

5. E S Dとの関連

- (1) 本学習で働かせるE S Dの視点（見方・考え方）
- (2) 本学習を通して育てたいE S Dの資質・能力
- (3) 本学習で変容を促すE S Dの価値観
- (4) 達成が期待されるS D G s

6. 展開の概要（全○時間）

学習活動	●学習への支援 ・予想される児童の反応	○評価 ・備考

2020 年度 ESD ティーチャープログラム 大牟田会場 開催要項

1. 目的と内容

2015 年に開催された国連持続可能な開発サミットにおいて「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、その中心が持続可能な開発目標（SDGs）である。日本においても、今年度から全面実施された新しい学習指導要領の前文に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記されるなど、持続可能な社会づくりにおいて教育が担う役割には大きなものがある。本プログラムは、持続可能な社会の担い手を育成する教育である ESD（Education for Sustainable Development）を適切に指導できる教員に求められる資質・能力を明らかにし、その力量形成を目的に以下の内容で実施するものである。

（１）SDGs の理解促進、（２）ESD の学習理論、（３）優良実践事例の分析、（４）授業構想案の相互検討と ESD 学習指導案の作成、（５）ESD 学習指導案の相互検討

5 回の研修に参加し、毎回のミニレポートを作成すると共に、ESD 学習指導案を作成した現職教員等には、奈良教育大学学長より、「ESD ティーチャー」の認定証を授与する。

2. 主催 奈良教育大学、近畿 ESD コンソーシアム

後援 大牟田市教育委員会

3. 開催日時と研修内容・担当者

（１）8 月 1 日（土）

9 時 30 分～10 時 00 分：受付

10 時 00 分～12 時 00 分：SDGs の理解促進 担当：大西浩明・中澤静男

13 時 00 分～15 時 30 分：ESD の学習理論 担当：大西浩明・中澤静男

（２）8 月 22 日（土）

9 時 30 分～10 時 00 分：受付

10 時 00 分～12 時 00 分：優良実践事例の分析

担当：河野晋也（大分大学）・島俊彦（大牟田市立吉野小学校）

圓山裕史（奈良市立飛鳥小学校）・中澤静男

13 時 00 分～15 時 30 分：授業構想案の相互検討と ESD 学習指導案の作成

担当：中澤静男、河野晋也・圓山裕史

（３）10 月 24 日（土）

12 時 30 分～13 時 00 分 受付

13 時 00 分～15 時 30 分：ESD 学習指導案の相互検討 担当：大西浩明・中澤静男

4. 会場 大牟田文化会館

5. 参加対象 大牟田市内の教員 15 名程度

6. 参加料 無料

7. 参加申し込み 大牟田市教育委員会指導室

8. 作成した ESD 学習指導案の送付先

奈良教育大学教育研究支援課 ESD 事務担当：西田 k-soumu@nara-edu.ac.jp

※大牟田市教育委員会で集め、一括してご送付いただいても結構です。

9. ESD ティーチャー認定証について 3 月末に送付予定

2020 年度 ESD ティーチャープログラム 山形会場 開催要項

1. 目的と内容

2015 年に開催された国連持続可能な開発サミットにおいて「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、その中心が持続可能な開発目標(SDGs)である。日本においても、今年度から全面実施された新しい学習指導要領の前文に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記されるなど、持続可能な社会づくりにおいて教育が担う役割には大きなものがある。本プログラムは、持続可能な社会の担い手を育成する教育であるESD(Education for Sustainable Development)を適切に指導できる教員に求められる資質・能力を明らかにし、その力量形成を目的に以下の内容で実施するものである。

(1)SDGsの理解促進、(2)ESD の学習理論、(3)優良実践事例の分析、(4)授業構想案の相互検討と ESD 学習指導案の作成、(5)ESD 学習指導案の相互検討

5 回の研修に参加し、毎回のミニレポートを作成すると共に、ESD 学習指導案を作成した現職教員等には、奈良教育大学学長より、「ESDティーチャー」の認定証を授与する。

2. 主催 奈良教育大学、近畿 ESD コンソーシアム

3. 後援(予定) ESD 活動支援センター、東北地方 ESD 活動支援センター、山形大学附属博物館

4. 開催日時 【研修Ⅰ】2020年8月9日(日)～10日(月) 10時00分～17時00分

内容：(1)～(4)

【研修Ⅱ】2020年11月21日(土) 13時00分～16時00分 内容：(5)

5. 会場 研修Ⅰ 食糧会館 〒990-0047 山形市旅籠町三丁目1-4

研修Ⅱ 山形大学

6. 参加対象 ESDに関心のある教員等

7. 参加費 無料(ただし旅費・宿泊費等は参加者負担)

8. 研修内容

◇8月9日(日)

9時30分～10時00分 受付

10時00分～10時10分 開会行事

10時10分～12時10分 ESDの学習理論と実践例

担当：大西浩明・中澤静男

実践報告：圓山裕史(奈良市立飛鳥小学校)・新宮済(奈良市立平城小学校)

13時30分～16時00分 SDGsの理解促進 担当：中澤静男

16時00分～17時00分 情報交換会

◇8月10日(月)

9時30分～10時00分 受付

10時00分～12時00分 ESDの学習理論の理解促進 担当：中澤静男

13時30分～16時00分 授業構想案の相互検討とESD学習指導案の作成について

担当：中澤静男・大西浩明・新宮済・圓山裕史

16時00分～17時00分 情報交換会

◇11月21日(土)

12時30分～13時00分 受付

13 時 00 分～15 時 50 分 ESD 学習指導案の相互検討会

担当：中澤静男・大西浩明・新宮済

15 時 50 分～16 時 00 分 閉会行事・事務連絡

9. 参加申し込み

近畿 ESD コンソーシアムホームページ(<https://kinkiesd.xsrv.jp/>)、もしくは下の QR コードより参加申し込みフォームにアクセスしてお申し込みください。参加申し込みの締め切りは、8 月 3 日(月)とさせていただきます。

10. 問い合わせ先

奈良教育大学教育研究支援課ESD事務担当：西田

メール k-soumu@nara-edu.ac.jp

電話 0742-27-9367



2020 年度 ESD ティーチャープログラム奈良教育大学附属中学校 開催要項

1. 目的と内容

2015 年に開催された国連持続可能な開発サミットにおいて「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、その中心が持続可能な開発目標（SDGs）である。日本においても、今年度から全面実施された新しい学習指導要領の前文に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記されるなど、持続可能な社会づくりにおいて教育が担う役割には大きなものがある。本プログラムは、持続可能な社会の担い手を育成する教育である ESD（Education for Sustainable Development）を適切に指導できる教員に求められる資質・能力を明らかにし、その力量形成を目的に以下の内容で実施するものである。

（１）SDGs の理解促進、（２）ESD の学習理論、（３）優良実践事例の分析、（４）授業構想案の相互検討と ESD 学習指導案の作成、（５）ESD 学習指導案の相互検討

5 回の研修に参加し、毎回のミニレポートを作成すると共に、ESD 学習指導案を作成した現職教員等には、奈良教育大学学長より、「ESD ティーチャー」の認定証を授与する。

2. 主催

奈良教育大学、近畿 ESD コンソーシアム
奈良教育大学附属中学校

3. 開催日時と研修内容・担当者

（１）8 月 6 日（木）・オンラインで開催

10 時 00 分～12 時 00 分：SDGs の理解促進 担当：中澤静男

13 時 00 分～15 時 00 分：ESD の学習理論の理解促進 担当：中澤静男

（２）8 月 7 日（金）・対面で開催

10 時 00 分～12 時 00 分：優良実践事例の分析・教材開発の方法

担当：大西浩明・太田満・中澤静男

13 時 00 分～15 時 00 分：ESD 単元構想案の相互検討・ESD 学習指導案の作成

担当：大西浩明・太田満・中澤静男

（３）12 月 19 日（土）

9 時 30 分～12 時 30 分：ESD 学習指導案の相互検討

担当：大西浩明・祐岡武志・中澤静男

4. 会場 奈良教育大学附属中学校

5. 参加対象 奈良教育大学附属中学校公開研修講座（教科・総合）として実施

6. 参加料 無料

2020 年度 ESD ティーチャープログラム 長浜市立永原小学校 開催要項

1. 目的と内容

2015 年に開催された国連持続可能な開発サミットにおいて「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、その中心が持続可能な開発目標（SDGs）である。日本においても、今年度から全面実施された新しい学習指導要領の前文に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記されるなど、持続可能な社会づくりにおいて教育が担う役割には大きなものがある。本プログラムは、持続可能な社会の担い手を育成する教育である ESD（Education for Sustainable Development）を適切に指導できる教員に求められる資質・能力を明らかにし、その力量形成を目的に以下の内容で実施するものである。

（１）SDGs の理解促進、（２）ESD の学習理論、（３）優良実践事例の分析、（４）授業構想案の相互検討と ESD 学習指導案の作成、（５）ESD 学習指導案の相互検討

5 回の研修に参加し、毎回のミニレポートを作成すると共に、ESD 学習指導案を作成した現職教員等には、奈良教育大学学長より、「ESD ティーチャー」の認定証を授与する。

2. 主催 奈良教育大学、近畿 ESD コンソーシアム

3. 開催日時と研修内容・担当者

（１）11 月 30 日（月）

15 時～17 時 SDGs の理解促進
担当：中澤静男

（２）12 月 25 日（金）

13 時～15 時 ESD の学習理論
担当：中澤静男

（３）12 月 25 日（金）

15 時～17 時 優良実践事例の分析と授業構想案の作成について
担当：大西浩明

（４）1 月 14 日（木）

15 時～17 時 授業構想案の相互検討と ESD 学習指導案の作成について
担当：大西浩明・新宮済

（５）2 月 17 日（水） ESD 学習指導案の相互検討会

担当：大西浩明・中澤静男

4. 会場 長浜市立永原小学校

5. 参加対象 長浜市立永原小学校教職員等

令和2年度 奈良ESD連続セミナー開催要項

1. 目的

学習指導要領が改訂され、前文や総則に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記された新学習指導要領が、幼稚園では2018年度より、小学校は2020年度、中学校は2021年度から全面实施、高等学校では2022年度より年次進行で実施される。新学習指導要領が求める教育を実施するためには、教育内容の捉え方の見直しや教育方法の改善が必須であり、ESDを適切に指導する資質能力の育成が、教員養成及び現職教員研修にとって喫緊の課題であることは間違いない。そこでESDの指導者として求められる資質能力を育成することを目的に、本連続セミナーを開催する。

2. 開催日時 時間はいずれも19時～21時

- ①6月10日(水)・②6月25日(木):SDGsの理解促進
- ③7月27日(月):ESDの理論研修 ④8月7日(金):優良実践事例の検討
- ⑤8月31日(月)・⑥9月24日(木):授業構想案の相互検討
- ⑦10月29日(木)・⑧11月26日(木):学習指導案の相互検討
- ⑨1月07日(木)・⑩1月21日(木):学習指導案の最終確認
- ⑪2月12日(金):研修の振り返り

3. 会場・方法 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール ※当面はZoomを用いたオンラインで実施

4. 研修内容

- (1) 持続可能な開発目標(SDGs)の内容理解
- (2) ESDの学習理論
- (3) 優良実践事例の分析
- (4) ESD授業構想とESD学習指導案・実践報告の作成
- (5) ESD学習指導案・実践報告の相互検討

5. ESDティーチャープログラム(現職教員向け)との関連

- (1) ESDティーチャーコース
 - ①ESD連続セミナーへの5回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
 - ②ESD教材開発とESD学習指導案の作成、1月末日までに提出
- (2) ESDマスターコース
 - ①ESD連続セミナーへの7回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
 - ②ESD教材開発とESD学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成(6P程度)し、1月末日までに提出(考察をしっかりと記載すること)。
 - ③ESDティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
- (4) ESDスペシャリストコース
 - ①ESD連続セミナーへの7回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
 - ②ESD教材開発とESD学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成(6P程度)し、1月末日までに提出(考察をしっかりと記載すること)。
 - ③ESDティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
 - ④学会や研究大会での実践事例の発表か、ESD研修会の開催と報告書の提出

※3月末に学長より ESD ティーチャー、ESD マスター、ESD スペシャリストの認定証が授与されます。

※作成された学習指導案や実践事例は近畿 ESD コンソーシアムの HP に掲載します。

※発表のための研究大会参加旅費は、コンソーシアムが負担します。

【手続き】

①研究大会参加旅行計画を中澤までメールで提出

A4 で 1 枚 研究大会の名称、主催者、開催日時・場所 旅程（交通手段）・宿泊先（名前・住所）
その他に発表内容（大会主催者に送付した資料）

※交通手段は公共交通機関です。船、飛行機、レンタカーを使用する場合は相談してください。

②報告書の作成

大会で配付される研究大会冊子の表紙のコピー

報告資料（当日配布したもの・パワーポイントを印刷したもの等）

6. ESD に関する研修会（ESD ティーチャープログラムにカウントできます）

それぞれ 5 回実施します。開催日については、別紙参照。

◇授業づくりセミナー

①川上村森と水の源流館「水の恵み」授業づくりセミナー

②春日山原始林授業づくりセミナー

③県立万葉文化館「万葉集」授業づくりセミナー

7. 実践発表・先進地視察について

①ESD 実践交流会

全国のユネスコスクールに参加を呼び掛け、実践交流会を開催します。（12 月 26・27 日：本学）

②日本 ESD 学会研究大会（9 月 19・20 日（成蹊大学）及び近畿方研究会（7 月 25 日（本学））などの地方大会：日本 ESD 学会の会員だけが、発表できます。参加だけなら誰でも可。

③ユネスコスクール全国大会：

④世界遺産学習全国サミット：

⑤八名川小学校 ESD パワーアップ交流会（東京都江東区立八名川小学校）：

⑥ESD 活動支援センター ESD フォーラム：

⑦近畿 ESD フォーラム：

※ その他、相談に応じます。

近畿 ESD コンソーシアム第 1 回オンライン ESD 連続セミナー概要報告

奈良教育大学 中澤静男

◇ 開催日時 2020 年 6 月 10 日（水）19 時 00 分～21 時 10 分

◇ 方法 Zoom によるオンラインセミナー

◇ 参加者数 43 名

◇ 内容

「ESD ティーチャープログラムオリエンテーションと MDGs・SDGs 理解促進」

1. ESD ティーチャープログラム

（1）プログラム開発の経緯

平成 27 年度日本／ユネスコパートナーシップ事業

：（5）教員研修プログラムのあり方に関する調査研究を受託

①ESD に取り組む教員に求められる資質能力を明らかにする。

②研修プログラムとして ESD ティーチャープログラムを開発。

（2）プログラムの概要

①学生を対象とした ESD ティーチャープログラム

- ・科目履修、ESD 実践（2 回以上）、ESD 演習（2 回以上）
- ・3 回生からセミナー（5 回以上参加）での ESD 学習指導案の作成

②現職教員等を対象とした ESD ティーチャープログラム

SDGs の理解促進、ESD の理論研修、優良実践事例の分析と授業構想案の作成

授業構想案の相互検討と ESD 学習指導案の作成

ESD 学習指導案の相互検討

③本セミナー以外の研修

- ・森と水の源流館授業づくりセミナー：水の恵み
- ・県立万葉文化館授業づくりセミナー：万葉集・明日香
- ・春日山原始林授業づくりセミナー：生態系の保全・シカとの共生

④レベルアップシステム

- ・ESD ティーチャー：ESD 学習指導案の作成
- ・ESD マスター：ESD の授業実践と実践報告の作成
- ・ESD スペシャリスト：学会・研究大会等での ESD 実践の発表あるいは ESD 研修会の開催

⑤現在の認定者数

学生の ESD ティーチャー 23 名

現職教員等の ESD ティーチャー 75 名

現職教員の ESD マスター 17 名

現職教員の ESD スペシャリスト 9 名

2. 新学習指導要領と ESD

（1）ESD の位置づけ

前文及び総則に明記された「持続可能な社会の創り手」の育成。それにより、総合的な学習の時間や特定の教科だけでなく、すべての学校教育において、ESD を理念的背景とした教育が求められる。

（2）「生きる力」を構成する 3 つの構成要素

- ①教科等の枠組の中で育てる資質・能力
- ②全ての学習の基盤としての資質・能力（言語能力、情報活用能力等）
- ③現代的な諸課題に対応するために必要な力←ESD との関連

(3) 見方・考え方の育成

見方・考え方は、断片的知識ではなく、知識を構造化する過程で育てられる。
 構造化（因果関係で結び付ける） 構造化された知識＝説明できる知識
 教科特有の見方考え方から教科横断的な学習による見方・考え方の融合・洗練化。
 さらに実社会を教材にした学習による社会で役立つ見方・考え方への洗練化。
 それを可能にするための「社会に開かれた教育課程」

(4) 「社会に開かれた」の意味

- ①学校教育に地域人材に協力してもらう（関わりが限定的）：各教科
- ②学校が地域に協力する（関わりが広範囲）：総合的な学習の時間・特別活動

(5) 学校でまず取りかかること

○現行の教育実践を見直す

- ESD を手がかりに見直し、意味を明確にして、方法を再考し、強弱をつける
- ・形骸化していないか？ 何のために、という目的を考える
- ・「活動あって学びなし」になっていないか？ 児童・生徒の振り返り、文章化を重視
- ・一斉授業でよいのか？ 「教える」から「一緒に探究する」へ

3. ESD の概要

Education for Sustainable Development （持続可能な開発のための教育）

目標：人々の社会づくりに関する価値観と行動の変容を促す教育

◎価値観について

- ・現代人の価値観：経済、市場主義

それをもたらしたのは国家の経済成長に資する人材育成・スキル開発を第一義的にめざしていた教育

- ・持続可能な社会の創り手の価値観：幸福・共生

CfT (Care for Thing) すべてのこと・もの・人に気にかける・大切にする：丁寧な暮らし方（中澤）

4. MDGs から SDGs へ

第二次大戦後の途上国における経済開発の失敗（×トリクルダウン理論）

→ これからは人間開発を中心に

①MDGs（ミレニアム開発目標）

1. 極度の貧困と飢餓の撲滅
2. 初等教育の完全普及の達成
3. ジェンダー平等推進と女性の地位向上
4. 乳幼児死亡率の削減
5. 妊産婦の健康の改善
6. エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延防止
7. 環境の持続可能性確保
8. グローバルなパートナーシップの推進



②SDGs（持続可能な開発目標）

- 目標 1：貧困の撲滅
- 目標 2：飢餓の解消
- 目標 3：健康・福祉
- 目標 4：教育
- 目標 5：ジェンダー平等
- 目標 6：水と衛生
- 目標 7：エネルギー
- 目標 8：経済成長と雇用
- 目標 9：インフラ
- 目標 10：不平等解消
- 目標 11：まちづくり
- 目標 12：生産と消費
- 目標 13：気候変動
- 目標 14：海洋資源
- 目標 15：陸上資源
- 目標 16：平和・公正
- 目標 17：グローバル・パートナーシップ



2030 年までの目標

17 の目標と 169 のターゲット

社会・環境・経済のバランスのとれた開発
すべての国が対象

③MDGs と SDGs 違いをもたらした

2つの大きな事件

○2001 年 9.11 アメリカ同時多発テロ

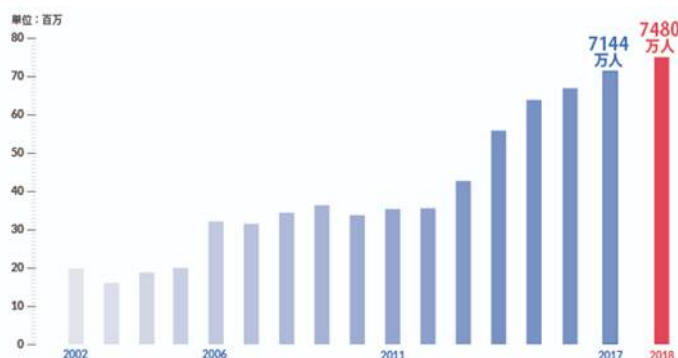
ナショナリズムの再生

宗教対立・分断

国際協調路線の後退

軍事費の拡大

難民の増加



世界の難民数

○2011 年 東日本大震災津波

原発の安全神話の崩壊、エネルギー問題への関心・防災意識の高まり

見えないものへの恐怖感と風評被害

5. SDGs を分類する

- (1) SDGs の 17 のゴールの中で MDGs の①～⑥を引き継いだゴール ①～⑥
- (2) 特に環境問題に関するゴール ⑦・⑬・⑭・⑮
- (3) 特に経済問題に関するゴール ⑧・⑨・⑫
- (4) その他社会問題に関するゴール ⑩・⑪・⑯
- (5) 実施手段 ⑰

SDGs 関心度ダイヤモンドランキングによる気づき

今回の連絡

6月25日（木）19時からです。

Zoom によるオンラインセミナー。

次回は受講学生（3回生以上）と ESD ティーチャーのマッチング、及び ESD ティーチャーを目指す現職教員等と ESD マスター・ESD スペシャリストのマッチングを行います。

それと、SDGs 理解促進が内容です。

第2回奈良ESD連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2020年6月25日(木) 19時～21時
- ◇方法 ZOOM を用いたオンライン研修会
- ◇参加者 三木、春日、柚木、河野、山方、中村、中村、中澤哲、中澤敦、高良、松好、新宮、川崎、高垣、圓山、西口、阿彌、相生、小谷、石田、浅井、吉田、島(現職教員)
 狗飼、津田、岩城、足立、下原、亀井、大橋、藤森、嶋田、西條、山崎、福田、山野、櫛、木村、北、(学部生) 谷垣(院生)
 中澤、大西、太田、杉山、森口(奈良教育大学) 45名

◇内容

【ESDティーチャー受講学生と指導を依頼する現職教員のマッチング】

氏名	専修	現職教員名
奥平 茜	国語教育	(中澤哲)
西條 秀哉	国語教育	石田
東尾 彩夏	家庭科教育	(圓山)
福井 彩乃	家庭科教育	圓山
櫛 乃里花	英語教育	中村
下原 舞	英語教育	山方
足立 繁郁	社会科教育	新宮
北 将伍	社会科教育	吉田
田中 隆寛	社会科教育	中澤哲
山本 健太	社会科教育	高良
亀井 望太	数学教育	大西
嶋田 智沙恵	数学教育	小谷
上田 薫	美術教育	阿彌
狗飼 菜々子	音楽教育	三木

◇現職教員の部

- ・ESDティーチャー認定を目指す方(5回以上・ESD学習指導案の作成)
 柚木・春日・中村・相生・谷村
- ・ESDマスター認定を目指す方(7回以上・実践報告の作成)
 高良・吉田・中村・樋口・小谷
- ・ESDスペシャリスト認定を目指す方(7回以上・実践発表、あるいは研修会を企画運営)
 山方

【SDGs理解促進2】

1. SDGsの特徴

- (1) MDGsを引き継いだ目標がある

- (2) 社会 (人間開発)・経済 (成長)・環境 (保全) のバランスのよい社会を目指している
- (3) 1つの目標が他の目標とつながっている

2. 目標の裏にある問題

SDG s は 2030 年までに達成すべき目標です。つまり、現在はそこに問題があるということを示しています。

(1) MDG s 後に残されていた問題

下の6つの問題は、SDG s のどの目標に含まれていますか。外務省仮訳を読んで () に番号を書いてください。

- ①約 8 億人が極度の貧困状態 (①・②・③)
- ②経済格差の拡大 (④・⑧・⑨・⑩)
- ③男女間の不平等 (特に意思決定に関して) (⑤・⑧・⑩)
- ④地球温暖化、生物多様性の保全 (⑦・⑬・⑭・⑮)
- ⑤戦争・紛争により毎日 42000 人が難民となっている (③・④・⑩・⑪・⑯・⑰)

(2) 各目標に関わる問題

以下の問題は、SDG s のどの目標に含まれていますか。 () に番号を書いてください。

- ①7 億人が深刻な水不足に陥る恐れがある。(⑥)
- ②予防可能な病気で毎日 15000 人が亡くなっている。(③)
- ③5 人に 1 人の子どもが学校に通うことができていない。(④)
- ④若者の 5 人に 1 人は、学校にも仕事にも参加できていない (④・⑧)
- ⑤インターネット普及率は、先進国 (81%)・開発途上国 (40%)・後発開発途上国 (18%) (⑨)
- ⑥20 億人はごみ収集サービスを利用できていない。(③・⑪)
- ⑦気温は上昇し続けている。(⑬)
- ⑧世界で 5 億 3500 万人 (4 人に 1 人) の子どもが紛争地域で暮らしている。(⑯)
- ⑨絶対的貧困者の 46%は 14 歳未満の子どもである。(①)
- ⑩世界の 8 人の大富豪が、世界人口の半分である 36 億人分の資産を持っている。(⑩)
- ⑪8 億人が栄養不良の状態にある。(②)
- ⑫5 歳未満に亡くなる子どもが 540 万人いる。(③)
- ⑬海洋酸性度は、産業革命前と比較して 26%上昇している。(⑭)
- ⑭読み書きができない大人が 7 億 8100 万人いる。(④)
- ⑮42 億人が安全に管理されたトイレを使えていない。(⑥)
- ⑯1 億 5200 万人の子どもが児童労働に従事している。(⑧・④)
- ⑰10 億人が電力供給を受けていない。(⑦)
- ⑱年間で 521 万ヘクタールの森林が破壊されている。(⑬・⑮)

(3) 日本に大きく関連する問題

- ①2015 年度の日本の子どもの貧困率は 13.9%で 7 人に 1 人が相対的貧困の状態にある。
- ②常勤雇用者の割合が減少し、パートや派遣など非正規雇用者が増加している。

- ③日本の食料自給率は 38 %であるが、年間 2759 万トンの食品を廃棄している（2016 年）。しかも、その内でまだ食べることができる食品ロスが 643 万トンである。
- ④日本のジェンダーギャップ指数は、153 ヶ国中 121 位である（2019 年）。
- ⑤水を流しっぱなしにした歯磨きで、1 回につき 6 リットルの水を無駄にしている。
- ⑥日本のエネルギー自給率は 9.6 %である。
- ⑦日本では、この 100 年間で 1.19℃の気温上昇がみられた。
- ⑧日本のプラスチック排出量は世界で 30 位。包装資材プラスチックでは 2 位。

◇食品廃棄と食品ロスの違いは？

◇賞味期限の「3 分の 1 ルール」とは？

◇食品ロスを減らす取組は？

（４）自分と世界の問題とのつながりに気づかせるために

（３）の①～⑧の問題を切り口に学習し、（２）の①～⑱の問題と自分との関わりに気づかせたいと思います。それぞれ、どのようにつなげることができますか？

（３）の日本の問題	つながる（２）の世界の問題
①	③・④・⑨・⑥・⑧・⑪・⑫・⑭・⑯・⑰ など
②	④・⑧・⑨・⑩・⑪・⑭・⑯ など
③	⑧・⑨・⑪・⑫・⑭・⑯ など
④	③・⑧・⑨・⑭・⑯ など
⑤	①・②・⑦・⑧・⑨・⑫・⑮・⑰ など
⑥	⑦・⑬・⑰・⑱ など
⑦	⑦・⑬・⑰・⑱ など
⑧	②・⑥ など

（５）コロナ禍をテーマに学習すると、どの目標とどの目標のつながりが見えてきますか？

次回は 7 月 27 日（月）19 時から です。

今回同様、Z o o m によるオンラインセミナーと開催します。

今回の内容は、E S D の学習理論が内容です。

第3回奈良ESD連続公開講座

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2020年7月27日(月) 19時～21時

◇方法 ZOOM を用いたオンライン研修会

◇参加者

◇内容：ESDの学習理論と授業構想案のつくりかた

1. 持続可能な社会の創り手に育てたい価値観とそれを育む活動

①世代間の公正を意識する

②世代内の公正を意識する

③自然環境・生態系の保全を重視する

④人権・文化を尊重する

⑤幸福感に敏感になる。幸福感を大切にする。

A：利他的活動（ボランティア活動）

B：自然との交歓

C：人との交歓

2. 持続可能な社会の創り手を育てるための心理学的考察

(1) 利他的活動（ボランティア活動）を促すために



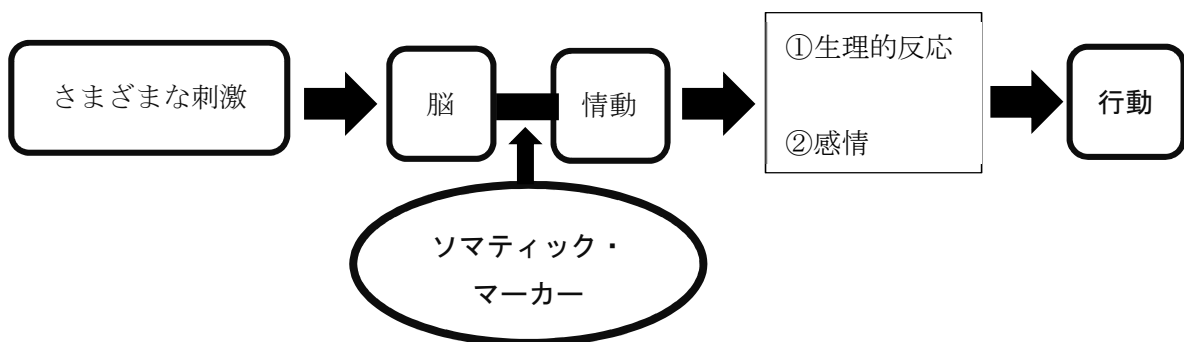
承認欲求が満たされることで、「自分も世の中のために何かしたい」「人の役に立つことがしたい」という自己実現の欲求が促される。

自己による承認と他者からの承認

親・教員は子どもにとって「特別な他者」

努力していることを見出し、承認・応援するという姿勢

(2) ライフスタイルを変容するために（ESDは価値観と行動の変容を促す教育）



・ソマティック・マーカー：脳内信号

その行動によってもたらされるかもしれないものに注意をむけさせるための信号

ネガティブ信号 → 警報の役割

ポジティブ信号 → 動因の役割

意思決定の正確さと効率に貢献する役割がある

・ソマティック・マーカーが情動のきっかけをつくる

「人は理屈で考えればやらない方がいいとわかっていることもするし、まったくナンセンスに思える

こともヒトの行動に大きな影響を及ぼすことがある。これは情動が理性を越えて行動を支配するからである。」(櫻井武)

- ・「われわれの多くが持っている自動化されたソマティック・マーカー装置は、教育により、その文化の合理性の標準に適応するものとなっている。つまり、ルーツは生体調節にあるにもかかわらず、その装置は特定の社会での生存を確かなものとする文化的規定に合うように調整されている。」(アントニオ・ダマシオ)
- ・ソマティック・マーカーを育てる
知識の網の目をつくる
繰り返し経験すること、繰り返し学習することで、網の目を細かくすることができる。

3. ESDの視点

見方・考え方	身の回りでよさの見つけ方	課題の見つけ方
①多様性	色々なものがある方がいい	多様性に乏しいのは問題だ
②相互性	つながっている方がいい	孤立している・循環していないのは問題だ
③有限性	ものには限りがある	もったいないのは問題だ
④公平性	世代内と世代間が考えられている	不公平なのは問題だ
⑤連携性	なかまはずれをつくっていない	何かを排除しているのは問題だ
⑥責任性	協力がある・やりとげている	責任転嫁、やりっ放し、言いつ放しは問題だ

①・②・③は主に自然環境・社会環境を評価するときの視点

④・⑤・⑥は主に人の営みや集団の意思決定を評価するときの視点

A：あなたの出身地のよさを多様性、相互性・循環性、有限性の視点から述べてください。

B：あなたの知り合いで公平性、連携性、責任性の視点から素晴らしい人を紹介してください。

4. ESDを通して身に付けたい資質・能力

クリティカルシンキング：物事を問い直し、新たな方法を見いだす力、代替案の思考力

システムズシンキング：物事を総合的・構造的にとらえる力、システムとして理解する力

長期的思考力：データに基づき、先のことを考える力

コミュニケーション力：意見を聞いたり、発信したりする力

協働的問題解決力：他の人と協力して最後まで取り組む力

アクティブ・ラーニングにおける子どもの意識の流れ

導入：ソマティック・マーカー 「なんだか腑に落ちない。気持ちが悪い。」

課題発見：クリティカルシンキング ◇課題設定と仮説の作成

調査活動（グループ学習）：コミュニケーション力・協働的問題解決力

話し合いと考察：長期的思考力・システムズシンキング・コミュニケーション力

行動化：協働的問題解決力

5. ESDの授業づくり

(1) ESDの授業を構想する際に考えたいこと

- ①見方・考え方を働かせることができるのか
- ②資質・能力を育てることができるのか
- ③どのような価値観を変革させようとするのか
- ④どのような行動化を求めようとするのか

それによって、SDGsの何を達成することに貢献できるのか

(2) 単元を構想する

具体的な授業をイメージできるかがポイント

- ・児童が発するであろう言葉や持つであろう意識をマップ化する。
- ・単元の流れにあわせて子どもが考えること、行動することを時系列で示す

それをもとにして、教員は①～④を説明できなければならない。

(3) 問いを考える

①重要な問いの質

- ・単元の目標にそうもの
- ・学習の流れの中で必然性のあるもの
- ・答えがいくつもあるもの

②発問で単元をデザインする

①単元を通して核となる問い

①を深めるための問い

①を発展的に考える問い

(4) 探究的な学びを協働的に行う

- ・質の高い問いをつくる教師の確かな教材解釈
- ・育てたい資質・能力、価値観など、ゴールの見通し
- ・「なぜ?」「どうして?」という問いを子ども達が自らつくることができるように

※協働的な学びには学級経営が重要

- ・どんな意見を言ってもいいんだという雰囲気
- ・「わからない」を素直に言える風土

2020年度 第4回奈良ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2020年8月7日(金) 19時～21時

◇方法 Zoomによるオンライン

◇参加者数 25人

◇内容

1. 優良実践事例の検討

「高度経済成長期の日本と公害」 河野先生

(1) グリコのおもちゃからみえてくるもの 時代を反映したもの

- ・素材がプラスチックになってきている
- ・色がカラフルになってきている
- ・戦争中という時代を反映したおもちゃがある
- ・大正時代(メダル)、戦時中(陶器)、戦後(物資不足)、経済成長期(プラスチック)
→ 高度成長を支えたのがプラスチック
- ・デザインには子どものあこがれ、あこがれさせたかったものが反映

戦時中：兵隊 戦後：ポパイ、アメリカなどの国旗、経済成長期：三種の神器、キャラクター

(2) 戦後

「よかった」でよいのか(バラックの写真) その時代その時代の社会の背景、課題があったはず
戦後の日本の社会の変化を具体的にとらえさせる

工業地帯 軽工業から重工業へ 公害の発生

(3) 高度経済成長の負の側面：水俣病

新潟は発生から裁判まで6年なのに、水俣は13年かかっている。

- ・肥料、プラスチック商品(チッソが生産していた)を歓迎していた市民
- ・家族が罹患しても隠した

企業・水俣市・国家・国民が水俣病を発生させるシステムになってしまっていた

(4) 今の暮らしに目を向ける

水俣病 —

環境によくないのがわかりつつプラスチックを使い続けている私たち

2. 授業構想案の相互検討

(1) 「パラスポーツって何だろう？」5年生道徳：圓山先生

ボッチャを通してみんなのできることのよさに気がつく

自分たちでもボッチャならできそう。当事者意識

みんなのできるスポーツだ。

手をさしのべるのはハードル高いけど、一緒にスポーツを楽しむのなら、できる。

ユニバーサルデザイン：世代内の公正を学ぶことができる

中村裕医師のボッチャの思い 共生社会

(2) 「平城ニュータウンの未今昔」中村先生

様々な世代が住みたいと思う街づくりを考える

どのような街づくり双六をゴールとして設定しているのか。

新しい街づくりのコンセプトとして、他の地域のコンセプトを参考にしたらいい。

双六にこれからの街にとって必要なコンセプトが込められているので、それを地域の人とすることで、街づくりの必要性を訴えることが行動化になる。

「終焉」を中心について再検討　そうじゃないだろう　じっくりこない

ニュータウンに持たせたい多様性を考える

現在の住民の意見を聞くのもいい。地域の人が現在している街づくりを調べよう。

実践を通して「街づくり」は誰かにしてもらうことではなく、自分たちでやっていくものという意識化ができる。

(4)「カブトムシのわなを作ろう」3年生理科・総合：春日先生

- ・わなづくりから昆虫の生態に迫る。そこから昆虫にとっての住みやすい環境を考え、環境をつくらうへ。
- ・単元の目標を明確に・・・①探究的な活動を体験させる　②生き物同士のつながり、循環など
- ・昆虫だけでなく、昆虫と人とのかかわりにも着目してはどうか
- ・核となる教科を設定した方が目標が明確になる。
- ・環境づくりにもっていくストーリー性が必要だ。
- ・生き物同士のつながり・生態系にも視野を広げていくといい。

(5)「まちたんけん」2年生生活科：三木先生

①生活科における地図指導のしかた

- ・GoogleEars でまちたんけん　3D（ストリート・ビュー）で見つけたものを地図にペットボトルキャップで表す（毎朝10分）
- ・地図が埋まってきたら、実際に歩いて確かめてみる。
- ・都跡のすてき教えて地図の作成（イラスト・文章）　生き物など　地域への愛着

○地図にこだわらなくてもいいのでは。面や線より点でいいのでは

○2年生段階で空間的理解の難しさ。テーマを与えてストリートビューさせると気づきも多いのでは。

②コロナ禍での人との出会わせ方

教師が写真・動画で撮影して紹介する　その後どう展開していけばいいか

○子どもの気づきが大切だ。実物にふれさせたい。

○実際に歩いてこそ、学びがある。行けないと話にならない。

○他の教員に手伝ってもらって、少人数で行けないか？

第5回奈良ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 2020年8月31日(月) 19時～21時30分
- ◇方法 Zoomによるオンライン研修
- ◇参加者 【現職教員等】
- 奈良：春日、樋口、島、中澤哲也、中澤敦子、山方、浅井、圓山、小谷、川崎、
柚木、中村(朱雀)、中村(都跡)、新宮、
大牟田市：高倉(大牟田市教委)、柴田、石橋、島
その他：河野(大分大学)
- 【学生】：西條、足立、嶋田、福井、谷垣
- 【奈良教育大学】：中澤、大西、太田、杉山 計28名

◇内容

1. ESD実践の活性化を志向した校内研修：山方先生

- ・目標を明確しないと、この授業や単元で何を身に付けさせるか明確にしないと「活動あって学びなし」「授業の脱線になりかねない」
- ・今の日本の評価の立場は、目標準拠評価
「目標を設定し、そこにどの程度達成したかを評価する」という立場。
- ・目標を明確にするから、系統性を考えることができるし評価することができる。

【研究上の問い】

(1) 校内の総合・生活科授業が活性化する校内研修とはどうすればいいのか

本研究における活性化とは、教師が系統性を確保しつつ、自律的に単元開発・実践ができること

①単元開発に関して

○教師一人一人が自律的に授業開発できる機会が確保されている

▼系統性も考えているのか、開発したということは何かを廃止したこと それはよかったのか

②継続しづらいESD実践

○素晴らしい実践は存在している 大会時は色々考えられている

▼教員の異動で継続できなくなる

開発の経緯・熱意が伝わってない 大会が終わると力が入れられなくなる

③コンテンツ・ベースによる前年踏襲

○ある程度の質は確保しやすく、見通しがつきやすい 保護者・地域からの批判も少ない

▼担任の思いや工夫は反映しづらい 子どもの実態に即しているか

④計画→指導→評価→改善のサイクルをまわしづらい

○単元開発をすることができる教師は、自由にのびのびと単元開発ができる。

▼系統性は考えられているのか

(2) 残したいことと改善したいこと

【残したいこと】

- ・教師一人一人が単元開発できる機会を確保したい
- ・大会に際して考えたことは今後も継続していきたい
- ・見通しが持てるようにしたい

【改善したいこと】

- ・系統性の確保
- ・カリキュラムの評価
- ・コンピテンシーへの意見

これを改善するためには、目標の明確化 内容志向から目標志向へ

→ コンピテンシーを意識した目標へ

	①切り口	②2019年度の主な学習内容	③目指す子ども像
1年			
2年			
3年			
4年			
5年			

①系統性の確保

②カリキュラム評価

③コンピテンシーへの着目

※考えられる課題

- ・コンピテンシーの評価は、教師の「目」に頼らざるを得ないので、やはり教員の力量形成が重要になってくる。

- ・現職：実践しやすそうです！言葉は多少難しいですが…。コンピテンシー＝ESD になっていくといいなー。
- ・西條秀哉：実践していく上では、まずコンテンツから考えたほうが考えやすい。コンテンツから深めたほうがデータを残しやすく共有しやすい。コンテンツからコンピテンシーにつなげていくポイントが大事なのでは？子どもに学ばせたい観点はとても参考になった
- ・総合はコンピテンシーベースにするよりは、探求する楽しさにこだわるべきでは。
- 山方先生：探究する楽しさを感じることもコンピテンシーだと捉えている
- ・太田先生：・発表内容は他教科でも通用しますか？今回のように、実践の土台としてのルールを用意されているところがよいです。「何ができるようになるか」は、生活・総合でもしますか。目指す子ども像と ESD で育てたい資質・能力との整合性は？
- 山方先生：これまではESDを特に意識したものではなかったので考えていきたい
- ・中澤哲也先生：新採の立場だと内容、目標が明確だとわかりやすく、取り組みやすい。学年の成長によって合わせるのも大切。その年のクラスの子どもたちが興味関心もつような内容にすることも必要では。あくまでも内容は自分で考えたいこともあるので柔軟に！教員の個性も大事。
- 山方先生：授業開発できる力量形成は重要
- ・春日先生：学習内容の型があるのはわかりやすいと思いました。年度によって偏りがある場合もあるので、決まっていると計画を立てやすいという意見が出ました。学生さんもこんな学校に行きたいと言っていました。大牟田では年間カリキュラムがあるそうです。
- ・柚木先生：ESD は楽しい、そして便利、というイメージを持って、ひとつつチャレンジ、のつもりでやってみたい。単調なルーティンにならないために利用できればよい。

→ 表にまとめるのは、カリキュラム評価方法として優れている。この後の成果を教えてください。
面白く探究できる教材開発の方法についての研修もあわせてやればと思いました。

2. 「クッキングははじめの一步」 小学5年生家庭科（樋口先生）

- ・コロナ禍の中では調理実習ができない。オンラインを活用する。
- ・ゆで卵の調理実習
- ・アレルギーのある子にも対応した学習にする。
- ・調理後の排出されたゴミについても学ばせたい

・昔の人はゴミを減らそう、環境にやさしくしようと思ってゴミを減らしてたわけではないんじゃないかなあ～

・使ったあとのごみをそれぞれ写真でとって家庭ごとにシェアすることもいいんじゃないかな。

・低温調理もおもしろい！一方、家庭科の調理実習を喜んでいる子たちだと思うので、ゴミの話ばかりすると喜びがはんげんするかも…。

・どんな子どもを目標とするのか、を定めて授業計画を組み立てるといいと思います。今のままだと料理？時短？ゴミの削減？と求めることが多く子どもにあまり残らない可能性も。

・コロナ禍に合った調理実習や料理の在り方を探究してみたら面白そう。

・なべ帽子は手間が掛かる。エコと手間の折り合いをどうつけるか、またデメリットも考えさせても面白い。

・単元の入口や実習を面白くできないか。（究極のエコ料理作り？卵一個で何が作られるか？）

・実習を通した子どもの関心は「ゴミ」より「おいしさ」では？「おいしさ」から入って、発問①に戻って、「ゴミがたくさん出た」ということに気づく単元の流れはどうでしょう？

・ゴミの量は質量的なもので見るほうが感じやすいように思う

・調理実習はまず楽しいもの。「おどろき」「発見」を大事にして、そこから学習を広げていきたい。

・単元の構想図がぶつ切りになっているような気がする。「家族の調理の工夫」を大事にしているようだから、そこに単元を貫く問いに設定して、実践をつなぐと良いのでは？

・先生が調理をやってみた実体験を子どもたちに伝えられたらよいのではないかな。

・オンラインだからせっかくなので家庭を巻き込もうという意図はおもしろいと思いました。

・ゴミの量などを比較するなど楽しそうです。プラゴミの量が多いことに気がつくことも大事。

・調理とエコクッキングをわけて、調理方法→エコの順で学習すると、よりエコについて学べるのではないのでしょうか

・ゴミ問題を全面に出すのではなく、味や見た目、安全、栄養、などの項目の中に環境面(ゴミの削減)をいれて、気付きから調理とは別の単元？授業？の導入で活用することもできそう、という意見も出ました

3. 「戦争ってどうしていけないことなの？」 小学6年生総合的な学習（足立君）

中心発問「戦争ってどうしていけないことなの？」に対して、自分なりの考えを持ち発言できる児童の育成を目指したい。

- ・松の木の導入は弱いので。地域にある兵隊さんのお墓を調べてはどうか？横面には戦死した場所と年齢が書かれているので、空襲がなかったから先生がなかったではなく、多くの人が戦争に巻き込まれていたのが実感としてわかるよ。
- ・ダメとわかっているながら、今もなぜ戦争がなくなるのかという問いの方がよいのでは。
- ・身近なところに戦争の跡があるという導入がよい。→子どもたちに印象の残る導入を探していきたい。（例：戦時中に鹿が79頭まで減ったこと）
- ・指導にするにあたり、想定する子どもの答えは？ 指導者側が戦争はなぜいけないかをどう答えるか？
- ・戦争はダメと分かっているけど、起きている。→現実との乖離から「ダメと分かっている戦争がなんで戦争は起きるのだろう。」と考えても良いのではないかな。
- ・なぜ、戦争はするの？なぜ、戦争はしたの？ということに対して考えても良いのではないかな。
- ・「戦争はなぜいけない」小学生はみんな言える。でも抽象的。抽象的でなく具体的に語れるようになることを目標にするとよい。
- ・最後、平和をアピール、だけじゃなくて、具体的にどんな姿になってほしい？
- ・「自分ごとでない」と「現代ごとでない」もある。ここから抜け出せる実践にしたい。
- ・「戦争の悲惨さと平和の大切さを学びました」は6年生みんな言える。ここで満足しちゃう。
- ・「松の木」では弱い…？自分と年の近い子どもの写真などは？
- ・足立くんが同世代の大学生から刺激されたように、小学生も同世代の子どもたちの戦争・平和に対する想いに触れさせると良いのでは？（大牟田は長崎修学旅行を通して、長崎の小学生と相互の交流をしている）
- ・広島のお墓には、「原爆死」という死因が書かれたお墓がたくさんあります。年齢も様々で、せまるものがあります。奈良のお墓には、「レイテ島」とか激戦地が書かれているお墓も多いです。
- ・戦争を自分事としてとらえるために自分の地域のことから入る導入がよかったです。また、身近な人の生き方などのインプットがきちんとあれば、全体の流れもこの形でいいのではないかなという意見が出ました。
- ・総合の時間なので、人と交流させたいという思いがある。戦争を体験した人が減りつつある中で、戦争を語り次いでいこうとする人たちに会わせることなど、今後考えていく必要がある。戦争はダメだとわかっているのになぜ続けるかを考えることで、現在の平和について考えることができるのではないかな。

太田先生よりアドバイス

○戦争はどうしていけないのかに対して、○○さん（学び手にとって大切な人）が△△だったからと、具体的に話ができるようになってほしい

○対立する価値観にどう説得するのか、対立する価値観があることを念頭に授業を考えるともっと深みがでるのでは。

次回は9月24日（木）です。大牟田市の先生方からの提案もあるかもしれません。

第6回奈良ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 太田 満

◇開催日時	2020年9月24日（木）19時00分～22時00分
◇方法	Z o o mによるオンライン研修
◇参加者	【現職教員等】 奈良：中澤哲也、圓山、浅井、山方、川崎敦子、中澤敦子、小谷、中村（朱雀）、三木 大牟田：高倉、石橋、下地、柴田、島 大分：河野 【学生】 ：嶋田、足立、櫓、下原、北、西條 【奈良教育大学】 ：大西、杉山、太田 計 24 名

◇内容

1. 5年生 海の時間（単元計画）：石橋先生

〔単元構想について〕

○減災教育の構想、自助、共助、公助の観点から考えた。

○単元の流れ（全 25 時間）

- ・課題設定Ⅰ：なぜ大雨が降るようになったのだろう
- ・情報収集Ⅰ：GT（市役所、公民館、消防団）の方から、当時の様子を調べる
- ・整理分析Ⅰ：事実を基に「なぜ大雨が降る日が増えてきているのか」を考える。
- ・まとめⅠ：海水温が上昇し、水が蒸発しやすくなることで、大気中に雲が増えたから
- ・課題設定Ⅱ：自分たちにできることを考える
- ・情報収集Ⅱ：マップチーム/行動マニュアルチーム
- ・まとめⅡ：「自分たちがつくったものを、地域に発信しよう」
- ・課題設定Ⅲ：自分たちが作成したものに付加修正する
- ・情報収集・整理分析Ⅲ：発信する方法や相手などを話し合う
- ・まとめⅢ：学習のまとめ

○課題設定Ⅱでは、どのようなものを作っていくのか未定

- ・マップチームとマニュアルチームで一回吟味しあうことができるとよりいいと思った
- ・実際に資料としてみる→目で見ただけとはやはり大違い
- ・実際に被害に遭われた子もいたので、授業で扱うのには少し不安もあった
- ・自分事として、豪雨災害の危険性や解決していくためにできることを真剣に受け止められて考えられている。
- ・また起こるかもしれない、という危機感
- ・小学生ならではの意見をどう取り上げていくか
- ・奈良など他の地域では危機感や自分事として受け止めることが課題
- ・子供が作っていく制約がありそう。お年寄りの方の個人情報を扱うことに若干の懸念。ただし新しい気付きや公助・共助の選択を迫ることができるので可能であれば素晴らしい方法だと思う。
- ・すでにハザードマップはあるはずなので、さらに新しいものを作る必要性を感じさせるこ

とが大切。「なぜ今までも災害はあったのに、課題が出てくるの？」という問いがあるといいな。そのために、「なぜ大雨が降るのだろう」という問いを生かしたい。気候変動と防災で少し毛色が違うので、うまくつなぎたい。

- ・今回の水害で子供によって差は大きい。その差が気づきを促す。
- ・行動マニュアルの方では、防災バッグ調べとして、みんな準備中しているのか、中身は何が入っていればいいのかなどを考えるのもいいかも。
- ・〔良かったところ〕ハザードマップに頼り切らず、クリティカルに考えること。またそれに自分の経験を加えることでインパクトのある学びになる。今年だからこそその学び。自分事になりやすそう。
- ・自助などの3つの視点がしっかりと指導案にちりばめられている。工夫されている。小学5年生でやる意義深さ。
- ・理科的な視点をどれくらい入れるべき？気候変動との関連。
- ・マップチームと行動マニュアルチームのそれぞれの学びの共有はどうする？片方だけの学びにはせず、共有する必要があるのでは？
- ・自分の経験だけでは子どもの視点に限られるので、地域の人のお話も反映させると良いかもしれない。
- ・災害があって子供たちが経験した記憶が濃いうちに授業化することは、行動の変革につながる良い取り組みだとおもう。一方で、辛い体験になっている場合、心のケアなどセンシティブな内容もあるためすぐにできるのか？という点も気になった。
- ・小学校のこどもたちは絵を描くのが好きな子供たちが多い気がするので、イラスト付きであったり、4コマ漫画形式など、実用性もあるが実際作っていて楽しいものがあるのではないかな。
- ・行政が進めている「タイムライン作成」などを参考に要点をまとめてみてはどうか。
- ・今年から4年生で災害の単元がある。5年生の取り組みとの整合性をとる必要があるのでは。
- ・この実践は、前年はどのような取り組みであったのか、今後はどうつなげる予定があるのか？
- ・ワードの指導案の学習の展開をどのように作られたのか？フォーマットはオリジナルなのか？

〔グループセッション後〕

- ・個人情報取り扱いが難しい。でも、あった方が共助の視点が出てくると思う。「この辺りは足の悪い人が多い」程度は扱いたい。「ここに公助がいるよね」などの発言を期待したい。
- ・今までも災害はあった。対策をしていなかったのか？という問題意識で、新たな課題が見えてくる。新しいハザードマップが必要なんだ！という気づき。
- ・行動マニュアルの中に、防災バッグを入れることは、ぜひ入れていきたい。
- ・九州地方は防災バックの準備率が低いという事実を扱う。
- ・大牟田は大きな災害が起きない感覚⇒これを機に見直していく。
- ・理科的な視点の検討
- ・具体的な地域の話があった方がよいのでは。⇒子どもの視点だけでなく、高齢者・親などの視点も。
- ・立場に応じたマニュアルの作成を目指したい。
- ・前年度は減災教育の視点は入っていなかった。
- ・ハザードマップは既存のものがある（行政のものが出ている。）が、そこに、子どもたちの気づきを入れる。オリジナル情報を入れる。
- ・どのような資質・能力を育むのかという視点で学習を構成する。
- ・「まとめⅢ」段階の子どもはどうなっているとよいのか。ゴールから単元構想案を見直す。

〔大西先生より〕

- ・これまでにない経験を教育内容にしていることの意義。
- ・大雨の問題は、気候変動が関わってくる。身近な生活のところでその問題を取り上げると、より ESD 的な実践となるのでは。
- ・本実践を通して、どのような価値観、行動化を目指すのか。もう少し整理されるとよいのでは。

2. 6 年生国語科「書くこと」通して：中澤（哲）先生

〔単元構想について〕

- 平群町での実践
- 信貴山縁起絵巻…町民の認知度は低い
- 鳥獣戯画を読む（国語科）…優れた表現方法を学ぶ
- 町教育委員会学芸員、ボランティアガイド、産業課との連携
- 今回の実践の新しさ…①パソコンで書く。②前回は似たり寄ったりの内容⇒国語の授業として③高畑さんの表現を学ぶ
- 感動を伝える文をつくる（6 時間）
- 困っていること…グループワークができない状況。どうしたらできるか。

- ・グーグルミートを使っは。
- ・【素晴らしい点】…国語科につなげていく点、ICT を活用している点、実践を、視点を変えて追試する点、絵の持つ魅力や時代背景を感じることができると子どもたちの自分事化できる点
- ・【疑義】ゲストを呼ぶことは可能か？ 感動を伝える文を書く」がテーマだったら、信貴山縁起絵巻を見せ、感動を押し付けてしまうことにならないか。感動を強要する「感動ボルノ」、例外を認めない全体主義となる危険性を孕んでいるように思う。乗り越えるために、「感動」という言葉に幅をもたせるとよいのでは。「心が動かされた」としてはどうでしょうか。教師の腕の見せ所だろう。
- ・この実践を通して、EDS のどのような資質能力を身に付けることを求めているのか。子どもたちに今後、どのような行動の変容を求めるのか。
- ・前回の取り組みと比較して、ESD としてのアプローチは何か違いはあるのか。
- ・①地域で知られてないものを、子供たちの手で外に発信するという構成が良いと思いました。また、子供たちが一所懸命勉強してきたことを、外に発信することに楽しさがあるのではないかと思います。②教科指導の中に ESD を取り入れるのが難しいと考えていたので、勉強になりました。③便利だからパソコンを用いるのではなく、パソコンを使うことにもっと意義があると良いと思いました。④「鳥獣戯画を読む」の作者の文体を分析するだけでなく、前年度の生徒の作品の検討をすることで、子供たちの作品作成の意欲がより高まると思いました。
- ・すごく楽しそうな実践だなと思いました。
- ・前回の取組から、形にはめず、2 段落構成にすると、子どもたちは、どれくらい対応できるのか、不安要素がある。高畑先生の言い回しへの対応はどれくらいできるのか。
- ・パソコン打ちにすると、手書きに比べて、考えをどれぐらいかけるのかなと感じています。書く方がやはり書きやすい？かなと。

[グループセッション後]

- ・ 前は、絵巻三話あるうちの一話。今回は三巻全部を提示して選択させたい。地域にある誇らしいものに対する気づきというゴールは変わらない。
- ・ この実践を通して、どのような資質・能力を伸ばすか。⇒地域の人とのつながりを通したコミュニケーション能力等。
- ・ 手書きから書き始めたら、書きやすいかも。作る段階はワープロ。完成は手書きということも考えている。
- ・ パソコンを使うことにもっと意義を感じさせたい。
- ・ 今回の実践では、もっと感動、もっと知ってほしい、というのを発信してほしい。(2年前の実践以上に)
- ・ 昨年度の先生は同実践をしていないので、今年度も継続して取り組みたい。
- ・ 学習内容にしぼりがあって「全体主義」的な感じ。一人ひとりの感じ方、表現方法をいかに認めていくか。自分の伝え方を大切にしたい。
- ・ 指導力があるがゆえに、子どもがついてこれない、ということもある。指導計画の「副作用」も考えたい。
- ・ ESD としての国語科を提案している。教科として取り組むなら評価規準が必要。「誰も取り残さない」ような手立てをどうするか。高畑さんの文章を批判的に読むという取り組みもある(批判的思考力の育成)。

[大西先生より]

- ・ 同じ教材で、新しい視点を加味した提案がよい。
- ・ ICT の活用能力については、本来は学校として系統的に育てるものでは。
- ・ ESD の授業として本実践はどのような価値があるのか。また、学習のゴールを考えたい。
- ・ 総合の時間に、凝縮ポートフォリオ作らせていた。手作りにこだわっていた(あえてアナログに)。幅をもたせて作らせることも大切では。

3. 中学校 2020 年度 2 学期 NEWCROWN 3 単元構想案 ; 檣さん

[単元構想について]

- 中学校 3 年生が対象。メインが英語落語。文法的なこともおさえたい(現在完了形)
- めあて : 落語について知り、英語落語に触れる活動を通して伝統文化を広めていこうとする態度を育てる。
- 子どもは、落語にあまり触れたことのない
- 学習の流れ
 - ・ 活動① 落語について知っている情報を整理する
導入 : 落語についてどんなことを知っているかな?
 - ・ 活動② 教科書本文を読み、文法の理解を深める
展開① Lesson2 現在完了形の用法を復習する
 - ・ 活動③ 4 案を検討中
展開② 英語落語をやってみよう

○人前で落語を発表することが難しい子もいる⇒幅をもたせる

○活動③の案…①落語家にインタビューをする

②鹿政談を英訳し、発表の機会を待つ。

③英訳されている落語を班ごとに選び、発表の機会を待つ。

④班ごとに好きな落語を選び英訳し、発表の機会を待つ。

○英語を学習する意義…落語も、言語の違いを乗り越えて伝えることができる

○中3生徒の実態をどう考え、授業を構想するとよいか。

- ・ <https://rakugo-nara.com/rakugo/>⇒画面共有にあった鹿政談や古々粋亭さんの URL
- ・ 言語教育として良くできていると思います。
- ・ ESD の価値観、SDG s のゴールのどれに当てはまるのかが気になりました
- ・ 英語の時間で「伝統文化を広めようとする態度」を養うことが難しいと思いました。(例えば、総合の時間にして、英語落語を世界に広めている人にピックアップした展開に持っていくことがありだと思いました)
- ・ 落語は日本語だからこそ良い面もあるので、英語落語の良さをいかに子どもたちに伝えられるかだと思いました。
- ・ 英語の授業として色々と仕掛けもあって面白い展開だと感じた。一方でこの授業で ESD としてどんな力を付けたいのか教えてほしい。
- ・ 発表に対して苦手な子もいる。①分を作る②話す③落ちを考える など役割を分けていく多様性があってもいいんじゃないか。
- ・ 文化の多様性を伝えるために英語を学ぶのであれば、落語はひとつの例でもいいのでは？漫才や Tik Tok など今の若者タイの笑いの文化なども英語で発信していてもおもしろそう。
- ・ 落語の写真を見て何をしているのかを考えるという活動がおもしろいと思いました。
- ・ 海外のコメディと落語とを比較させながら文化の多様性を認めていければいいなと思いました。
- ・ 英語の学習があつての ESD だと思うので、そこを落としてはいけないのではと思います。
- ・ 良いと思った点…教科書に則ってプラスα教師が YouTubeなどを活用して ESD 的要素を入れることで単元に面白みが出ている。教科と ESD の両立は難しいが、チャレンジしたのが素晴らしい！落語には興味を持ってくれると思う。
- ・ 改善できると思う点・疑問点…めあて・目標をもっと明確に用意する（英語科としての目標+ESD としての目標に分けて書くといいかも？）
- ・ 案④は中学3年生の英語力では現実的に難しいのではないか
- ・ 中学生の生徒たちが落語を英語で発表したいと思えるような動機づけが難しいのではないか
- ・ 総合の時間の扱い方の課題
- ・ 活動について、英訳をするのは、苦手な生徒に対して難しいのでは。ジェスチャーや小道具を使ったような身振り手振りに焦点を当てるだけでもいい。落語であるが、動きにおもしろさもあると思う。

[グループセッション後]

- ・ 英語落語の面白い所は短い話が多い。落まで短い。日本の落語は長いというイメージ。
- ・ 文枝さんも英語落語のネタをもっているのでは。

- ・落語を英語で発信することがメインになるが、落語を他の教科でも活かしたらいいと思う。
- ・コミュニケーション能力をつけてほしい
- ・英語科としての目標と ESD としての目標。まずは教科としての目標があるのでは。
- ・英語で発信したいという動機付けが必要。
- ・英訳ができる子もできない子もいる。配慮したい。
- ・言語教育としては面白いけれども、英語学習の中で、価値観の形成や資質・能力の育成を意識するべきでは。
- ・価値観…互いの人権文化を尊重するが該当するのでは。
- ・互いの文化を尊重することを発信する、この点に重きをおけば。
- ・落語を英語落語にした時に「変化」がある。日本人にとっての面白さ、英語を母語にする人の面白さは異なる。その点の気づきを。
- ・落語に対する教材研究が不可欠。落語にこだわらず、他の日本の芸能を取り上げるなどの学習展開も考えられる。

〔大西先生より〕

- ・落語だけでなくてもよい。おとぎ話などもある。より面白くしたい
- ・ESD 的な要素をどこにどのように盛り込むか、もう少し整理できると更にいい。

4. ESD 社会科単元「公害の防止と生活環境」：島先生

〔単元構想について〕

○5つの視点

- ①教材開発の意図…水俣病の捉え直し、心理的距離の近さ
- ②学習指導要領との関連
- ③水俣病について、水銀、チッソ、現在の水俣
- ④先行研究…永田（2011）の課題
- ⑤単元構想について

- ・学習問題：水俣の海を、だれがどのようにして、きれいに
- ・水俣の人々は、水俣病の教訓をどのように生かそうとしているのだろう？
- ・学んだことを自分たちの生活や吉野・大牟田のまちづくりに生かすにはどうすればよいだろう？

○聞きたいこと…（1）問いは成立するか、

- （2）GT と出合わせるタイミング、誰と出合わせるか
- （3）ローカル（大牟田）の視点は必要か
- （4）学習の出口をどうするか

- ・ローカルに立ち返るか否かは、学習の出口に繋がる
- ・大牟田で公害があったかにこだわるのではなく、いかに子どもたちに問題意識を持たせられるか、自分たちの地域にどう落とし込めるか
- ・大牟田市も海に面している⇒海は繋がっているので、そこから環境問題につなげていくのはどうだ

ろう？（海は世界中につながっている）自分事としてとらえられる。

- ・批判的に見つめていく→学習の流れのどの部分を批判的に見ていこうと考えているのか？
問い（誰が水俣の海をきれいにしたのか）を批判的に見るのはどのようにしていくつもりでしょうか？
- ・学習問題については、答えがあるような感じなので、おもしろくないかなあ。かと言ってこれといった代案はないんだけど w
- ・水俣の事例をもとに環境負荷をかけている現代の問題を考えていく流れがいいのではないかな。
- ・大牟田の子どもからすると、水俣は近いのか？自分事として捉えられるか？それをどうやって見とるか？
- ・自分達のまちにもってくるには、現在の流れでは飛躍しているように思った。
- ・物理的な距離よりも、心理的な距離の方が課題だろう。（例：奈良在住の山方でも、隣県の四日市ぜんそくは身近だと感じていない）
- ・水俣学があるほど、環境を研究している者からすると、多岐にわたっている。水俣のどのエッセンスを抽出するかを絞らないと、深まらないのでは。そして、「自分事」化できないのでは。先行研究も、小学校に絞らなければ、もっとたくさんある。
- ・社会科であれば、「社会認識を通して公民的資質を養う」はず。しかし、水俣病にかかわる何を認識させるのか、みえてきづらい。当時の構造なのか。価値の対立なのか。それが固まると、どのような公民的資質をつけさせるのかもみえてくるだろう。（固めるのは、社会認識と公民的資質の順番は逆かもしれませんが、同時かもしれませんが）

〔グループセッション後〕

- ・あまり大牟田にこだわるつもりはない。
- ・海のつながりで見えていくのは面白いと思う。
- ・どこを批判的に見ていくのか ⇒環境に悪いと分かっているけど、水銀の排水を止めることができなかった。（人々の関係が見えてくる。このあたりは批判的に見えてくるのでは）
- ・水俣の海を、だれがどのようにして、きれいにしたのだろうか？は、調べて分かること。
- ・二酸化炭素問題との類似性。
- ・水俣を取り上げる意義…実際には難しさを感じる。ただ、大牟田が水俣と同じような状況があったんだということから、心理的距離を縮めたい
- ・大牟田は第3の水俣病というデマが流れた⇒風評被害が出た。
- ・公害問題の背景をどれだけ子どもが理解できるか
- ・公害問題によって、人間関係が崩れるというのは ESD 的にはやる価値がある。
- ・水俣問題の本質は何か。

〔大西先生より〕

- ・「もやいなおし」にもっと注目したい。
- ・水俣における「もやいなおし」から、自分たちの生活の「もやいなおし」を考えては。
- ・公害問題を取り上げることの難しさ…小学生の子どもに理解させることの難しさ

◎次回は、10月9日です。今回できなかった、下原さんの構想案検討をやりまします。

第7回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時	2020年10月29日(木) 19時～21時
◇方法	Zoomを用いたオンライン研修
◇参加者数	石田・三木・山方・吉田・河野・中澤敦・圓山 北・上田・下原・福井(学生) 大西・太田・中澤(奈良教育大学) 計14人

◇内容

1. 授業構想案の検討

(1) 気候変動を自分事に(下原さん: 英語4回生、高校第2学年英語科)

- ・英語科としての目標とESDの目標を設定した。
- ・英語のリスニングの力の育成 段階的に→全体の概要
- ・単元終盤に英語でのコミュニケーション活動
- ・気候変動に対する自分事化 貢献したい思いと責任感の育成
- ・学生による気候変動に関するストライキ行進を2回見た。それに感動したのがきっかけ。
- ・2019年9月の国連での演説が有名
- ・何度も聞けば、概要は理解できるスピーチである。
- ・責任性を自分事化し、自分の行動に責任を持って欲しい。
- ・世代間の公正 次の世代のことも考えて行動できるように
- ・ストライキ行進のボードに書かれている言葉から内容に気づかせる。
- ・彼女はどんな気持ちで話しているのか? 簡単な英語で答えさせる。
その理由をだいたい理解できることが目標。
- ・特定の情報を見つけられる力

気候変動に関する穴埋め問題に取り組ませる。気候変動による悪影響について意見交換。

英単語の確認

身近に感じている問題を出し合う 世界の取り組み「パリ協定」の紹介

【詳細まで理解できる力】

スピーチに関する正誤問題の回答

スピーチのスク립トと日本語訳を配付

気候変動を抑制するために自分たちにできることを具体的に考えてみよう。

英語でアイデアを出し合う。英語でエコビンゴを作成する。

エコビンゴ達成のための行動化を促す

- 使うことのできる英語になっている。
- エコビンゴは日常につながっているのでグッド。
- 英語と日本語の混在も問題ないだろう
- 1～2時間目は英語科らしいが、それ以降は社会科っぽい。
- この授業の位置づけ: リスニングがメインの単元 表現や単語はピックアップして使用できるようにしてもらう。 英語コミュニケーションⅡ
- 翻訳に関わる授業
- グレタさんのスピーチはインパクトがある。聞き取りやすい。

- 終盤：日本の学生との違いについて考えるきっかけにするのもよいかも
- 留学時の写真を使うのはよい。
- グレタさんの表情に着目させることで彼女の思いに迫る
- しゃべりたくなる場面設定も大切
- How dare you ? で始まる意見表明もあっていいかも。
- リスニングだけでなくコミュニケーションにも踏み込んで欲しい

(2)「権力を握った貴族たち」 中学2年生社会科歴的分野・北君

坂上田村麻呂は東北地方の文化に大きな影響がある。例：青森ねぶたまつり

しかし、田村麻呂は青森には行ってない。征服者をたたえるのもおかしい。

征服者側の歴史と被征服者側の歴史があることに気づかせる。

歴史を踏まえた現在の文化やアイデンティティの在り方を考える

桓武天皇側による蝦夷征伐 拠点は青森にはない→青森には来ていない→青森ねぶたまつりの由来は疑わしい

征服された蝦夷側の人たちが征服者を称えるという理解しがたい行動

歴史が事実よりも伝説して伝えられることで、地域のアイデンティティに大きな影響を与えている。

地域アイデンティティに対する歴史的事実、伝説の影響。

立場と歴史の関連に気づかせる。

歴史への多面的な見方を育てる

沖縄に残るアメリカ言葉、風習。

- 社会科として成立しているのか：何を学ばせるのか考えさせるのかを明確にするといいかも。
- 目標と内容と方法で授業は構成されている。
- 現地住民をオニとしてとらえる捉え方
- 目標の明確化
- 蝦夷側の意見を考えさせるのは、社会的見方考え方を育成する上でよい。
ただ、資料不足であるのは社会科として難しい。
- 史実に基づくことが重要だが、その事実さえあやしい。
- 社会状況が社会的事実や人物に対する評価を大きく変える。
- 歴史そのものを考える教材としてはよい。なぜ、歴史を学ぶのかという導入でつかえるのでは。

(3) 地域資源を活用した学びの実現に向けてー学校と地域が連携する有効性ー

中澤敦子：近畿環境パートナーシップオフィス

- 具体的考察がほしい
- 写真だけではわからないので、キャプションも必要。
- 今後の方向性も示してほしい。
- 外部の人に投げるのではなく、創り上げていくというのがいい。育てたい子どもの姿（単元の目標）の共有が重要だと思った。
- 外部の人とつながる方法も紹介してほしい。

次回は、11月26日（木）19時からオンラインで開催します。内容は指導案の検討（現職教員）です。

第8回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2020年11月26日(木) 19時～21時30分
- ◇方法 Zoomを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 16人
- ◇内容 ESD学習指導案の相互検討

1. 「平城ニュータウンの主人公」第5学年総合(奈良市立朱雀小学校: 中村先生)

- ・イベントにはよく参加する傾向があるが、イベント主催者側として参加経験のある児童はない。
- ・平城京ロータリークラブ主催の標語づくりに取り組む: どんな町にしたいかな
「まちづくりは人づくり、人づくりはコトづくり」である。
- ・まちづくりとは何か? 実践されている方から話を聞く。

キッチンカー・フェスタが開催された。大賑わいだった。

コトづくりへの参加: 主催者としてコトづくりに取り組み、地域の人に参加してもらう計画中。

- ・朱雀: 人が少ないし、歴史もない、集う場所もない(ニュータウンの課題)

5年生でどこまでできるか? 何のためにしているのかをしっかりと理解させることが重要

- ・5年生で主体的に企画して準備運営することができるだろうか。
- ・どうやって課題をあきらかにするのか=ことづくりは何のため? をしっかりと子どもがつかんでいるか。
- …なぜこの人は地域でこんなことをしようとしているのか、ということをつかんでいるか。
- ・この後の展開は? やって終わりにしてはいけない。最後に何を考えさせるのかを明確にする。
- ・佐久間さんと協働する。→

(相互検討)

三木恵介(奈良市立都跡小学校) から全員に: 08:01 PM

- ・子どもたちが地域に参画していくという取組が非常に良いと感じた。
- ・主発問は何か? 軸になる発問が必要だ。
- ・1・2・3次の流れのつながりが薄いと感じた。

一次の標語はその次にどう活かされているのか? 二次(ニュータウンの歴史)をふまえた三次にしてはどうか? 一次 + 二次 → 三次に融合する。テーマが見えてくるのでは。

- ・オンラインでコトづくりをしてみても。
- ・ユネスコクラブのならまちを紹介する動画を参考に、子ども目線で朱雀の町を紹介した動画を作成し、限定付のYouTubeで地域の人に見てもらうことも考えている。

西條 秀哉 から全員に: 08:16 PM

子どもがどのくらい危機感をもって行動できたのか知りたい。佐久間さんの危機感を共有できることが大切。

→児童たちは、ニュータウンの人口減少に危機感を持ってそれが行われているのか?

児童の気持ちがそちらへ向いているのか? 書初め大会もこれがきっかけで続いていけばいいな

- ・佐久間さんは、なぜそこまで頑張っているんだろう? イベントづくりにこだわっている佐久間さんの思いに迫ることが大切。人と人が交流できる場をつくりたい。あらゆる世代が参加して交流することで、人づくりができると思われている。
- ・色んな方の話や歴史を学んできたが、それで本当に子どもたちがニュータウンの人口減少、少子高齢化の問題を問題として自分事化できているのか。それを左右するのは、佐久間さんの気持ちがどこま

で児童に伝わっているのかだと思う。「コトづくり」に対して佐久間さんが大事にしている思いが子どもたちに伝わらなくてはいけないと思う。

- ・この活動を通して、子どもたちが大人になった時に地域の活動に参加及び参画していこうと思えるか
- ・「子どもの参画」 8段階を目指してもらいたい（子どもから大人に働きかけての課題解決）

2. 「ひとに出会う」を通して学ぶE S Dの価値実現 総合的な学習の時間（附属中学校：吉田先生）

1・2学年の全教員と子どもと創り上げる総合的な学習の時間：「奈良めぐり」

方向性を定める：豊かな社会の創り手 やっていることが結果的にSDGsにつながる取り組み
「たくましく生きる力」を身に付けよう

コロナ禍による様々な自粛、閉塞感の中、沖縄興南中・高等学校の取り組みに触発された。

首里城焼失後も折れずに「バーチャル見学案内」をしている。

奈良でもコロナ禍にまけずにたくましく活動している人と出会わせたい。

観光に携わる人の「おもてなし」「ホスピタリティ」など、これまでとは違う取り組みをされているたくましさにふれさせたい。

奈良在住の外国人：「誰もが取り残さない」ためには、奈良という社会に共に生きる外国人のことを知る必要がある。日系ブラジル人、玉田エミリア氏、障がい者の立場の人にとって奈良はどのような町なんだろう。「多様性」「多文化性」

奈良への移住者支援をされている方。奈良県まちづくりプロジェクト推進課、

→ まちづくりの視点につなげていく

2年生では自分事化できた子が多かった。

ロールモデルとして大人に出会わせた。

2年生は去年の 外国人＝観光→「よそモノ」感

3年間を見据えたカリキュラムを作成するコトが大事

- ・多様な人と出会うのはとてもよい
- ・表2:先生方の思いと図1：子どものイメージ
- ・弱みを共有できる社会、自分を見つめ直すことが大切 生徒がSDGsを読み解いたことに意味がある。
- ・自分事化させる手立てを明らかにしたかった。

第9回奈良ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西浩明

◇開催日時 2021 年 1 月 7 日 (木) 19 時～21 時 30 分

◇方法 Z o o m によるオンライン研修

◇参加者 【現職教員等】 圓山、中村、三木、石田、中澤敦子、川崎
【学生】 亀井、狗飼、上田、足立、下原、北
【大学】 河野 (大分大学)、大西 計 14 名

◇内容 指導案検討

1. 「黄金比・白銀比」 亀井望太さん (学生)

中学校 3 年数学科における学習指導案

数学のよさを実感させ、数学に対する生徒の興味関心を高めることが数学の授業に求められている。

黄金比を題材にすることによって、子どもたちの数学への興味関心が高まるということが実際に研究結果として示されている。

「最もバランスがよく美しい」とはどういうことなのか、一体だれが決めたのだろうか、と批判的に考えさせる。

西洋には黄金比、日本には白銀比が多く用いられていることを知る。

身の回りのものや自然界にも、黄金比や白銀比が潜んでいることを知る。

(黄金比) ミロのヴィーナス、ピラミッド、モナ・リザ、パルテノン神殿、名刺、トランプカード、オウム貝の殻、ヒマワリの種、Apple のロゴ、爪や手のひらの幅と長さなど。

(白銀比) 法隆寺、銀閣、見返り美人図、スカイツリー、風呂敷、コピー用紙、キャラクターなど。

「なぜ黄金比や白銀比が美しいと感じる人が多いのか」考えさせたい。

黄金比や白銀比をどんなところに活用できるだろうか？ → デザインや学習に活かす

みんなが「美しい」と思うものを、本当に美しいのかと批判的に考えるのがよい。

数学として終わらせるだけでなく、技術や美術との教科横断的な学習にしていくことも。

題材としてはおもしろい。

しかし、ESD との関連も分かるが、黄金比や白銀比が持続可能な社会にどう結びついていくのか。

良し悪しではなく、時間や空間を超えた普遍的な価値について追究することは意味があるのでは。

黄金比や白銀比が、なぜ時代を超えて「美しいもの」とされてきたのか

よりよい未来の社会では、どう扱われていくのか などについて考えられるのではないか。

美しさを追求できる社会は平和・公正な社会

SDGs の目標で言うなら、⑨よりデザイン性、機能性をもった新たな製品づくりや、⑪まちづくり、⑯平和・公正というところと関連させられるのではないか。

2.『ふるさと』～自分のふるさとについて考えよう～ 狗飼菜々子さん（学生）

小学校6年音楽科における学習指導案

歌詞の意味を考え、歌わせる。

「うさぎ追いし かの山」などの歌詞のような風景を自分たちのふるさとに置き換え、どんなものがあるか、またその風景の良さについて考えさせる。

日本の風景がそれぞれの時代の環境問題とともに変化している。

→自分たちの町に何が起きたら守りたいものが壊れてしまうのか

自分たちがどんなことを繰り返すと、街の風景は壊れるのか

ふるさとの美しい風景を守っていくために自分が出来ることを考えさせる。

そして、自分たちのふるさとに想いを馳せながら「ふるさと」を歌う。

資質・能力、価値観に音楽科としての要素を入れるとよい。

最初と最後の歌唱の違いをどう評価するのか。

国語の音読でもよくするが、どこがどのように変容したのか明確には分らない。

個人の思いなど、心情的な変化は言語化させないと見えてこないことが多い。

→楽器を使ってみてはどうか。このところで、こんな楽器で、こんなふうに音を出してみた

「志を果たして いつの日にか帰らん」

→故郷に帰ってきたときに、どんな故郷であってほしいか

変わっていない風景をどのように守っていくか そこを考えさせたい。

今の子どもたちの即した歌詞に変えてみたらどうだろうか。

自分の「ふるさと観」を考えさせて、そんな歌詞に変えてみるのもあり。

故郷に対するイメージや価値観はそれぞれ違う。

→それぞれの故郷をイメージして歌うことが大事なのは。

発声、ひびき、スラーなど、歌唱の変容を音楽的に評価していく方がよい。

※次回は1月21日（木）19時～

学習指導案の検討 4名予定

（葉山先生（附属中）、阿賀先生（兵教附属小）、北さん、上田さん）

第 10 回奈良 ESD 連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 大西浩明

日時：2021年1月21日（金）19:00～21:30

方法：Zoom によるオンライン

出席者：【現職教員等】圓山、吉田、山方、島、中澤哲、川崎、阿賀（兵庫教育大附属小）

【学生】亀井、北、西條、櫓、上田

【大学】中澤、河野（大分大学）、大西 計15名

内容【学習指導案の検討】

1. 「大切にしたい言葉」～ストップ温暖化メッセージ～（6年国語科） 阿賀先生

国語科を教科書に閉じずに社会に開く。実生活とつなげることで子どもたちの主体性を引き出したい。環境問題に対して、大人が何もしていないのではないかと気付いてほしい。

- ①普段の暮らしと環境問題をつなげて考え、自分の生活の中でゴミをだしているもの、電気を使っているものから興味のあるテーマを選ぶ。
- ②温暖化を防ぐために具体的に声を挙げている人について知り、自分たちにできることをクラスで考える。
- ③自分の思いや考えをもてるように決めたテーマで取材をする。
- ④情報を付箋に整理し、発表に向けての計画を立てる。
- ⑤序論・本論・結論で分担を決めて、グループで1つの意見文を書くためのアウトラインを決める。
- ⑥クラスで発表するために、プレゼンテーションの準備をする。
- ⑦クラスへのメッセージを伝えるためにプレゼンテーションを行い、目標としていることが達成できたかどうか確かめるために相互評価をする。

まずは国語科として、この単元の目標や内容を精査する必要がある。

「地球温暖化」について、もっと子どもが知っていると思ったが・・・

→ グレタさんのスピーチの中にある「大人たちは何もしていない」という言葉を大切に。

「大切にしたい言葉」をそこにフォーカスできる。

導入でスピーチを読むと、子どもがもっと共感できるのでは。

温暖化についてもっと自分事として調べていけるのではないかな。

プレゼンするのなら、相手意識をもっと持たせた方がいい。（だれに対して伝えるのか）

どうせなら大人がいい どこまで自分事として考えられるようにするかがポイント

2. 「歴史を学ぶって？」（中学校2年社会科） 北さん

教科書の学習内容に至る前の導入単位として設ける。

坂上田村麻呂（征服者が英雄視される）を例に、歴史の見方は視点によって大きく変わってくる。

これはESDにおいて双方の人権や文化を尊重するということはもとより、歴史を学ぶのは何を考えるためかということにも繋がる。

歴史は過去から現在に繋がるのみではなく、現在の出来事が未来に歴史になるということでもある。

これは ESD の視点においては世代間の公正として捉えられる。

現在の出来事もまた多様な見方ができるものであると理解することが大切である。

歴史学習の導入で、社会科や歴史学習の面白さは伝わる。

侵略する側と、される側とわけることで、生徒をひきつけることができそう。

単元の流れを具体的にイメージできている点が素晴らしい。一方で、細かに決めすぎていることで、授業が硬直化してしまうのではないかと。臨機応変に、指導案から変えられる実践も。

1 時間で詰め込んでしまえば、かえってしんどい学習と感じさせてしまう。

→ 2 時間で行う方が現実的だろう。

立ち止まってじっくり考えたりと、扱いに軽重つけるのもありでは。

1 時間のみでは、資質・能力は身につかない。

現代のコロナ禍が、未来ではどのように語られるのかを考えるのは面白い。

せっかく子どもたちがいろいろな考えを出し合うのに、最後に指導者がまとめるのは意味がない。

→ 子どもの言葉でまとめさせたい。

3. 「世界から画材が消えたなら」(高校 1 年美術科) 上田さん

①世界の中には画材はおろか、文房具すらまともに買えない国がたくさんある。。自分たちが当たり前に使っている画材を使わずに、作品制作を行うためには何をを使えばいいかを考え、代わりに色、素材を探す(自然物)。

②秋の色彩の幅の広さや配色、色彩調和について学習し、それらが自分達の制作する作品にどのように活用できるかを考える。

③素材を集めに行く。籠や竹熊手、竹箒を使い素材を集めて、8 人グループで制作していく。

④作品を鑑賞しあう。

どのような作品をイメージしているのか? → 半立体・半絵画のイメージ

8 人グループでの作業を考えると、かなり意思疎通を図る必要がある。その話し合う過程が大事。

それぞれが考える美しさは違うはず。

自然物を使うという時点で ESD としての価値はある。

現職教員に指導を仰いで次回再提出。

次回(最終): 2 月 12 日(金) 19 時～

検討できていない分が多いので、2 グループに分けて検討することも。

予定…葉山(附属中)、足立、西條、櫓、福井、上田

第 11 回奈良 ESD 連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 大西浩明・中澤静男

日時：2021年2月12日（金）19:00～21:30

方法：Zoom によるオンライン

出席者：【現職教員等】圓山、吉田、山方、島、石田、中澤哲、川崎、葉山

【学生】西條、櫓、上田、福井、足立、下原、狗飼

【大学】中澤、大西 計17名

内容【学習指導案の検討】

1. 「Rakugo Goes Overseas」(中学3年英語、総合) 櫓さん

落語そのものの面白さを実感させることで、生徒たちと落語との距離が少しでも縮まることを第一の目標とする。

生徒に落語の面白さを実感させるため、総合的な学習の時間と連携して生の落語を鑑賞させる。

英語科としては、各授業において4技能（話す、聞く、読む、書く）に関する活動をバランスよく取り入れたい。また、英語落語を体験させる活動を通して、楽しく英語を使用し身に付ける機会を設けたい。

◎大島さんが英語落語に挑戦し続けているのはなぜかを考える。

- ・(教科書本文より) She wants to share Japanese humor with people all over the world.
- ・(教科書本文より) She believes that to continue spreading laughter all over the world will make a more peaceful world.

◎「笑いを広めることが世界を平和にする」とはどういうことをグループで話し合う。 など

落語を学ばせるのか、落語で学ばせるのか 学ばせたいのは何なのか焦点がぼやけている

「大島さんが英語落語に挑戦し続けているのはなぜか？」という主発問に対する答えをまずは明確にESDとしてのねらいと英語としてのねらいを共存させるのは確かに難しい。

総合としてのねらいとして、活動がきちんと固まっていることが必要

英語落語を見ていて、言葉が通じなくても表情や身振りなどで落語そのものの面白さは伝わるはず。

初心に戻って、何を学ばせたいのかを明らかにすることが大切。

2. 「情報の技術 ―情報技術を活用し、国際教育問題を学ぶ―」(中学1年技術)

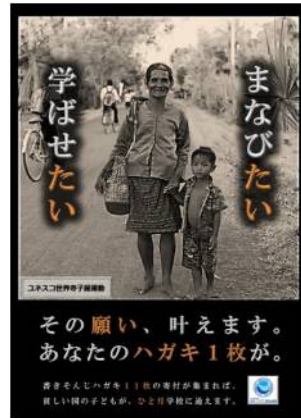
葉山泰三先生(附属中学校)

本実践は、学ぶ機会を失った人に、教育の機会を提供するために日本ユネスコ協会連盟がESDプログラムとして行っている途上国への教育支援活動「世界寺子屋運動」の国際支援を推進するリーフレットをコンピュータで制作する授業である。

→ 情報の技術を活用し、国際教育問題を学ぶ

本校では、カンボジア現地へ教員が取材に赴いて作成した自作教材を用いる。

また、ユネスコから提供される教材やユネスコのホームページ上にある教材を有効活用する。



メディアリテラシーの観点から

写真を切り取ると真実から離れてしまう危険性があるが…。

→ ユネスコが提供しているオフィシャルのものを使用するので問題はない

リーフレット以外でも伝えられる方法はある。

ユネスコの他の活動に参加する、勉強会に参加するなど、生徒の高まりがみられる。

10年続けてやっているのだから、教師自身の中でブラッシュアップできている。

3. 「奈良公園のナンキンハゼは全て伐採すべきか」(6年国語) 西條さん

児童が主体となって ディベートを行うことでコミュニケーション能力を高めることができる。

ディベートの題材を「奈良のナンキンハゼ」にすることで、身近なところにあるナンキンハゼが抱える観光的、景観的によい面と、自然環境、世界遺産に関わる悪い面の両側面を持っている問題について知り、考えるきっかけになる。

グループごとに学ぶ内容が違ってくる

→ 共有するのは討論の場でもできる

ディベートの勝ち負けがE S Dの観点で決まってしまうと思うのではないだろうか。

ディベートとE S D → 教師の力量が大いに問われる

E S Dは、勝ち負けだけでなく多様な意見があっている。

「一人ディベート」させることで、クリティカルシンキングにつながるのでは。

自分の意見を確立させることは重要だが、相手の意見を聞き入れたうえで自分の意見を言わせたい。

4. 「世界から画材が消えたなら」(高等学校美術) 上田さん

画材には〈色材〉〈支持材〉〈描画道具〉があり、絵画制作には欠かすことができない。しかし、それらが無いと仮定したとき、想定されるのが自然に存在するものを活用し、モチーフを構成することで、絵画的なアプローチを試みるということであろう。自然を使った芸術として、Andy Goldsworthy のアースワークを紹介し、生徒のインスピレーションを刺激し、自然素材のみによる活動を促す。

この実践では、自然環境にある「色」への着目にとどまらず、「自然の中にある音」、「質感」などに留意させることで、自然環境への関心や理解を深める機会とする。

・Andy Goldsworthy のアースワークの模倣に終わらせないために、作品の分析が必要だろう。要素に

分解した上で、それを重ねたり、並べたりと行った配色によって受け取る印象が変わってくることに気づかせると、理解が深まるのでは。

- ・使用する自然素材を集めるのは、生徒がした方がいいだろう。素材収集や作品製作にもっと時間が必要なのではないか。
- ・自然素材から自然環境に関心を向けさせるだけにとどまらず、人が感じる「美しさ」と「自然」との関係性を考えさせてはどうか。

5. 「戦争をしないために私たちができることを考えよう」（6年生社会科）足立さん

第二次世界大戦後、70年以上にわたり平和な社会を築いてきた日本に住む児童にとって、戦争は身近なものとは言えず、切実感を持って学び、行動化を促すのは難しい。そこで、本実践においては、奈良で空襲を体験された方と子どもを出会わせる。まず、地域の戦争跡を取り上げたことと、今は少なくなっている語り部の方と子どものふれあい、直接の語りかけを取り入れたことが秀逸であると言えよう。

その後、世界では続発している戦争や紛争、テロの事実に着目させ、戦争が引き起こされる原因を考え、戦争を阻止するために自分ができることを考えていく。

・戦争やテロを実行する「国」や「組織」と「国民」を区別して捉えることは重要だ。第二次世界大戦を実施した「国」と、巻き込まれ、実際に攻撃や爆撃といった殺人行為に荷担することとなった「国民」を区別し、「荷担」せざるを得ない状況を作り出していったもの、メディア、教育、法などの社会システムに気づかせることで、「戦争をしないために私たちができること」を考えることができる。



・広島原爆祈念碑に「安らかに眠って下さい。過ちは繰返ませぬから」の文言に注目させて、この文言の主義を誰かを問うことで、戦争をしないために必要な「市民」の役割に気づかせることができるのではないか。

3. 「より良い買い物の仕方を考えよう」（5年生家庭科）福井さん

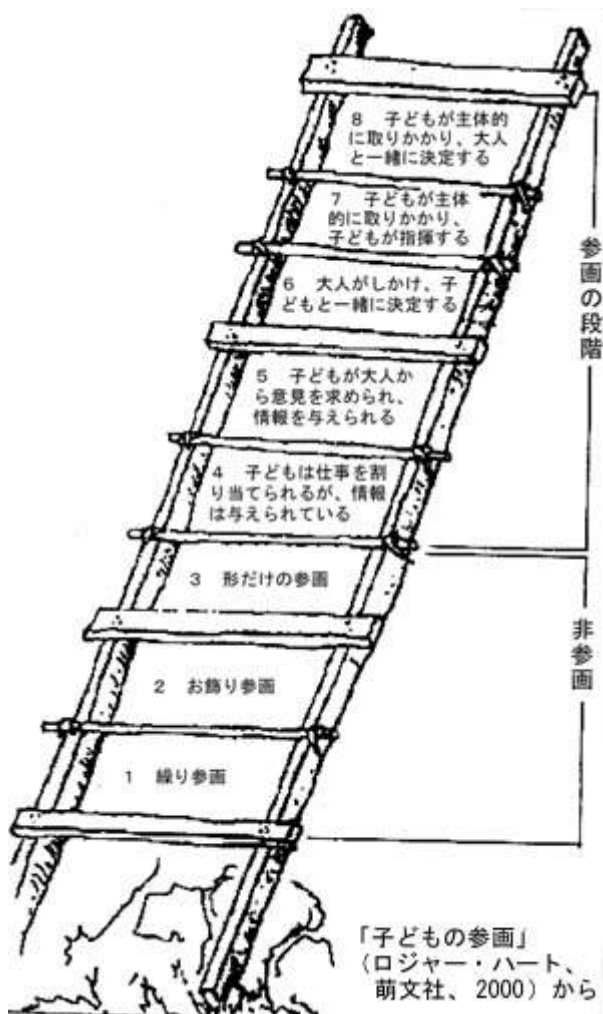
ごみ問題から、環境に配慮した消費行動について考える。学習後には、社会への配慮（フェアトレード商品の購入等）、地域への配慮（被災地の特産品の購入、地産地消等）、生物多様性への配慮（SFC森林認証商品の購入等）など、環境面以外にも自分たちの消費行動で世界を変えることができることに気づかせ、行動の変容を促す。

◇購入時

- ・価格や利便性だけでなく、環境のことを考えて商品や店を選ぶ消費者：グリーンコンシューマー
- ・必要なものを必要な分だけ購入する
- ・使い捨て商品ではなく、長く使えるものを選ぶ
- ・容器や包装のないものを優先する。容器は再利用できるものを選ぶ
- ・リサイクルされた商品、リサイクルシステムのあるものを選ぶ

◇購入後

- ・食べ残しをしない
- ・リサイクル、リユース、使い切る（リデュース）、修理して使う



- ・学習後の自らの行動の変革を確認できるようなシステム（アプリなど）があると、習慣化できる。
- ・学んだことを保護者や地域に発信し、子どもから大人を巻き込んだ運動に展開していく。
ロジャー・ハートの参画のはしごの8段階を目指す。

近畿 ESD コンソーシアム・奈良県立万葉文化館
「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 開催要項

1. 目的

ESDを指導できる教員の資質・能力の向上には、継続的な研修を実施する必要がある。
近畿ESDコンソーシアム活動の一環として、奈良県立万葉文化館と連携し、「万葉集・明日香村」を中心とした国語科・社会科や総合的な学習の時間等での授業づくりを中心とした連続セミナーを開催する。学芸員による万葉集の内容や時代背景等に関する情報提供、大学教員等による単元デザイン作成に関する助言のもと、現職教員および学生が指導案を作成し、授業実践を行うことで、教員としての資質・能力の向上を目的とする。

2. 主催 奈良教育大学・近畿ESDコンソーシアム

3. 会場 奈良県立万葉文化館内

4. 実施希望日

- | | |
|----------------|-----------|
| ①令和2年 5月30日(土) | 講演及び質疑 |
| ②令和2年 8月22日(土) | 実践事例の分析 |
| ③令和2年10月17日(土) | 学習指導案の検討① |
| ④令和2年11月14日(土) | 学習指導案の検討② |
| ⑤令和3年 2月13日(土) | 実践事例の報告会 |

※ いずれも10時30分より開催

5. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等
奈良教育大学の学部生・大学院生・教職大学院生
奈良万葉文化館 指導研究員 井上さやか氏及び学芸員
奈良教育大学 准教授 中澤静男
奈良教育大学 特任准教授 米田猛
奈良教育大学 特任准教授 大西浩明

第1回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇日 時 令和2年5月30日（土）10時30分～12時30分

◇方 法 Zoomによるオンライン会議システム

◇参加者 石田（佐保小）・石原・新宮（平城小）・篠原（深圳日本人学校）・大川（会社社長）

坂元・山田・岡本・奥平・中野・山崎・金城・亀井・杉本・飯村・古橋・津田・津島・

藤森・前田・石川・福田・木村・松原・藤本・小林・下原・足立・山口・池田千・池田真・

真地・松岡・南本・長谷川・松田・岩城・簗谷（学生）・谷垣（院生）

中澤・米田・大西（奈良教育大） 計42名

◇内 容

1. 実践事例検討 「未来に伝えたい『いま』～いにしへから学ぶ～」 石原宏一郎先生

6年生児童が卒業までの意欲を高めるとともに、表現方法の幅を広げるために、万葉集の序詞（じょことば）を隠喩表現の入り口として提示し、各自が卒業に向けての詩を作成する際の参考にさせた。マンダラチャートを活用し、卒業に関わる言葉のイメージをふくらませた結果、無理なく比喩表現を使った作品が完成した。実践を通して、だれもが目にする自然の情景に気持ちを投影させることで、作者の思いがより豊かに伝わるということを実感できた。

- ・小学生に万葉集の理解は難しいので、現代語訳は教師が意識したものを提示した。
- ・卒業に対する一人一人の思いを大切にしたいと考え、マンダラチャートの真ん中には卒業への思いを各自が考えた言葉で表現させた。マインドマップと違って、マンダラチャートはマスとして各場所が整理されているので、児童にとって段階を踏んで思考しやすかったと考える。
- ・1400年の時を経て、今も私たちに伝わる「言葉の持つ力の大きさ」を味わうことができたのでは。
- ・同じ取り組みを3年続けているが、教師自身の単元理解が深まり、学習効果の大きいものになってきている。

2. 卒論途中経過報告 坂元亜衣さん

教科書所蔵万葉集（中学校3年）の変遷調査から

5社の教科書の平成2年度版から現在までのものを対象に、掲載されている万葉集の歌の数、作者別、長く掲載され続けている歌、定番教材などを調査し、分類、考察しようとしている。

- ・万葉集を通して、どのような子どもを育てたいのかを、筆者自身がまず明確にすることが大切ではないだろうか。
- ・掲載されている数も大切だが、掲載のされ方が教科書会社によって違っていたり、同じ歌でも年代によっても変化していたりということがあるのではないだろうか。
- ・ずっと掲載されているような定番教材や作者の歌には、どんな特徴があるのかという視点も、研究できるのではないだろうか。

第2回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇日 時 令和2年8月22日(土) 10時00分～12時00分

◇方 法 Zoomによるオンライン会議システム

◇参加者 石田(佐保川小)・石原(平城小)・篠原(深圳日本人学校)

岩城・真地・小林・川田・津田・山崎・前田・池田・福田(学生)

井上・竹内・山本(万葉文化館)

米田・大西(奈良教育大) 計17名

◇内 容

1. 講演 「万葉集の基礎知識」 奈良県立万葉文化館指導研究員 井上さやか氏
マンガによる万葉集の紹介

わが國の 梅の花散る ひさかたの 天より雪の 流れ来るかも(巻五・八二二) 大伴旅人
太宰府の長官だった旅人が梅見の宴を催したときの歌 梅は当時日本では珍しかった
万葉集の中では梅の花はすべて白 元ネタは中国
万葉仮名による

令和…梅花の歌の序文「初春の令月にして、気淑く風和らぎ…」 おだやかな風景の描写
歌集から採用されるのは初めて

百人一首との関わり 百人一首は、新古今和歌集の形(鎌倉時代)

春過ぎて 夏来にけらし 白妙の 衣はすてふ 天の香久山 持統天皇

飛鳥時代の歌 百人一首では持統天皇が十二単を着ている…あり得ない

読み方なども変えられている 「衣ほすてふ」ではなく本来は「衣ほしたり」

「衣がほしてある天の香具山」が「衣をほすという天の香具山」という想像上の風景を詠んだ内容に変わっている。

田子の浦 打ちいでてみれば 白妙の 富士の高嶺に 雪は降りつつ 山部赤人

万葉集では「雪は降りける」…雪は降った 富士山信仰

「雪は降りつつ」…雪が降っている 幻想的

その時代に好まれるようにアレンジしたのが百人一首

万葉びとの「四季観」 四季の分類は奈良時代から始まった

旧暦なので今の感覚とは少しずれている

春1～3月 夏4～6月 夏7～9月 冬10～12月

季節ごとの分類が行われているのは、巻八と十のみ 大伴家持が編纂

これ以降、四季の景物を詠み込むことがさかんになっていく

古今和歌集(平安時代)以降、和歌に欠かせないものとなっていく

巻八と十には秋の歌が多い(784首のうち441首) 悲しみと結びついて作りやすい

采女の 袖吹きかへす 明日香風 都を遠み いたづらに吹く 志貴皇子

飛鳥浄御原宮から藤原宮へ都が移った後に謳われた歌

距離的にはさほど離れていないにも関わらず、遠くに行ってしまったと詠んでいるのは、藤原京の中央集権国家へと社会体制が変化していくことへの思いか

「時代が変わった」 社会的な隔たりを感じた「心の距離感」

「飛鳥」と「明日香」 歌の世界ではどちらもある

飛ぶ鳥の 明日香の里を 置きて去なば 君があたりは 見えずかもあらむ 作者未詳

「飛ぶ鳥」は褒め言葉・・・人も鳥も生き物が豊かに暮らせる場所、永遠のふるさと
枕詞であったものが、いつしか飛鳥（あすか）と読むようになった

恋の歌 今とは違う 名前を聞くことがプロポーズ

紫は 灰指すものぞ 海石榴市の 八十の衢に 逢へる見や誰 作者未詳

たらちねも 母を呼ぶ名を 申さめど 路行く人を 誰と知りてか 作者未詳

歌のやり取りから恋が始まる

海石榴市（桜井市）は古代から市場が栄えた場所 古くからさかんに歌垣が行われていた

「歌垣」今でいう集団お見合い 女性の心をとらえる歌を咄嗟に詠めるスキル

万葉集の一番歌は、大王（雄略天皇）の求婚

2. 講演を受けてのグループワーク、質疑応答

- ・時代の流行りによって和歌が少し変化していたが、時代の流行りとはどのようなものであったのだろうか？

歌を理解するときに、衣や袖など生活の違いも起こっている

言葉の発展形

- ・語などから時代や情景、風景が読み取れるのが興味深い。いつの時代も言葉は大切だなと思う。
- ・奈良はやはり地の利があるので、それを生かしていくことが児童生徒にとって万葉集を引きつけるきっかけになるだろう。また、書道ともいろいろと絡めていけるだろうという展望もあった。 ➡ これはできそう
- ・2句切れの歌を潜在的に3句切れで教えてしまっている節があるかもしれない。歌の背景(万葉集など)を踏まえると国語の楽しさもより伝えられるのではないか
- ・長安はシルクロードの拠点ともなるので、そこに注目すると奈良と中国だけではなく西洋とのつながりも見えるのでは？

インドや中国とのつながり、さらには西アジアとのつながりが見えるものもある。

- ・万葉集は秋の歌が多いが、古今和歌集や新古今和歌集は？
- ・この頃の子供の言葉遊びはあるか？ 早口言葉、意味のない言葉を続けるなどがある

※山本さんから万葉文化館の作品作り募集のお知らせ

～みんなで万葉文化館に作品を飾ろう！～ 第2回万葉ギャラリー 作品募集

- ・『万葉集』の歌から感じたこと、想像したこと、また、『万葉集』からイメージすることなどを
絵画や書で描いた作品を募集いたします。 ➡ 「詩があったらいいのになあ」
- ・絵画、書とも題材となる『万葉集』の歌を指定する「①課題の部」と、指定せずに自由に題材
を選べる「②自由の部」の2部門があります

3. ESD の授業づくりについて

ESD の授業である限り、探求的な学びになるよう授業づくりを行うことが大切

そのためには、問いの質を高めていきたい

問いの質を高めることで、より主体的で深い学びとなっていく

子どもの発言や思いなど、学習者の思考の流れが分かるように授業構想を作ることが重要

次回、授業構想を提案する人は、A4 1枚程度のものを用意して提案してください

※ 篠原先生より

読書会をオンラインでやっています。興味のある人（特に学生）は、メール連絡ください。

次回 10月17日（土）授業構想案の検討 （おそらくオンライン）

授業構想案の交流 岩城さん、池田さん、篠原先生、石原先生

第3回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇日 時 令和2年10月17日（土）10時30分～12時30分

◇方 法 Zoomによるオンライン会議システム

◇参加者 石田（佐保川小）・石原（平城小）

岩城・真地・池田（学生）

井上・阪口（万葉文化館）

中澤・大西（奈良教育大） 計9名

◇内 容（授業構想の相互検討）

1. 石原先生（平城小） 6年「修学旅行の思い出を残そう」

修学旅行の思い出を長歌と反歌で表現させたい。

一人1台のカメラを持たせて写真を撮り、文章と短歌で詳しく書くところと端的に書くところを。

【相互検討】

長歌は儀礼的な意味で作られていた。

吉野行幸の長歌は例になるかも。使えると思う。

儀式の場がなくなっていったので、長歌が必要なくなっていき、やがて短歌が主流に。

旅行記にしていくなめには、「こと」「もの」に心情が組み合わさったものもいい。

浦島のパターン…物語になっているから分かりやすい。

五七にとらわれなくてもいいのでは。

行事の時にこういう取組ができるのはいいと思う。

2. 岩城さん（学生） 5年「地域にある詩歌の題材を探し、当時の人々の感覚に思いをはせよう」

明日香村明日香小学校をイメージして

現地に赴き、昔の人が感じた風景を感じ取ることを体感させたい。

「詠まれている場所が今もある」 「こんな気持ちを抱いたんだ」

【相互検討】

校外学習でもっとボリュームを…スケッチではなく、言葉で残した方がいいのでは。

寝転ぶ 思いついたことを書き留める

山に登った時に見えた風景、心情をしっかりと言葉に残しておく、同化できるかも。

教科が明確になっていないので、それを決めると活動の重きが見えてくる。

絵を描かせるとだめかも（絵が得意でない子、相当時間がかかる）

やはり総合でできないか 古代の衣装を着てみるのもいいかも。

明日香小学校の校歌を調べてみると関連付けられるかもしれない。

「香具山」の今との違い、なぜこの山に登って舒明天皇は見えない「海原」を詠んだのか。

「香具山」に対する歌の作者の捉え方の違いなどについても考えられるような授業にしたい。

同じ場所に立っても、当時とは見えるものが違う。時間軸をずらすことで思考させる。

いろんな活動に広がればいいし、その場で短歌を作る子もいていい。

「この先どうしたらいい？」と考えることでESDの視点が入る。

3. 池田さん（学生） 6年国語科「表現して伝える万葉集」

古典、書道を嫌いにさせたくない。

写本から今と昔の違いを見つける活動から時代による変遷を見せたい。

万葉文化館へ見学、聞き取る活動も取り入れる。

お気に入りの歌をについて調べ、書道に結び付けたい。

好きな歌に出てくる言葉を筆で書いて表現、いろんな書体で書く、大きい紙に書いてみる など。

【相互検討】

写本の並べ替えクイズ、仲間外れクイズをすると興味・関心が広がる

日本文化の広がりが見られるから面白いと思う。

木簡から始まる記録メディアの移り変わりを紹介するのも面白いかも。

SNSでも結局は文字 「言葉はアイデンティティ」

「どんな和歌があって何を伝えようとしたのかな」と思いを馳せる。

相手意識をもって活動が進むのがいい。

お気に入りの和歌を見つけるというのがいい。 6年生の段階でやることで中・高に必ずつながる。

「日本独自の言葉の美しさ」「だから感動できる」それを伝えたい

ESDでは批判的思考力を重視する。 源氏物語も時代によって変わっている。

教科書に書いてあることを批判的に見ることも。

次回は11月14日（土）10時30分～

第4回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇日 時 令和2年11月14日（土）10時30分～12時30分

◇方 法 Zoomによるオンライン会議システム

◇参加者 篠原（中国深圳日本人学校）

坂元・池田（学生）

井上・阪口（万葉文化館）

中澤・米田・大西（奈良教育大） 計8名

◇内 容

1. 篠原先生 「万葉集を通して、日本と中国のつながりを学ぶ」の授業構想の検討

国際結婚家庭の生徒が多いので、休み時間等に日本特有の文化や中国特有の文化について話している姿も見かける。しかし、このような話の帰着として、「日本は日本、中国は中国」といったように、それぞれを独立したものとして捉えて終わることが多い。両者の文化の共通点を見出し、それぞれの文化に込められた想いに目を向けることが少ない。知識では「日本と中国には関わりがある」と理解しているが、具体的に関わっているモノやことなどに触れる経験が少ないからだと思われる。在外教育施設に通い海外で生活する生徒だからこそ、異質に感じる文化からでも共通点を見出し、その文化に込められた想いに目を向けるようになって欲しい。

【授業構想】

「令和」の出典元となった『万葉集』の「梅花の歌」の序文と中国の詩文集『文選』、さらに『万葉集』より「柳」を取り扱った「梅の花咲きたる園の青柳は縵(かづら)にすべく成りにけらずや」（少弐栗田大夫）と「田園楽」（王維）を取り上げる。

①「梅花の歌」序文

【原文】于時，初春令月，氣淑風和，梅披鏡前之粉，蘭薰珮後之香。

②『文選』（蕭統）卷十五 張衡「歸田賦」より

【原文】（於是）仲春令月 時和氣清 （原隰鬱茂 百草滋榮）

③『万葉集』（817）

【書き下し文】梅の花咲きたる園の青柳は 縵かづらにすべく成りにけらずや（少弐栗田大夫）

④「田園楽」（王維）

【原文】桃紅復含宿雨 柳緑更帶朝煙 花落家童未掃 鶯啼山客猶眠

①と②の共通点、③と④の共通点を見出し、両者に共通する仲春の雰囲気言語化させたい。
中国との関連を見出せる万葉集の作品を探させる。

【意見交流】

①と②の共通するのは梅、③と④は柳

いずれも春を想起させるものとして見つけることはできる。

日本と中国は「よく似ている」というところで終わっていいのか
異質点はないのかという視点があっていい。古典を学ぶことは文化の違いを学ぶこと
「みんな違ってみんないい」でいいのか

そういう授業をよく見かけるが、結局何が理解できたのかが分からない授業も少なくない
「読みを深める」＝異質なものを取り入れる、違う読みを交流することで自分の読みを思考する
共通点だけを見つけるのではなく、異質なところを明らかにすることも大事ではないか
むしろ、その方がE S Dとしての価値があるのかも。
万葉集そのものが、異文化と知ったうえで編集されたものと言っていい
子どもは柳をあまり見たことがない（中国北部では見られるが）
時間軸、空間軸を超えた教材として魅力的

2. 坂元さん 卒業論文「中学校国語科における万葉集の指導研究

—郷土の万葉歌・歴史を貫く万葉歌に着目する単元開発—の意見交流

【第4章 万葉歌を中心とした単元開発】

○磐之媛に関連する一連の万葉集の教材化

万葉集では次の4首がセットになって、「待つ女」として描かれている。

君が行き 日長くなりぬ 山たづね 迎へか行かむ 待ちにか待たむ
かくばかり 恋いつつあらずは 高山の 磐根し枕きて 死なましものを
ありつつも 君をば待たむ 打ち靡く わが黒髪に 霜の置くまでに
秋の田の 穂の上に霧らむ 朝霞 何処辺の方に わが恋い止まむ
古事記では「嫉妬深い女」として描かれており、人物像に違いがある。
日本書紀の歌も調べてみてはどうか
当時の女性への見方が残っているという点で興味深い。

○「浦島太郎」の伝説に関わる万葉歌・おとぎ話・昔話など、歴史を縦断する教材の開発と指導構想

万葉集、風土記、御伽草子、昔話における浦島太郎の4作品を、7つの場面について比較する。

浦島太郎の歌も知らない子どもが増えている。歌はストーリーを追える。

玉手箱を開ける場面では、

… 御伽草子では、箱を開けると年齢が変わり、鶴の姿となり大空に飛び立つ
昔話は時代や地域によっていろいろな違いがある。歌の内容とも違うことも。

話の違う本の比較をすると面白いかも。

「教科書に載っていることがすべてではない」教科書を批判的に見ることの大切さ

次回は1月16日（土）10時30分～

学習指導案、実践報告の交流（できれば現地で万葉文化館見学なども）

第5回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇日 時 令和3年2月13日(土) 10時～12時

◇方 法 Zoomによるオンライン会議システム

◇参加者 石原(平城小)

岩城・池田(学生)

阪口(万葉文化館)

米田・大西(奈良教育大) 計6名

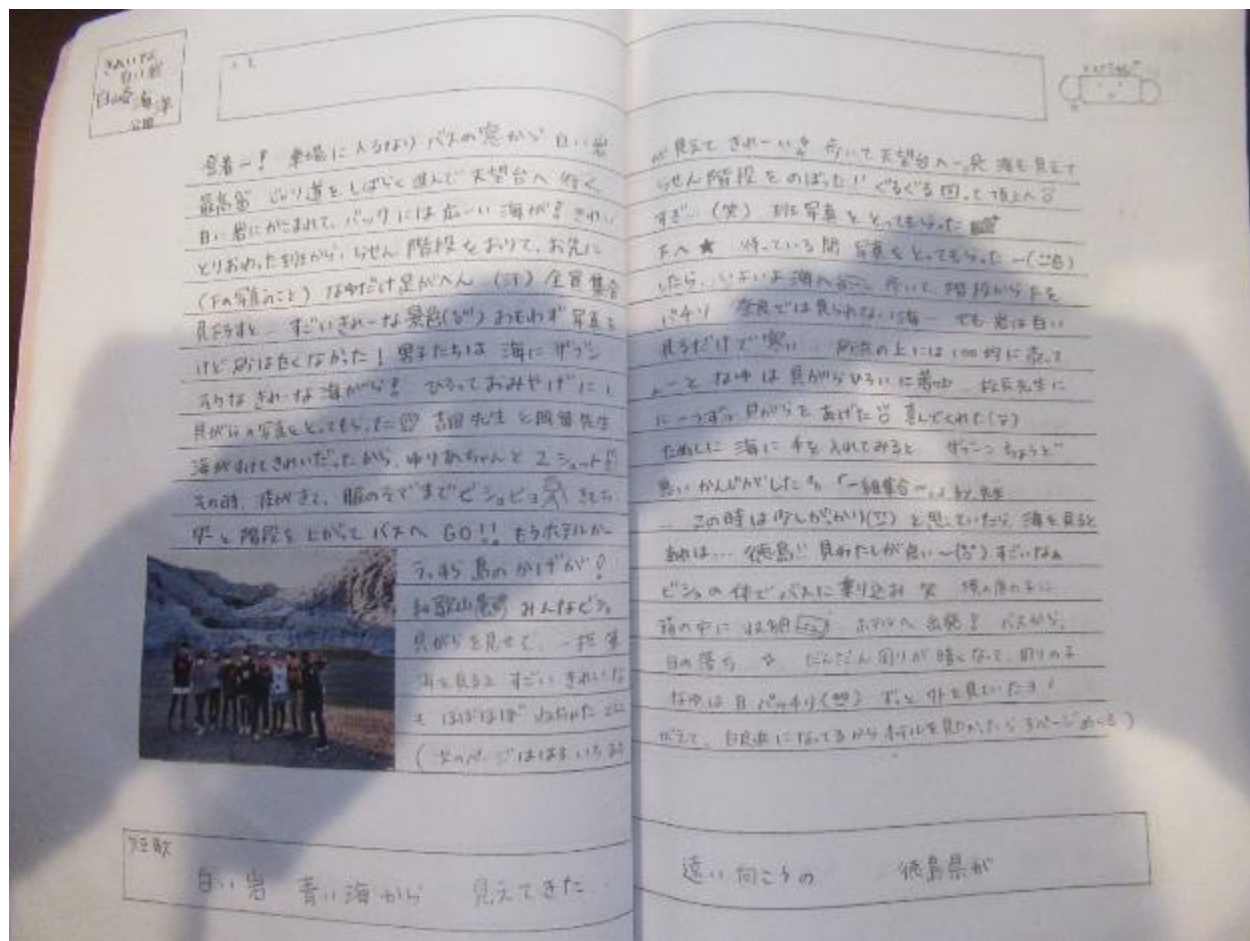
◇内 容

1. **実践報告** 石原先生 6年国語「修学旅行の思い出を残そう」

例年とは違う特別な修学旅行の思い出を残すためにはどうしたらいいだろうか。

子どもたちの手でしおりを作成 修学旅行を特別なものに

万葉集の長歌・反歌形式に旅行記を仕立てる



児童の振り返りより

- ・いろいろと難しかったけれど、いつもやるのとはまた違った感じがして面白かった。
- ・修学旅行に行った後書いたらもっと書きたかったなあってなったから、千三百年前の人たちもいっ

ばい書きたいけど絞って絞ってどうしても書きたいことを書いたのかなって思った。生きている時代はめっちゃ違うけれど、昔の人の気持ちをちょっとでも実感できたと思った。

- ・奈良時代の人と同じことをしているってなんだか不思議です。
- ・しおりに書いたたくさんの思い出を、万葉集のように、未来の自分などが読んでくれたらいいなと思う。
- ・千三百年前の人と同じことをして、この場所に昔住んでいた人と少しはつながれたんじゃないかなと思った。
- ・千三百年前の人々と同じことをしているって、なんだか歴史的なことをしている感じで、わくわくしました。
- ・すらすら書けるときとすらすら書けないときがあった。だけどすらすら書けたら気持ちよかった昔の人もこんな感じだったのかな……。
- ・昔の人は、五・七・五・七のリズムで書いているから、難しそうやけどやってみたい。

成果と課題

振り返りにあるように、万葉集の長歌・反歌形式に旅行記を仕立てることによって、昔とのつながりを児童それぞれが実感的に捉えることができたと考える。また、文字にすることで時代を隔てても思いは伝わるということを万葉集から学ぶことで、旅行記を記すことの意味を一人一人にしっかりとめたことができた。ただし、しおりの仕立てとして旅行記の分量が多く、とにかく必死で書き切るといふことに児童の意識が向いてしまった。そのため歌を推敲したりすることについて、あまり指導することができなかった。

よくある「思い出を短歌に残そう」では、表現の工夫を意識させることになりがち。

単なる作文の旅行記では、あれもこれもとだらだら書いてしまう。

その点、長歌・反歌形式で書かせることで、伝えたいこと（思い）を焦点化しやすかったようである。

「思いを残す」というところに、昔の人と同じだというつながりを感じることができた。

2. 指導案検討 池田千晴さん（学生） 6年国語・書写

指導案として作成するのは初めてなので、すべてが手探りで一応形にはしてみたが。

	児童の活動	教員の支援
1. みつめる 目標：万葉集に対する興味をもつ。	・写本から今と昔の違いを見つける。 ・写本の時代並べ替えゲームをする。 ・複数の写本の中から一つだけ違う時代の写本を探す。	・子どもが違いを見つけられるように資料を全体が見えるものと、文字をピックアップしたものの両方準備する。 ・子どもの解答はどんな内容であれ積極的に拾っていく。 ・受動的な児童も巻き込んで活動できるように、子どもの目線で一緒にゲームを楽しむ。

2. ふかめる 目標：当時の文化を理解し、現代の私たちの生活に当てはめる。	・万葉文化館の職員の方の話を聞き、万葉集についての知識を深める。 ・当時の人々と現代の自分たちの生活・価値観の違いを見つけてまとめる。	・話の内容が深まるように状況に応じて職員の方に質問をなげる。
3. しらべる 目標：古典を好きになろう	・学校の図書館やパソコン室を利用して、和歌の意味や作者、エピソードについて調べ、自分のお気に入りを見つける。 ・見つけたお気に入り紹介をグループで行う。	・図書館やパソコン室での補助を状況に応じて行う。 ・子どもが主体的な活動になるように注意する。
4. ひろげる 目標：書いて残して伝える。 自分の表現を探す。	・お気に入りの和歌や、万葉集の中から素敵だと感じた言葉を探し題材にする。 ・選んだ言葉を筆で書き、一字書にする。 ・言葉の意味や自分のイメージに合わせて色を付けたり、かすれさせたりする。 ・卷子や鳥の子用紙にみんなで和歌を一首書く。 ・書体は自由にして表現する。	・卷子の準備 ・自分の書きたい言葉や気持ち、表現が分からない児童の心の整理の手伝いをし、決して押し付けにならないように注意する。 ・専門的な書道ではないので、出来るだけ児童の自由な個性を見守り、引き出すような言葉かけを行う。 ・辞書などの作品制作の助けになるものの準備。

評価はどうすればよいのか分からないので教えてほしい。

各自のお気に入りが見つかって、それを説明できるということが大事なのではないだろうか。

いくつかのお気に入りから一つに絞っていくところがいちばん大事。

これは自分が編集者になって選ぶ作業（万葉集の編者と同じ）

いきなり「どれが好き？」と言われても子どもは分からない

教師側からいくつかを例示して、そこから選んでいくという活動の方がハードルは低い。

万葉集も卷子に入れていることから、「巻6の1」のようにできるのでは。

最後の筆で書く活動の時に、例えば「かすれさせたい」という子は、なぜかすれさせたいのかという思いを持つことが大切。

3. 指導案検討 岩城雄大さん（学生）

5年国語「地域にある詩歌の題材、香具山を知り、感じたことを俳句や短歌で表そう」

前の授業構想の提案時では教科が絞れていなかったが、国語科として作成している。

明日香小学校の子どもにとっては、自分たちの住んでいるところが万葉集の舞台であることは分かっているけど実感がない。そこで生活する者が価値をいちばん気付いていない。

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価基準と方法
1	1	○学習の見通しを持つ ○朗誦をする ○説明をする	・わくわく感を持たせるために校外学習があることは知らせないが、昔の人に思いをはせることを伝える。 ・はっきり唱える。 ・説明は歌の説明をする。補足的に奈良時代の人々の暮らしや文化の説明をすることもある。	・はっきりと聞こえる声で唱えているか【イ】 ・昔の人々の考え方を知れたか【ア】ノート
	2	○絵画で描く ○初発の感想を書く	・教師も黒板絵として描く。児童は自分で描いてもよいし、黒板絵を写してもよい。	・自分が考え、思い描いた内容を表せているか【イ】ノート、短冊切りの感想
2	3	○校外学習	・徒歩とバスで国営飛鳥歴史公園・甘樫丘展望台、天香久山・國常立神社に行く。	・昔の人の頃から変わらぬ風景を感じ取れているか【ウ】発言
	4	○風景をメモする ・メモは甘樫丘展望台で ○実際に山へ登って感じたことをメモさせておく	・最後のまとめで感想と考え、俳句・短歌を書くための材料にさせる。	・自分が考えたことについてしっかりとメモがとれているか【イ】メモ ・天平衣装を着た人の絵を持っていき、相互性を感じさせる
3	5	○俳句・短歌を作ってみる ○授業の感想を書く ○最後の朗誦をする	・メモしておいた題材を使って俳句・短歌を創作させる。 ・ノートの5行ほどを色鉛筆で囲ませ、感想を書かせる。 ・暗唱できていれば好ましい。	・表したいものがクラスメイトに伝わっているか、しっかり書けているか【イ】発表・ノート ・今までの学習を踏まえて感想が書けているか【イ】ノート ・暗唱できていなくても減点はしない

外で感じたことを共有する時間が必要ではないか。

俳句・短歌を作る前に、明日香の価値に気付くような活動が必要かと思う。

「メモを取る」というのは、子どもはなかなかできない。メモ指導が大事。

メモを取らせようとすれば、ある程度万葉集の知識も必要。

見るポイントを設定しておいて、メモの見本を示すことがあってもよい。

令和2年度 森と水の源流館 ESD授業づくりセミナー 開催要項

1. 目的

奈良教育大学を中心とする「近畿ESDコンソーシアム」の活動の一環として、川上村森と水の源流館と「水の恵み」や「森林環境」に着目した授業づくりセミナーに協働的に取り組みます。森と水源流館スタッフによる、自然環境保全の取組や水生生物などに関する情報提、大学教員等による単元デザイン作成に関する助言のもと、現職教員が指導案を作成し、授業実践を行います。これによりESDを指導できる教員としての資質・能力の向上につながる継続的な研修の機会となっています。

2. 主催

近畿ESDコンソーシアム（奈良教育大学内）、森と水の源流館

3. 会場

本年度はオンラインによる開催を予定

4. 開催日時と研修内容

- 第1回 令和2年7月18日（土） 源流の環境、スタッフの紹介
 - 第2回 令和2年8月30日（日） スタッフによるネタの提案・ESD授業構想
 - 第3回 令和2年9月05日（土） 授業構想の検討
 - 第4回 令和2年12月20日（日） 学習指導案の相互検討
 - 第5回 令和3年2月20日（土） 授業実践の発表・報告
- ※ 開催時間はいずれの回も10時～12時（オンラインにて参加ください）

5. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等
奈良教育大学の大学生・大学院生・教職大学院生
森と水の源流館 事務局長 尾上忠大 及びスタッフ
奈良教育大学 准教授 中澤静男・大西浩明ほか

2020 年度 第 1 回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2020 年 7 月 18 日（土）10 時～12 時

◇方法 Zoom によるオンライン研修

◇参加者 【教員等】

島、新宮、村上、辻本、坂地、赤松、春日、藤江、川崎（耳成南小）、川崎（五條高）

【学生】

福田、山崎、辻本、西條、根本、北野、松岡、宇和山、飯村、山田、福井、谷垣

【源流館・川上村】

尾上、木村、古山、成瀬、加藤、奥田

【教育大】

中澤、大西、杉山

31 人

◇内容

1. 自己紹介

2. 教員からの授業計画の紹介

島先生：地域の山地と有明海のつながりの授業化

赤松先生：4 年生社会科 川上の水 水が生まれるところ 森から水が生まれている（源流）

水が生まれるシステムの理解 生態系の理解・生物多様性保全の重要性

河口部の水質汚染・プラスチック汚染へ ライフスタイルの振り返り

コロナ禍によるつながりの分断の状況における人と人のつながっていく過程の経験を体験させる

川崎先生：2 年生生活科・虫・子ども達の実態把握から、育てたいポイントを明らかにしていく

春日先生：3 年生 昆虫・カブトムシをつかまえる→自然環境 生き物同士のつながり 生態系の理解
道徳「ヤゴ救出作戦」 自然環境の保全

新宮先生・村上先生：4 年生総合的な学習の時間：平城小の名前の由来 秋篠川をテーマに

坂地先生 秋篠川の自然・川調べ・生き物（カメ・カモ・カエル）関心を高めた

川の役割へ 源流館見学（吉野川と秋篠川の比較） 歴史×環境

川崎先生（五條高校）：吉野川・紀の川

3. 森と水の源流館からの情報提供

（1）森と水の源流館とは

・紀伊半島の南東部から始まる水の流れ 吉野川・紀ノ川

・川上村の面積は大阪市がすっぽり入る 93%が森林 23 の集落が点在している

人口は 1313 人 小中学校が各 1 校 34 名 高齢化率が 57.2%（県 1 位）

昭和 34 年・伊勢湾台風 大滝ダム（国土交通省）・大迫ダム（農林水産省）・農業用水

吉野川分水（大和盆地の水不足の解消・水田 7074 ha 畑地 195 ha）

緑のダム 吉野川源流 水源地の森

吉野林業が始まった地域「密植・多間伐・長伐期」土倉庄三郎

川上村は源流の村 吉野川・紀の川によるつながり（人々の営み）

「水質で語れば悪者さがし」・「恵みで語れば互いへの感謝」になる

「川上宣言」：下流にはいつもきれいな水を流します

「川上宣言」×SDGs 関連性を見出していく 「川上村SDGsマトリックス」

「主役は自分、できることからゴールを目指そう」

- ・川上宣言に対する村民の気持ち：村民の理解が深まり、村の価値に気づき始めている
- ・川上村がESDに取り組む背景 SDGsに対する村民の背景
川上宣言とSDGsが川上村の目指しているものが重なっている。間違っていなかった。
- ・流域学習会 村民への学習機会の提供（地域のことを知るところから始める）
- ・川上村以外の地での活かし方は？
人の営みに学ぶ
- ・全国の源流里協議会 流域経営の1つの事例になっている 流域治水
- ・ダム：紀ノ川流域の防災・減災 安定した農業用水の提供
失ったものも大きい 思い出・財産・生き物のすみか・人と人のきづなへの影響

（2）スタッフの専門領域の紹介

木村さん：コケ植物専門 里山・生物多様性

川上村のいいところ 原生の自然が残っている 持続可能な木材生産が始まった場所
自然を上手に利用する文化がある カシワもち サルトリイバラ
日本全体の水の神様

成瀬さん：日本古代史専門 歴史的側面から川上村を研究 縄文期、中世史・城郭調査、
昔の林業の写真の収集（県立図書情報館）

索道：大淀高校から大峰山へ 二見駅 和歌山県富貴へ 防城峯に基礎が残っている
東山中の索道 野猿 栄山寺の前にあった
金剛山の明治 木が残っていない・燃料に

古山さん：専門は昆虫、昆虫観察会講師、

「つながり」をテーマに 昆虫と人をつながり・流域のつながり

「流域つながり絵巻」を提供 「生き物からの挑戦状」ポスター、観察カードの提供
昆虫のふしぎを見つけることが虫好きにするきっかけ

4. SDGsの学びへ

- ・谷垣徹（奈良教育大）

○古山さんから面白いお話聞けました！昆虫の生き方から「ジェンダー平等／障がい者の問題」を考えられる！新しい視点でした

- ・尾上忠大

4,質の高い教育（授業づくりに取り上げてもらて、役場や村民も地域を見直す）

- ・飯村 竣平

環境に関わるSDGs（14, 15など）はもちろんのこと、貧困をなくすなど一見つながっていないようなことでも、水をきれいにする、環境をよくするという点からはつながっている。ほとんどのSDGsと関わっているように思う

- ・西條秀哉

水を飲料水,生活用水と考えて 目標 1、3、6、11 が当てはまりそうです

- ・杉山拓次（奈良教育大次世代教員養成センター）

SDGs の視点から、春日山と川上村の源流の森の比較とつながりを考えてみたい。

- ・Kai Okuda

ダムは水力発電もしているので、7 のクリーンなエネルギーの視点なども意見に挙がった。

- ・島俊彦

17 パートナリシップ（教員や学生などと連携した授業作りによって、持続可能な社会づくりを推進する本セミナーの取組）

- ・西條秀哉

環境資源と考えると 目標 12、13、14、15 が当てはまりそうです

- ・福田実莉

川崎宣言は海洋資源を守るという視点で目標 14 とかかわりを持っている。宣言の 4 つ目には子供たちの教育について書かれており、目標 4 とかかわっている。ダムでの水力発電を行うことによって目標 7 とかかわりを持っている。

※次回は 8 月 18 日（火）10 時～12 時 オンラインで開催します。

第2回森と水の源流館授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2020年8月30日(日) 10時～12時15分

◇方法 Zoomを用いたオンラインセミナー

◇参加者 【現職教員等】

奈良県 : 柚木、圓山、新宮、辻本、梶原、川崎、春日、村上、藤江、藤田

山形県 : 佐藤、近野、阿部、川合、熊谷

和歌山県 : 中谷、赤松、

その他 : 島、

【学生】 : 藤江、宇和谷、松岡、谷垣

【源流館・川上村】 : 尾上、成瀬、古山、加藤

【教育大】 : 大西、杉山、中澤、

計 29 名

◇内容

1. スタッフによる授業のネタの紹介

(1) 木村さん(コケの専門家)

コケを使った周辺環境の大気汚染を調べることができる

機械を使った調査では、その時の状況に左右されるが、生物指標を使うと安定した結果を得られる。

校庭の樹木に着床する胸高付近のコケを全種類採集する。

(2) 成瀬さん

古い絵はがきを(古本屋などで売っている)手がかりに風景を見比べてみる

東大寺大仏殿 薬師寺東塔 近鉄吉野駅 美吉野橋 六田の仮橋

昔の吉野林業 キンマでの木材の搬出 割滝と筏

吉野杉の酒樽利用 吉野鉄道(近鉄六田駅) 索道: 木材搬出のインフラ

里山の木材利用の様子がわかる

チャットの記録

谷垣君より

成瀬さんが見せてくださった100年前の写真で、多くの山が森林活用され木がほとんどありませんでしたが、それ以降積極的に植林された結果が今の山ということでしょうか? また、当時森林に関わる人の雇用があれだけあったのと比較すると、今の林業に携わる人の人口ってとても小さいのでしょうか。一方で林業家が減ると、森が手つかずで放置されて、それが災害に繋がる、ということもあるんですね。

成瀬さんから

吉野では積極的に植林して、より高く売れるよう手を入れていた結果、現在でも吉野杉の森が残っているのだと思います。ただし、大和三山などの里山については薪炭材・落葉・草の採集が無くなった結果、弥生時代以前の風景になりつつあるのではないかと思います。

(3) 古山さん

吉野川・紀ノ川流域つながり

自分たちの住んでいる地域を調べよう

すてきなものを白地図に書き込むそれをまとめて展示物を作る 森と水の源流館ウェブサイトより

申込み可能

生き物観察カード：ウェブサイトで公開中

見ること・調べることから調べる楽しさに気づいてほしい

バイオミメティクス カブトムシの上はね ガルウイング風

下はねの折りたたみ方 人工衛星の太陽光パネル

ツノの動きからマジックハンドへ

生き物の動きから役立つものを発明する

カブトムシの森でのお仕事：落ち葉の分解 土に返す

クワガタムシの ：朽ち木の分解 土に返す

それぞれの生き物が果たす役割（お仕事）

中谷先生より

バイオミメティクス（英語：Biomimetics）とは、「生物の構造や機能、生産プロセスを観察、分析し、そこから着想を得て新しい技術の開発や物造りに活かす科学技術」の意。用語としては、1950年代にアメリカ合衆国の神経生理学者オットー・シュミット（英語版）が初めて使用した。日本語表記としては生物模倣技術、生物模倣と呼ばれることもある。SPEEDOがサメの肌の特徴を模倣することで水の抵抗を低減した水着「ファーストスキン」を開発したことや、関西大学システム理工学部の教授である青柳誠司が蚊を模倣して痛みの少ない注射針「マイクロニードル」を開発したような事例が、バイオミメティクスの例と言える。サイエンスライターのジャン・ベニユスは、バイオミメティクスの考え方を拡張し、環境問題の解決と生態系の保全を加えたより大きな概念としてバイオミミクリー（Biomimicry）を1997年に『自然と生体から学ぶバイオミミクリー』で提唱している。

古山さんより

アートの話であれば、モルフォ蝶の翅を使ったカフスボタンが一昔前に流行ってました。

あと、チョウの翅を使った絵画もあります。

中谷先生

生き物の役割というところはすごい感じました。子どもたちと一緒にミツバチの観察をして、ありがたいよね、っていう話にもなりましたし。

古山さんより

里山林の利用が無くなった結果、昆虫のお仕事が増えています。それが近年問題になっているナラ枯れ病で、生駒付近ではナラ枯れした樹からカエンタケ（猛毒キノコ）が生えて二次的な問題が発生しています。森林利用が減る（人の仕事が減る）と昆虫の仕事が増える謎循環が生じる不思議。

中谷先生

昆虫の仕事が増える＝昆虫にとってうれしいこと なのではないですか？

古山さん

昆虫の仕事が増えることは昆虫にとってつらい事になります。バブル期の日本と同じ状況で、好景気の後には不景気が来ます。

(4) 尾上さん

リモートで伝えること 「わりばしの歌」 間伐材の利用が山を守る
吉野地域日本遺産活性化協議会：スゴスギー 日本遺産の教材化

島先生より

水野恵みを大切にする川上村の取り組みについて、県内の他市町村や、全国の自治体と何か連携・協働したりしていますか？ もしそのような事例があれば教えてください。

尾上さんより

連携について「吉野川紀の川流域協議会」や「全国源流の郷協議会」などの活動がありますね
加藤さんより

源流の里協議会では源流白書を発表し、実現に向けて活動をしています。

杉山さんより

流域ネットワーク で引くといろいろでできますね。流域での自然環境保護で有名なのは岸由二さんですかね。

(5) 加藤さん

水源地の森の保全活動 自然の状態のまま残していく 一般の方の立ち入りを制限
ダム湖面の使用方法 人力のボートに限る（オイルなどによる水質悪化を防ぐため）
川岸に放置されたバーベキューゴミの処分 川ゴミ → 海ゴミ
海洋プラスチックの1つの原因に 利用禁止の動きにつながる可能性もある
地元の方々にとってのストレスになっている

2. 授業構想案の相互検討

(1) 村上先生（平城小学校）

源流館へ社会見学に行く予定

コロナ禍で川の調査まではできない

見学を通して自然の気づき 川の役割に気づかせたい

→ 校区の川の役割を考えさせる 秋篠川

（古山さん）：川の不思議に気づいてもらいたい

入りたい川・入りたくない川 （生き物はあまり変わりはない）

※授業者の思い（子どもに伝えたいこと、子どもに促したい変容）を明確にすること

(2) 赤松先生

川上の水：社会科の飲料水の学習に生かしたい

尾上さんへ手紙を出す → 尾上さんからのビデオレター

オンラインで子どもと話してもらう → 人から学ぶ学習へ

※どういう人とであわせるかに教員の思いが反映される

川上村の水を守る取組

紀の川の河口部分の見学する 見えるゴミの学習へ 友が島の海洋漂着ゴミの学習へ

・たくさんのつながりに気づかせたい（恩恵・ゴミ） 自分事化させたい

次回は9月5日（土）10時～12時に開催します。授業構想案の検討です。

【資料】：＜木に付くコケと大気汚染＞

クスノキやイチョウなどの広葉樹（こうようじゅ）に付くコケ植物を調べることで周辺環境の大気汚染を調べることができます。こういった環境を調べることができる生き物のことを指標生物（しひょうせいぶつ）といいます。

大気汚染は機械で計測することも可能ですが、たいていはいくつもの汚染物質が混ざりあっているの
で細かく調べることは困難です。生き物の住む場所は1つの汚染物質に制限されるのではなく、たいて
い混ざったいくつかの汚染物質に制限されます。また、計測する時間によっても差が出ます。この点で、
指標生物を使って環境を推測することは優れています。下表をもとに調べることができます。

亜硫酸ガス濃度（年平均）と 出現種の関係			
区域Ⅰ	0.05 ppm 以上	たいへんよごれている	なし
区域Ⅱ	0.04-0.05 ppm	↓	コモチイトゴケ、サヤゴケなどが極わ ずか
区域Ⅲ	0.02-0.04 ppm	↓	コモチイトゴケ、サヤゴケがごく普通 の他 1-2 種を加える程度
区域Ⅳ	0.01-0.02 ppm	↓	ヒロハツヤゴケ、コハイゴケ、ナガハ シゴケ、ヤマトヨウジョウゴケなど一 カ所で 4-5 種
区域Ⅴ	0.01 ppm 以下	きれい	カラヤスデゴケ、イワイトゴケ、ラセ ンゴケなどを含み一カ所で 5 種以上

Taoda (1972) を改編

(引用文献)

Taoda, H. 1972. Mapping of atmospheric pollution in Tokyo based upon epiphytic bryophytes.
Jap. J. Ecol. 22(3): 125-133.

さがす楽しさ

材料と方法

1. 校庭の樹木に着生する胸高付近（おおむね 1-1.5m）付近のコケを全種類採集する。1つの種類は
1つの袋に入れて、採集した場所の様子、木の種類などを記録しておく。採集する前にコケのざわり
心地など五感を使って観察するのもよい。

※この時ちがいを確かめるためにルーペや虫メガネの観察が必要です。子どもたちは、ちがいがわか
らない小さな世界が、大きく拡大することによって多様であることにびっくりします。このような観
察だけに少し時間を取って、いつも見ている世界をちがう見方で見ると全く知らない世界が発見でき
ることを知るよい機会にもなります。←低学年では生き物をとにかく虫メガネやルーペで観察するだ
けでもたくさんのふしぎが発見できます。

2. 教室に帰ってコケをしらべる。

※わからない場合は、ちがいを確認し、何種類あるかだけでも OK です。

3. 何種類あったか記録して、表とあわせて、大気汚染の程度をしらべる。きれいな理由、きたくない
理由を考える。

※広い校庭の中で車の排気ガスの影響を受けやすいと

ころがある学校ではその区域をわけてしらべると明瞭なちがいが見つかります。

※何種類あったかだけに注目してもよいです。正確ではありませんが、概観するのには十分です。

しらべる楽しさ

わかる楽しさ

たとえば、コケにすっぽりとおおわれた木があったとしても、1種類しか見つからないところは、他のコケが生えることができないほど大気汚染が進んでいます。大気汚染に強いコケにとっては障地争いをする競争相手がいない天国のような環境ということが出来ます。このあたりから、たくさんの生き物がいる方が、人間にとってなぜ良いことなのかを考える材料にもなります。

(木村全邦：森と水の源流館)

第3回森と水の源流館授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2020年9月5日(土) 10時～12時30分

◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修会

◇参加者

◇内容 ESD授業構想案の相互検討会

1. 森林資源の働き：小学5年生ESD社会科・大牟田市立吉野小学校島先生

森林資源の働き：森林白書 目標15・12

多面的機能があることをつかませたい、循環利用のイメージをつかませたい

林業従事者の工夫や苦労 自分たちにできること

単元展開の概要

導入：国立競技場：森のスタジアム これまでのオリンピックスタジアムと違う

日本のイメージ：森林が多い国

発問：森林の多い国土と私たちの暮らしの関わり

吉野：桜の名所（ただし奈良県）→吉野林業へ 工夫や努力・多面的機能を教わる

発問：割り箸を使うことがなぜ森林を保全することになるんだろう？

発問：国土を保全するために自分たちのできることは何か？

- ・アクロス福岡が「35年後には森になるビル」というコンセプトで建設されています。
- ・オリンピック会場など、現代のトピックから入る導入が良い◎
- ・導入の時に、本物の木材を児童に提示することで、手ざわりや、においから児童の興味はより平がるという意見がでました。
- ・杉で比較するとして、九州の材と奈良の材で香りに違い出たら面白いなと思ったりしました。
- ・吉野は日本で最初に植林による持続可能な木材利用を行った場所なので、場所にこだわらず木材利用の持続可能性を学べる場所です。吉野かわかみ社中に協力してもらえば現場ともつながることができてよいと思いました。→ 役場の加藤さんに依頼する
- ・各県の木材が使われているということでしたが、奈良県は、どこの木が使われているのか。福岡ではどこの木が使われているのかと疑問があがり、それを調べることも、児童の興味につながるのではないかという意見が出ました。
- ・「吉野」という地名のつながりについて。本当に何か関係がある？子どもを引き付けるいい素材になりそう。
- ・最後の行動化を「自分の身近なところで」が大事。吉野林業からどう大牟田につなげられるか。吉野小の近くで林業されている方と繋がれるとおもしろい？（吉野林業で修行された方）
- ・先日の豪雨災害で、森林の水源管理としての役割の大切さがわかった。そこにもつながるといいかな。（映像資料を使おう）
- ・わりばしという身近なものから考えるのは良いと思います。九州でも奈良の吉野のように間伐材の端を使った割り箸が作られている場所があるのだろうか・・・と意見が出ました。
- ・世界的な環境問題は森林伐採などによる森林の減少ですが、そのほとんどが原生林です。日本のように人工林型の林業は国土保全のみならず、グローバルな視点の環境問題にも視点を持っていけると思います。

2. みんなが喜ぶ製品を作って販売しよう 山形大学附属特別支援学校高等部 阿部先生

作業学習：働く力を、働く意欲を養う

県産材のアンケートから

いつも使っている木材との違いを体感させる

でも、値段は高い

発問：県産材を使うといいことは何かな？

端材の使い道 燃料に

その場でお金を払って購入して製品作りをしよう

身近な人に喜んでもらおう

県産材を使うことのよさをアピールする（幼稚園、購入者）

※森林、木材、製品化、使用 とそれぞれの段階で「人」が関わっていることを伝えるのが大切。

「よい木に育てよう」「いい材木にしよう」「喜んでもらえる製品にしよう」「大切に長く使おう」

たぶん、この背景に流れているのは、「信頼」。木材・木工を通して、社会を成り立たせている「信頼関係」の大切さを伝えてください。

- ・体感するところがたくさんあるのがよかった。
- ・支援学級なので、体感、体験を重視するのが良いと思いました。例えば・・・伐採現場見学、製材所で丸太が板になる様子を見学など。それから安価な米材と山形県産材の違いを同じ製品をさわって確かめるなどすると面白いと思いました。
- ・導入の所は、県産材の「よいところ」に限定しなくてもよいかも・・・メリットとデメリット。木工製品の全てが県産材でなくてもいい。では、県産材に向いている製品とはどんなものか？
- ・製品を購入する人にもアイタ材木店さんにも喜んでもらえる。そして、地域の自然環境にとってもよい。近江商人の「三方よし」。
- ・市有林を見る機会が設定出来たら・・・写真だけでもいいので、素材がなっている「森」の様子を目せてあげたい（教師がビデオを撮影して見せるという手もある）
- ・喜んでもらう人の姿を見て働く良さに気づける。木材になるまでの流れを知ることができる。自分たちがしていることを実感できる。働く意味を実感できる。
- ・キャリア教育にもつながりますね。地域を好きになる学習ですね。自分が製作するということで実感ができる学習
- ・「身近なところにつなげるのはさすが。人と人をつなげるのが大事だと思いました」「自分で動くことが大事、ESDとなっている」「知ることだけでなく、広げていくことは大事。楽しそう」という感想が出ました。
- ・自分たちの製品の材料に目を向けることで学習が深まる。人との繋がりも広がる。
- ・「自分でつくった製品のおもいや物語を伝える」ということは、ほかでも活用すべきですね
- ・森林史では東北地方は近年まで乱伐を免れています。伐採が問題になったのは明治以降。
- ・荒れた森の写真というのはあまり撮られていませんが、林業に関わるものとか、山中にある寺院・神社の写真はわりと撮られています。それから探してみるのが良いかもしれません。（古本屋等で昔の絵はがきを探してみよう）

3. 水はどこから 近野先生

価値観：上流から下流までの様々の人のことを考えて水を使えるようになる

導入：田んぼの水

発問：生活に欠かせない水はどこでつくられ、送られて、どこへいくのかな？

資料から見学への意欲を高める 浄水場見学

人と出会うことで（下流にある学校・湧き水のある学校）実感をともなった学びにしたい

森林の役割

水を大切に使う理由 下流の人にも影響を与えている 節電にもなる

浄水場の人たちの努力を無駄にしてはいけない

よい水を生み出してくれている山形の自然の価値に気づかせる

飲み比べはおもしろそう 学校間交流につなげる

水道水の方がミネラルウォーターより安全 いろいろな規準が見つければいい

上水メインだが、下水にもいったほうがいいのかと思った

学習の成果物をお世話になった方々に送る事を伝えておく 発信型になる

- ・ 3種類をわからないようにして飲み比べするとおもしろい。案外、水道水がいちばんおいしいかも。学校間交流がすごくいいと思うので、そんなことを3校で交流できたらいい。
- ・ **Zoom** 交流を通して、上流の学校として「下流にきれいな水を流したい」という言葉が出たら、同じ上流に位置するところで「川上宣言（私たちは下流にきれいな水を流します）」というのを作っている所もあるんだ、ということを知り、「〇〇小宣言」を作って、言葉にすることで行動化を具体化させる手立てがあると良いかも（つなげ方が難しいかもですが…）
- ・ 交流を通して、水自慢をする。氷の解け具合の差を見してみる。
- ・ おいしい水が作られてくる理由：浄水場の人たちの努力、山形のよい自然環境 に気づかせること
- ・ 水道に節水に関するリングやポスターを設置してあることがあり、身近さを実感できる。下水と上水は選択であるが、どのようにしてつなげているのか？**zoom** などでの子供たちの反応はどうか？下水のことについてしっかりと学んだうえで、下水の学習につなげると良いのではないかな。
- ・ 社会科としての上水道の学習と下水の学習は、やはり切り離れたほうが良いと思います。後半を見ると上水道のことがほとんどですから。
- ・ 新聞などの広報物を作るのであれば、社会にアウトプットできる形にして、大人の人の意見を聞く、あるいはほめてもらうようなうれしい体験につなげてあげると学習内容が心の底に残ってつながると思います。
- ・ 浄水場の人たちの努力を無駄にしない 山形の自然を無駄にしない、下流の人たちのことも考える、節電にもなる
- ・ 水は貴重な資源であり、水の確保は生きる命の確保でもあった。そのような時間の流れを授業に組み込んでいくといい教材になる
- ・ 話を聞くだけでなく、自分たちでフィールドに出て川の状態を見る活動があれば、実感に繋がりそう。
- ・ 話を聴かせてもらった施設の人たちに、自分たちが気づいたこと、考えたことなどを伝えたいうえで、さらに感想を聴かせてもらうというのもありますね。

4. 耳成南小の生き物マップをつくろう：2年生生活科・川崎先生

虫嫌いの子が3年生になったときに関心を持って昆虫の学習に取り組めるように

導入：虫の鳴き声クイズ 身近なところにいる生き物への関心を高める

発問：校内のどこにどのような生き物がいるだろうか？

昆虫採集・観察→飼育 気づいたことや調べたいことを出し合う

調べる活動：自分なりの意見を持って、専門家にたずねる

インターネットはダイレクト、図鑑の方が雑多な情報があつてよい ハンドブック的なものがよい

虫のお仕事を考えさせることから虫嫌いを少なくできる

室外では、お仕事と身体づくりの観察 環境にあわせた身体づくりのしくみ 身体が道具

室内では行動の観察

生活科は関心を高める、気づきが大切。地域の生き物をくらべる

子ども達に活動をまかせる

- ・「鳴き声」から導入したのが工夫されているな
- ・生活科で活動を通して生き物についての気づきがあることが大切。身近なところにいる生き物を知ればよい。2年生という段階で無理なく学べる内容だとよい。
- ・虫の役割を見える化してあげることが大事な。虫の「お仕事」
- ・虫嫌いは、自分の知らないものに対する不信からきているような気がする。
それは、人間関係においても同じかと。昆虫が果たしている役割を見せてあげることが大事
- ・NHKforSchoolの「ものすごい図鑑」で調べてみるのもいいかもしれません。昆虫嫌いな子のためには、役割分担（記録係など）をしないといいかもしれません。校区の生き物マップを作るとESDの学びを広げられるかと思います。
- ・しらべ学習の方法として、先生が図鑑を選んでくるのではなく、図書館があるなら、司書さんに子どもたちが相談するところから始めれば、図鑑の選び方や使い方を学ぶことにもなる
- ・調べ学習の際に、図鑑を探すなら、せっかく学校図書館があるなら、図書館リファレンスを体験させてあげればよいと思います。事前の仕込みでもいいので、司書さんがいればなおよしです。今後のいろいろなしらべごとに図書館や専門の司書さんが役立つことも伝える機会になると思います。
- ・動植物の飼育を通して、生き物の成長や変化に気づかせることが大切。時間的の経過を取り入れてもいいのかな。
- ・分布図にまとめた後どうするかが大切かな。参観で保護者を巻き込むなども面白そう。
- ・生き物マップをつくるのであれば、来年も次の2年生に続けてもらえば、学校の定点環境観察のデータベースになる。虫以外の情報もマップに落とし込めばおもしろい
- ・生き物マップの経年変化が残せるとよいですね。
- ・最初から専門家が登場せずに、後で出てくるところがよい。考えたこと、気づいたことを専門家にぶつけることがいい。

5. ゆかし いとおし 奈良の自然 秋篠川 4年生総合・平城小・村上先生

川上村や平城の人たちの思いにせまる 人物に焦点化する

パンフレットを読もう（国語） 川上 思いをつなぐ川

情報をあつかうでも

道徳「このままにしていたら」いのちをつなぐ岬 思いに着目させる

社会：水の循環

源流館の見学 源流の見学 川と自分とのつながりを考えさせる

いまだ、子どもに実感が伴っていない

秋篠川に対しても他人事になっている

一度、川の清掃活動を体験し、美しくなった一ヶ月後にもう一度見学に行くときっと汚れた状況になっているので、「なんでやねん」ち、自分事化するのは。

川上村を訪問して、秋篠川と比較することで自分事化できるのでは。

- ・自分の住んでいる地域のお気に入りを見つけるために川上村に来てほしいです。
- ・美しい自然を体験し、それが好きになってくれるのが一番。
- ・小グループに分かれて、自分の調べたいことを切り口にして、学習を進める。自分の調べたいことを自己決定させる
- ・「川の水を抜く」みたいな番組がなかったでしたか。導入として、他地域のきれいにしたいという方々の想いを知ることは使えるでしょうか。
- ・川上村と平城の共通部分を見つけられれば良いのかな？
- ・川上村で子どもたちが期待していることはどんなことでしょうか？川上村で出会った自然と、平城の自然の共通点（生き物など）が見つかり「自分の地域もいいやんか」と思えるのではないのでしょうか。
- ・自分事化していくのには時間がかかってしまう。段階を経て、徐々に養っていければよいのではないか。子供たちが気づき、行動に移せるようになることができれば一番良いが、つなげることが困難である。
- ・ロイロノートは使い方が簡単で、児童それぞれがつくったものを、教師側で集約できるから便利。
- ・平城宣言をつくることを事前に知らせ、課題に対する必要感を持たせる
- ・地域素敵パンフレットみたいなものを作って地域住民に配るのも良いかもしれません。昨年度、川崎先生の学級が作製した防災パンフレットが、川上村の防災訓練でも登場した実績があります。（村上先生の得意分野の国語科の学びの材料として関連づけて取り組んでは）
- ・宣言に関しても小さくていいんだと思います。児童が何を感じ、何をしようと思ったか。確かに詩とか短歌とかエッセイとかにしてもらうっておもしろい

2020 年度 第 4 回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

1. 開催日時 2020 年 12 月 20 日（日）10 時～12 時
2. 方法 ZOOM によるオンライン研修
3. 参加者 遠入・高倉・島・村上・新宮・中澤敦・阪本・大西・宇和谷・辻本・川崎
加藤・古山・石田・尾上・中澤

4. 内容

（1）豊かな水・小学 4 年生（平城小学校 村上先生）

どう、自分事にしていくのかについて取り組んだ

調べる 川上村音無川 昆虫の話聞く（古山さんより）、川での体験活動
秋篠川 谷幸三先生 川の生物調査

深める 気づいたことを模造紙にまとめる

川の発見を古山さんに伝え、アドバイスをもらう 人とのつながりも深まる

河川課 大和川、有機物に関する実験：秋篠川の水もきれいなんだ

気づく 「人」「自然」「生き物」「川の様子」でまとめていき、それを毛糸でむすんでいく
→ 生き物と人はつながっている を実感

毛糸を玉にする → すべてはつながっている

しかし「知識・体験・思い」が自分とつながった感想には思えない

自分のこととしてつなぐ必要がある

自分事にするための取り組み

情報の整理

秋篠川の未来を想像させる（総合） 平城京の時代に人の手によってつくられた

現在は生き物がつながっている

未来

自然への思いを寄せる（国語科）

詩にしてみる 生き物になりきって（「野原うた」より）

多様な視点から考えるきっかけとなった

自分事化するには詩作が有効

自分思いを明確にすることができた 次は行動化

※意見交換

詩作への視点が素晴らしい。自分事として考えられている

次の行動化を促す方策を考える際、防災など

毛糸でつないでいくのは目に見えるの、感覚的によくわかる（本来は川の広がりを示すための手段）

ひとつだけ解決しても終わらない、ことも SDGs の学習に活用できそうな手法

毛糸の色も関係して利用できる。「し・あ・環・せ の糸」（ネーミングは尾上さん）

授業参加の観点：古山さんも虫の気持ちになって考え、伝えようとしている。共通点。

総合から国語へと教科横断的な学習になっているのいい。

実践者の強みを生かした授業になっている。

詩作は単元構想時から計画していたのか→途中で国衙で表現することを思いついた

俳句では視点がずれていた。今回は「生き物になって」「未来」と視点を定めた。

※行動化を促すために

- ・詩などの作品を共有する 家族などにも伝えることをまずやるといい
- ・生き物視点か川視点でいくのかを明確にすると 生物多様性・地域の環境・防災なのか
→ 平城宣言をつくるなかでの多様性を確保したい
- ・アンケートなどで継続的に行動化を維持する。
- ・他の学校とオンライン交流などで行動化への意欲を高める
- ・学校としてのカリキュラム・マネジメントが必要 時間の確保、楽に行動化ができる
長期の休みを使う。 一人一人の行動を丁寧にサポートする。

※継続がキーワードかと思った。継続的に行動をモニタリングしていきたい。

ラップのアンサーソング（誰かの詩、自分の詩に対して）

（２）辻本先生（川上小学校）５年生 食と環境

「川上村から世界へ！ ～コロナと食問題～」

休校中に気づいたことを出し合う

よく買い物に行くお店が受けた影響を知りたい アンケート調査

学校給食への影響は 栄養職員の先生にインタビュー

もっと食について調べたい

自給率の向上が求められていること

川上宣言とSDGsの関わりから、村の自給率をあげられないか

目標１４・１５・１６ はできている。今回は目標１１に

村外調達を村内調達にできないか

村内の農業を応援することが大切

「やまいき市」

買い物に行けない人がいる

地産地消・地域創生

村内の人が購入するのが多い

村内の生産者（おじいちゃん・おばあちゃん）を訪問

環境のよさを活用した生産をされている

やまいき市の人が回収に来るのを楽しみにしている（人と人のつながり）

やまいき市を応援したい。

意見交換

- ・都会では得られない体験 ほんものの体験 人の温かさ 村づくりにつなげているいい実践だ
そこでしかできない体験、学びがあると思った。
- ・お金が全てではない、人とのつながりの大切さを学ぶことができる
- ・コロナ禍の導入が優れている。
- ・いろいろな本物を教材にされている。環境にこだわらずに村づくりへ進まれてはどうか。広がりがでる。 他地域へと広げることで一般化した学習になる。
- ・経済以外の価値に気づく学び。

生き物 川崎先生 耳成南小学校生活科

虫への関心を高める 鳴き声クイズ 生き物に関する知識の共有 校内生き物探し
生き物採集 観察カードへの源流館の古山さん（昆虫湯専門家）がコメント記入

教科横断・図工：光のプレゼントで表現活動

調べ学習 図鑑を用いる 図鑑のよさ

森と水の源流館・橿原市昆虫館とのリモート交流

子どもの質問に専門家より丁寧に答えてもらう

特別活動・運動会

分布図の作成 廊下で掲示

子ども同士の関わりや教員同士の協力関係が形成できた。

意見交換

- ・つながり がたくさんあった。
- ・他教科や特活の時間を利用することで、子どもの意欲の継続ができています。
- ・2つの施設をリモートでつないでいたのが、先生の行動力を感じた
- ・生き物の命を尊重する態度の変化はあったか？
- ・フィールドワークと体験と人との出会いがE S Dでは大切。

阪本先生よりアドバイス

- ・鳴き声クイズで子どもの関心を高めたのがよかった。生活科は体験を通した学ぶ教科なので、動機付けがキーポイントになる。
- ・1年生と2年生の追究の違いを感じた
 - 1年生：名前をつけて大事にする・飼育の中での発見 何を食べているのかなあ
 - 2年生：自分たちが抱いた疑問を追究していく
- ・つながりがキーワード 子ども同士・専門家とのつながり
- ・I C Tの活用について どんどん活用する場面を提供していくことが大切
リモートを用いた交流もよかった
- ・学習の出口を工夫する
分布図の利用方法をさらに（目的だけでなく、学びを広げたり深めたりするために）
- ・命の大切さについて考えることが大事
生き物が死んだときがそのタイミング 悲しみー詩作 話し合い

2020 年度 第 5 回森と水の源流館授業づくりセミナー・授業実践報告会 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2021 年 2 月 20 日(土)9 時 30 分～12 時 30 分
◇会場 森と水の源流館川上村劇場と Z o o m によるオンラインのハイブリッド方式
◇参加者数 46 名
◇内容 授業実践報告

1. ESD 実践のポイント (大牟田市立吉野小学校：島先生)

①教科と総合をつなげる

内容をつなげる：合科、発展、連続

方法をつなげる：補完、競合

②教師の手立て

- ・空間的・時間的比較場面をもつことで相対化を促す
- ・人の営みにふれさせ、人に学ぶ場面を設定する
- ・ライフスタイルの問い直しを迫り、行動化を促す

③目標に関わる事前・事後のアンケートで子どもの変容を客観的に捉える



2. 生き物マップをつくろう (橿原市立耳成南小学校・川崎先生) 2 年生生活科の授業実践

①導入の工夫 虫の鳴き声クイズ

②中心発問 虫はどこにいるのか → 昆虫採集の動機付け

古山さん(専門家)による観察カードの指導 → 外部講師とのつながりの活用

古山さんから一人一人の観察カードにコメントを付けていただく

図鑑を用いた調べ学習

③表現・発信：昆虫館と源流館と学校をオンラインでつないだ

→ コロナであきらめるのではなく、できることを考える

子どもの観察力が飛躍的に向上し、図工作品にも生かされている

3 年生の理科につながる学習

3. つながる総合 (奈良市立平城小学校・村上先生)

4 年生総合的な学習の時間 秋篠川「たんけん・はっけん・ほっとけん」

①他教科とのつながり：国語「のはらうた」を用いて人以外のものからの視点の獲得

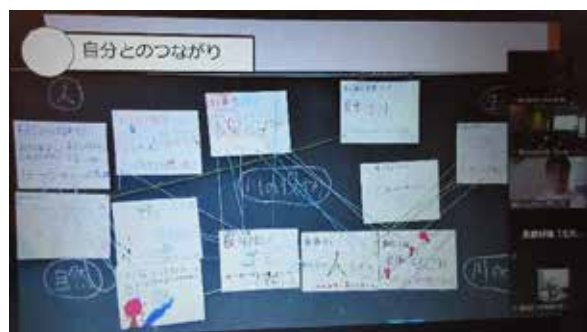
②人物とのつながり：古山さん(専門家)との出会い「あこがれ」・人から学ぶ意義

③生き物のつながり：生物指標調査より、生き物同士のつながりを糸でつないで可視化する。

④自分とのつながり：生き物同士のつながりの中心に自分を位置づけてみる「しあ環せの糸」：

SDGs の目的も「しあわせ」になること

⑤未来とのつながり：つくりたい未来を考え、現在のライフスタイルの見直しへ



4. 千歳の伝統とわたし（山形市立千歳小学校・阿部先生）

4年生総合的な学習の時間：伝統行事の意義を多面的に捉えさせる

「田植え踊り」・・・「なぜ伝承されているのだろうか」

- ・予祝一神楽 ききんとの関係：SDGsの目標2との関連
- ・雨乞い大明神 当時の人々の気候変動への対策ともとれる。SDGsの目標1・3との関連
現代の私たちにはどのようなやり方があるだろうか

◇単に続けていくためではなく、伝統行事の意味を考えることで、

①地域への愛着を育てる

②SDGsを介して地域の課題と世界の課題をつなげることで視野を広げる

→ 地域社会の担い手を育成する。

5. 川上の自ら始まる 紀ノ川の旅 水のつながり、人のつながり

（和歌山市立雑賀小学校・赤松先生） 4年生総合的な学習の時間

川上村から届いた水のペットボトルの絵に着目：どうして木の絵が描かれているのか

川上村について調べることで森と水が関係していることに気づく

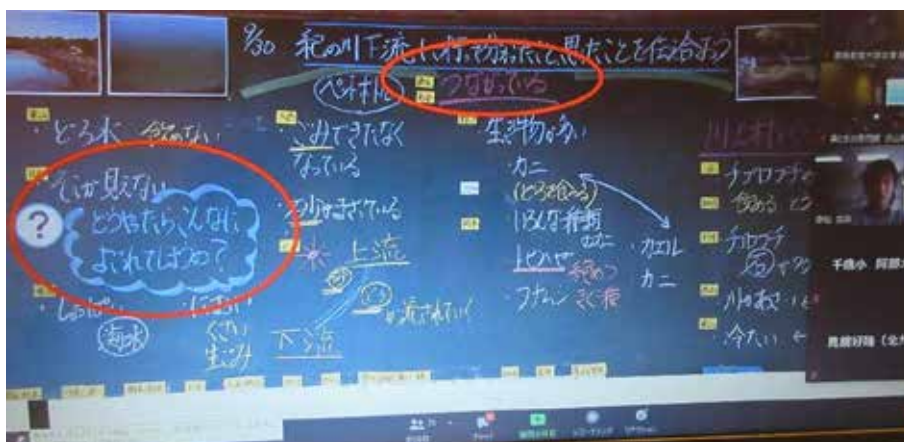
「水の旅のはなし」 松谷さん、尾上さんとの出会い

→ しかし、川上村の川にもゴミが捨てられている事実

それは流れてやがて海洋に 海洋漂着ゴミ調査の実施

「いいこと（水を守ること）」も「悪いこと（ゴミのポイ捨て）」も「人」でつながっている

「つながること」の大切さに気づく：様々なことが自分とつながっている



6. 高分子化合物（九里学園高等学校：川合先生）

高等学校化学の実践

○プラスチックに着目：とても便利なもの、分解しづらい、燃やすとガスが発生する

便利であるがゆえに膨大な使用量

分解しづらいがゆえに、蓄積量が膨大に

ガスが発生するので処分が困難

▼海洋プラスチックゴミの問題

海洋生物の誤飲・誤食、からまりなどだけでなく、マイクロプラスチックになることで、生物濃縮が生じ、いずれは人間の健康被害をもたらす可能性がある。

◎有用であるがリスクもある

生分解性プラスチックをつくる　きれいにすることができない
→ 生分解性プラスチックがすべてを解決してくれるわけでもない
日常生活における生徒の変容を促す

7. 「食」と「環境」（川上村立川上小学校・辻本先生）

「コロナと食問題」 5年生総合的な学習の時間

①コロナ禍による影響を出し合う：客観的事実に基づく学習

（家族への聞き取り調査）

・お店の品揃えが減っている、・欠品（マスクなど）がつづいていた

（お店へのインタビュー）

・マスクや体温計がよく売れた。

・村内で買う人が増えたので客は増えているが、村外からの客は減った

（栄養職員へのインタビュー）給食への影響

・メニューを変更しなければならないときがある。　・牛乳が変更になった

②コロナ禍で村内の人が困っていることの解決策

「やまいき市」の活性化

・買い物に行けない高齢者宅への配送

・地産地消の促進

・人と人のつながり（やまいき市が来ることを心待ちにする高齢者達）

・村内経済の活性化にも役立っている

◎「やまいき市」の意義を多面的に考えることができた

8. アクティブ+ポジティブによるサステナブル・ラーナーを育てる

（橋本市立あやの台小学校・中谷先生）

年間を通じたボランティア活動「えがこうよ　しあわせ色の　大事な未来」

米づくり：おいしいお米には「水」が大切。みんなの健康を支えているのも水の恵み

エコマート：おいしい野菜はおいしい水から

町探検：地域を知ることが地域を好きになる第一歩

ESDで地域課題に挑戦する．地域を大切にする活動に取り組むことでもっと好きに

防災　：地域の方と一緒に防災キャンプの体験

パーテーションの組み立て、避難所設営、ハザードマップの製作

暗所体験、新聞スリッパづくりなど

スポーツゴミ拾い　地域のためにできることを考えて実行する

◎アクティブ+ポジティブ→サステナブル・ルシンキング→サステナブル・ラーナー

9. みんなが喜ぶ製品を作って販売しよう（山形大学附属特別支援学校・阿部先生）

これまでの木工製品作りと今年度の違い・・・県産材を使おう

○県産材に詳しい人（森林整備課）に電話インタビューをする・GTとして招聘する

・山形市の市有林の状況や森林資源の果たす役割、県産材を使う意義について教わる

○地域の材木店で杉の製材を見学し、県産材を購入する。

○県産材で幼稚園児を対象としたバザーの販売する製品を作る

- ・森づくり推進室に箸の作り方を教わり、治具を借りる。
- ・幼稚園児にちょうどいい箸の長さがあることに気がつく
- ・バザーで販売すると共に、県産材を使う意義を保護者に伝える。



令和2年度

近畿 ESD コンソーシアム 春日山原始林授業づくりセミナー 開催要項

1. 目的

2015年に持続可能な開発サミットにおいて「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、持続可能な開発目標（SDGs）が掲げられ、世界中でその達成に向けた取組が行われている。SDGsの達成に貢献する教育であるESDを推進するにあたり、教員のESD実践力向上は喫緊の課題である。近畿ESDコンソーシアムでは、身近な世界遺産である春日山原始林をテーマに授業づくりセミナーを開催することで、学生及び教員のESD実践力を養成することを目的として、本セミナーを実施する。

2. 協力 春日山原始林を未来へつなぐ会

3. 実施日時及び内容

■フィールドワーク

春日山原始林及び奈良公園周辺地域のフィールドワークを実施する。授業づくりを進めるにあたり、奈良公園および春日山原始林の自然に親しむことを主題とし、定期的（概ね月1回程度）のフィールドワークを実施する。

番号	日時	テーマ	場所
1	8月2日（日） 9:00～13:00	春日山原始林の現状と課題、歴史的背景、動植物の概要等	春日山遊歩道（北部）～若草山
2	8月30日（日） 17:00～20:00	夜の生き物観察、森を感じる体験	春日山遊歩道（南部）
3	9月13日（日） 9:00～13:00	自然体験プログラム（ネイチャーゲーム等）奈良公園の生き物	奈良公園（飛火野周辺）
4	10月24日（土） 9:00～15:00	奈良公園・春日山のどんぐりと巨樹めぐり	奈良公園・春日山原始林
5	12月12日（土） 9:00～15:00	春日山の石仏と紅葉	春日山原始林・滝坂の道・誓多林
6	1月30日（土） 9:00～13:00	春日山周辺の鹿垣めぐり	春日山原始林・滝坂の道・誓多林

※上記以外に春日山原始林を未来へつなぐ会主催の観察会を実施予定

テーマは「シダ」「きのこ」「シェアリングネイチャーウェルネス」「スケッチ」「野鳥」

（別紙：令和2年度授業づくりセミナー関連観察会.doc 参照）

■セミナー（当面の間、オンラインで開催する）の実施計画

7月11日（土） 10:00 ～12:00 SDGs・ESD の理解促進

10月10日（土） 10:00 ～12:00 ESD 学習指導案の相互検討

12月05日（土） 10:00 ～12:00 実践事例の報告会

4. 参加対象

奈良教育大学学生・大学院生・教職大学院生

近畿 ESD コンソーシアムの教員等

ESD ティーチャープログラム参加者

5. ESD ティーチャープログラムとの関連

- ・授業づくりセミナー参加者・参加学生は、1回以上、フィールドワークに参加すること。
- ・ 本セミナー・フィールドワークへの学生の参加は、ポートフォリオ作成をもって ESD 演習としてカウントする。
- ・ 本セミナーへの教員等の参加は、ミニレポート作成をもってセミナー参加にカウントする。
- ・ 本セミナーで作成した ESD 学習指導案は、ESD ティーチャープログラムの認定要件である ESD 学習指導案にあてることができる。

第1回 春日山原始林授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2020年7月11日（土）10:00～12:00

参加者：現職教員等：中澤哲、中澤敦、新宮、柚木、挽地、山本、川崎、吉田

学生：福井、小田垣、山崎、松岡、稲富、江口、西田、飯村、野村、木村、下原、西條、
福田、古橋、藤本、西田、谷垣

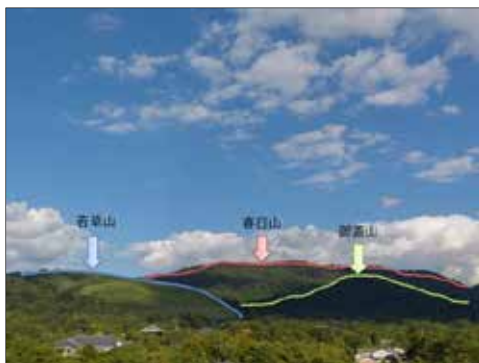
大学教員：中澤、大西、太田 27名

実施方法：ZOOMによるオンラインミーティング

■セミナー概要

世界文化遺産・特別天然記念物「春日山原始林」を活用した授業づくりを考えていく上で基礎となる春日山原始林の現状と課題について、話をすると共にグループワークにより情報共有を行なった。

■春日山原始林の概要



指定理由

春日大神の神山として古来殆ど斧鉞（ふえつ）を加えず、樹木の巨大なものも多く、暖地の草木の種類が多いばかりでなく、寒地性の種類を交え、また、ホンゴウソウ、カギカヅラ、ナチシダ等の如き亜熱帯性植物もあり、特に都会地に接してかかる原始林とその特異の林相のよく保有されていることは稀有のことであって、学術上の価値が深い。

文部省ウェブサイトより

特別天然記念物

Ⅱ

自然的価値

春日山原始林の位置づけ



日本人の伝統的な自然観とふかく結びついて保護されてきたということが、人とのかわり合いを示しています。スケールの大きな鎮守の森なのです。このため、春日大社と一体のものとして文化遺産に含まれています。

奈良県ウェブサイトより



人の手が入った原始林？

原則的に手を入れず、災害等が発生した場合のみ、在来の種を補植するなど、人の利用を目的とするのではなく、歴史・文化的背景および景観維持を考慮し、維持されてきた原始林。

**日本人の伝統的な自然観と
ふかく結びつき保護されてきた森**

■春日山原始林の課題

春日山原始林に起きていること

春日山原始林は、いくつかの要因により、大きくその生態系が損なわれており、原始林の特徴である照葉樹林を維持できなくなる恐れが指摘されている。

後継樹の不良生育

原生的な照葉樹林を主に構成しているシイ・カシ類などの実生や幼樹が少なくなっています。

このため、照葉林が将来的に衰退していくことが危惧されています。



下層植生の衰退

原始林では、絶滅危惧種を含む希少な下層植物が、今もなおみられます。その一方で、土壌流出が原因となり、シダ植物をはじめとした下層植物が衰退しています。

ナギ・ナンキンハゼの拡大

シカの忌避植物であるナギやナンキンハゼが、原始林内へ拡大し、着実にその生息範囲を広げているため、湿生的な照葉樹林が徐々に変容していきます。



原始林と生き物の共生

原始林内に生息するシカなど野生動物の食害により、植生の多様性が劣化しており、貴重な照葉樹林や多様な植生の維持のために野生動物との共生が課題となっています。



ナラ枯れ被害 の拡大

カシノナギキクイムシが樹木に穿入し、媒介した共生菌（ナラ菌）によって樹木が枯死するナラ枯れが、原生的な常緑樹林を構成するシイ・カシ類に発生しています。



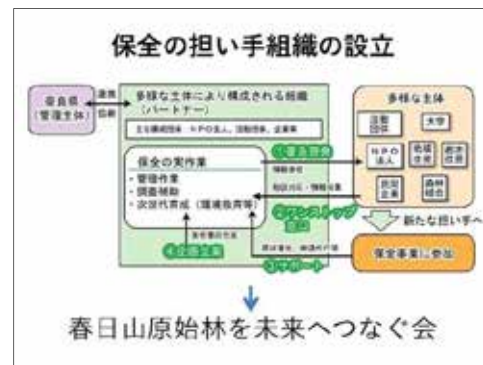
■春日山原始林の保全の取り組み

春日山原始林保全計画検討委員会

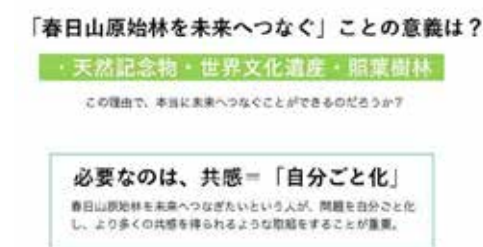


春日山原始林の10の保全方策

1. 照葉樹林を良好な状態で維持する保全方策を実施する
2. 照葉樹林の多様性を維持する保全方策を実施する
3. 後継樹を育成し文化財としての価値を修復する保全方策を実施する
4. 外来種ナンキンハゼの侵入を抑制する保全方策を実施する
5. 常緑針葉樹ナズの拡大を抑制する保全方策を実施する
6. ナラ枯れの拡大を抑制する保全方策を実施する
7. 花山・芳山地区人工林の保全・活活用を実施する
8. 保全事業を円滑に実施し得る仕組みづくりを行う
9. 多様な主体の参画を図る
10. 春日山原始林に関する基礎情報のマネジメントを図る



■春日山原始林を未来へつなぐために必要なこと



各項目ごとにグループセッションを実施し、それぞれで気になった点等について意見交換を行なった。最後に ESD の 6 つの視点から、春日山原始林でどのような授業ができそうかを考え、最後に全員で ESD との関連で考察したことをチャットに書き込み共有した。

出ていた意見（抜粋）

- ・原始林を自分事として捉えるためには、どのような活動ができるのだろうか。身近な山に着目させたり、他の山を見せる方が良いのか。学校現場では、もし春日山に行くとしたら、1 日しか時間がとれなさそうなので、現場で貴重な森林と思える活動を取り入れていく方が良いのか…。
- ・「きっかけ」をつくるのが「自分ごと化」への第一歩。学校教育の中で ESD をやっていくことは、学校以外の社会と「つなぐ」ことだと思います。
- ・「春日山原始林と人・シカが『共生』するってどういうこと？」に着目した授業づくり
- ・ビンゴカードを使って原始林内のたくさんの種類の植生を子どもたちにゲーム感覚、探検感覚で見つけてもらう（多様性）実際に見て感じることで、知らないから自分事につながるのではと思います

た。

- ・現状を知るためには、先ほど杉山さんが仰っていた、防鹿柵内外を見せると、視覚で比較しやすいのではないのでしょうか。

- ・春日山原始林の植物や発見したことを写真でとり、図鑑を作る。自分が見つけたものと他の子が見つけて来たものを見せ合ったり、紹介し合うことで多様性を理解できるのではないかと思う。

- ・鹿と森林の関係のジレンマを授業化する。

第2回 春日山原始林授業づくりセミナー 授業構想案の相互検討

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

■開催日時：2020年10月10日（土）10:00~12:00

■方法：対面（次世代教員養成センター1号館）とZOOMを用いたハイブリット形式

■参加者：現職教員等：山本（附属中）、河野、中澤（敦）

学生：江口

教育大：杉山、中澤、大西

■内容

授業構想案の検討

附属中山本先生より、授業案の提案・説明

（1）「春日山をシカが喰う現状を知り今後について考える」

0. 大台ヶ原を歩く
1. 春日山原始林についてのSDGsマップ作成（課題の整理）
2. 調べ学習をした上でのSDGsマップ作成
3. レクチャー資料作成
4. 食物連鎖ゲーム（体験）
5. 食物連鎖ゲーム（まとめ）
6. 前鬼モニタリング調査報告会
7. 春日山を歩く（奈良めぐり）
8. まとめ

■意見

○食物連鎖ゲームについて

- ・非常に面白いアクティビティ。現在は一般的な生態系の理解の学習だが、奈良公園版や春日山原始林版を考えると、さらに広がりが出てくるのではないかな。
- ・現在は、自然（植物、鹿、狼）だけなので、人間の関わりを入れていくと良いのではないかな。
- ・春日山原始林で考えれば、関係する対象を整理して、生徒たちに新たなゲームを発想させても面白いのではないかな。

○授業の目的について

- ・春日山原始林は様々な要素が絡んでいるため、幅広く捉えることができる分、この授業で目指す目的の部分が曖昧になっているように感じる。
- ・理科的な捉え方が強いので、総合の授業で扱うのであれば、人とのつながりについても意識してはどうか。例えば春日山にとって鹿は負の影響が強いが、平坦部では、鹿を保護するための標識であったり、愛護会の活動があったり、鹿に関連した商売をしている人もいます。その部分を生徒たちにどう意識させるか。
- ・「鹿が悪い」という意識ではなく、どのようにバランスをとっていかかが重要であることへの気づきが必要。
- ・自然環境を守るといって、中学生くらいだと「自然をさわらない」という意識が強くあるかもしれないが、人が関わっていくことが重要であることに気づくことが必要ではないかな。

○その他

・冒頭に大台ヶ原へのフィールドワークなどを入れている部分が良い。自然度が高い場所へ訪れて自然の雄大さなどを体験することで、以降の活動へのモチベーションが高まると感じた。

(2) 春日山を歩く 単元名「春日山をシカが喰う」

授業案の中の「7.春日山を歩く」の部分についての日程案・内容について検討した。

概要：

主題 春日山をシカが喰う

- 目標
- ・春日山を実際に歩き、自然を保護する立場にある人の説明や実際の状況を見て、シカの食害の状況やそれに関わる問題について知る。
 - ・春日山を歩きながら外来種を駆除、調節することを通して、自然環境への影響と人為的な駆除の難しさを体感する。
 - ・(環境保全に関わる人と出会い、人が関わることで初めて保全することができることを知る。)

() 部分は前段のディスカッションを通じて追加

○春日山と春日大社についての説明を聞く

○外来種の問題についての説明を聞く

○シカの食害についての説明を聞く

○森林を楽しむ方法についての説明を聞く

○防鹿柵内外の植物の違いについて知る

○どんぐりの採集を行う

○若草山頂上で昼食

フィールドワークでは、保全に関わる人(市民団体、行政より委託を受けている事業者)も同行しサポートする。説明は、基本的に2年生が1年生に対して行い、同行者が補足する。また、歩きながら外来種ナンキンハゼの駆除を行う。

■意見

○フィールドワークの進め方について

・生徒40名が全員で移動する場合、意識が散漫になりがちなので、小グループを構成しておいたほうが良い。

○森林を楽しむ方法についてアイデア

・音以外に、目を閉じて光や風を感じるアクティビティなどもある。また、「葉っぱじゃんけん」などフィールドの植物などを活かした活動も考えられるのではないかな。

・グループで「コケ」「虫」「きのこ」「岩石」などテーマを分けて、それぞれでタブレットなど活用して写真を撮り記録していったらどうか。

・現状のままだと、1年生がポイントを移動してそこで説明を受けるだけになってしまい、主体的に森を感じるところまでいけない可能性がある。そのため「お気に入り」を一つを見つけるなど、各個人が森の中で何かを探す行為があると良い。

・森の中で、見つけたものに対して、「なぜ自分はそれが良いと思ったか」について書かせてはどうかな。

○どんぐりの採取について

・シカの食害と外来種をテーマにしているため、どんぐりの採取を行うと内容的に幅広くなっていく

ため、どんぐりの採取については、次年度以降に検討してはどうか。

(3) 感想・まとめ

・春日山原始林は、人と自然の関係について幅広いテーマで学ぶことができる。様々なつながりを意識すると、どんどん広がっていくため、授業で取り扱う際のテーマをきちんと整理しておくことが重要である。

・アイデアがいろいろな方向に広がっていくのは興味深い。関係性を学ぶゲームを中学生が作ることができたら、それを活用して修学旅行に訪れる生徒たちなどに対して実施していくのも良いのではないか。

・今回の授業提案は、理科の先生の提案だったが、自分が奈良公園周辺で実践した際は、どちらかというと文化や人の方に寄っていたので新鮮であった。

・全体を通じて、「バランスが大事」ということだと思う。その意識を生徒たちが気づくことができると良い実践になるのではないかと思う。

第3回 春日山原始林授業づくりセミナー 実践事例の報告会

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

■開催日時：2020年12月5日（土）10:00~12:00

■方法：対面（次世代教員養成センター1号館）とZOOMを用いたハイブリット形式

■参加者：現職教員等：山本（附属中）、

学生：江口、小池

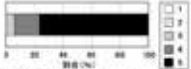
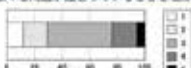
教育大：杉山、中澤、大西

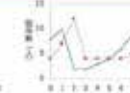
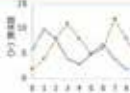
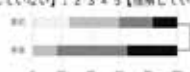
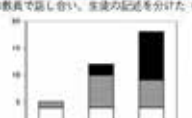
■内容

実践事例の報告

附属中山本先生より、授業実践の報告

「春日山をシカが喰うー鹿害から春日山を考える ESD 実践ー」

春日山をシカが喰う ー鹿害から春日山を考えるESD実践ー 奈良教育大学附属中学校 山本 達夫	はじめに ・春日山原始林の場所について 																																											
はじめに ・春日山は春日大社の御神木（平安時代から神護国保護） ・"奈良のシカ"は神鹿として扱われている ・国指定の天然記念物（1916年に指定） ・春日大社の使者は1年に1度春日山の木計に参拝 ・奈良の人々は春日山原始林を「春日さんの森」と親しむ ↓ 春日山は文化を背景に残っている 奈良公園ではシカが保護されている	はじめに ・日本各地でシカによる食害が報告されている（松井 2011, 辻野他 2013, Tasujima et al.2013） ・春日山でもシカによる食害の報告がある（前迫 2014） ・日本有数の御霊樹林 ーシー・カンなどの仲間が多い、光沢のある葉 ー宮崎県、奈良県春日山など	目的 ・奈良市の特筆すべき自然である春日山原始林が有する自然や問題について理解を深める ・世界遺産に影響を与えるシカの食害について知る機会を設ける ・自然の大切さを体験を通して知った生徒が、持続的に自然を保全していくための方法を考えられるようにする																																										
学習活動 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習活動</th> <th>時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0. 大台ヶ原を歩く</td> <td>（表参道15分）</td> </tr> <tr> <td>1. 春日山原始林についてのマップを作成する</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2. 調べ学習を通して、春日山原始林の問題を知り、再度マップを作成する</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>3. 奈良のシカについて調べ学習</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>4. 食害被害ゲーム（被害）</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>5. 食物連鎖ゲーム（まよめ）</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>6. 奈良のシカについて調べ学習</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>7. 春日山を歩く（奈良の森）</td> <td>15分</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> ※一部の活動は、奈良県立春日山高等学校で実施した	学習活動	時間	0. 大台ヶ原を歩く	（表参道15分）	1. 春日山原始林についてのマップを作成する	1	2. 調べ学習を通して、春日山原始林の問題を知り、再度マップを作成する	1	3. 奈良のシカについて調べ学習	1	4. 食害被害ゲーム（被害）	1	5. 食物連鎖ゲーム（まよめ）	1	6. 奈良のシカについて調べ学習	1	7. 春日山を歩く（奈良の森）	15分	8. まとめ	1	生徒のようす ・春日山やシカの問題について、生徒がどのような認識を持っているかをアンケートによって調査 ・アンケート内容 <table border="1"> <thead> <tr> <th>アンケート内容</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①春日山が有する自然の大切さについて</td> <td>【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】</td> </tr> <tr> <td>②春日山の自然の大切さについて</td> <td>【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】</td> </tr> <tr> <td>③春日山の自然の大切さについて</td> <td>【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】</td> </tr> <tr> <td>④春日山の自然の大切さについて</td> <td>【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】</td> </tr> <tr> <td>⑤春日山の自然の大切さについて</td> <td>【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】</td> </tr> <tr> <td>⑥春日山の自然の大切さについて</td> <td>【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】</td> </tr> <tr> <td>⑦春日山の自然の大切さについて</td> <td>【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】</td> </tr> <tr> <td>⑧春日山の自然の大切さについて</td> <td>【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】</td> </tr> <tr> <td>⑨春日山の自然の大切さについて</td> <td>【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】</td> </tr> <tr> <td>⑩春日山の自然の大切さについて</td> <td>【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】</td> </tr> </tbody> </table>	アンケート内容	結果	①春日山が有する自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】	②春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】	③春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】	④春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】	⑤春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】	⑥春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】	⑦春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】	⑧春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】	⑨春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】	⑩春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】	生徒のようす ①春日山が有する自然は大切だと思いますか。  ②春日山の自然の何が貴重だと思いますか。 ・昔からある樹木など。貴重な植物。木。自然 ③奈良、春日山の自然は大切という思いはあるが、何が貴重かは追加されている。
学習活動	時間																																											
0. 大台ヶ原を歩く	（表参道15分）																																											
1. 春日山原始林についてのマップを作成する	1																																											
2. 調べ学習を通して、春日山原始林の問題を知り、再度マップを作成する	1																																											
3. 奈良のシカについて調べ学習	1																																											
4. 食害被害ゲーム（被害）	1																																											
5. 食物連鎖ゲーム（まよめ）	1																																											
6. 奈良のシカについて調べ学習	1																																											
7. 春日山を歩く（奈良の森）	15分																																											
8. まとめ	1																																											
アンケート内容	結果																																											
①春日山が有する自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】																																											
②春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】																																											
③春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】																																											
④春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】																																											
⑤春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】																																											
⑥春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】																																											
⑦春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】																																											
⑧春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】																																											
⑨春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】																																											
⑩春日山の自然の大切さについて	【最も大切】1. 自然の大切さ【最も大切】																																											
生徒のようす ①シカによって様々な問題が起こっていることを理解している。  ②春日山で起きているシカの問題（鹿害問題）について、どのようなことが起きているか、知っていることを書いてください。 ・貴重なものを食べる、木（樹）を食う、鹿が森を荒らしている ③奈良、春日山で起きているシカの問題についても自然とシカが関係している。	0. 大台ヶ原を歩く ・大台ヶ原を散策し、森林の現状・問題について学び、自然環境の保全に対する興味や関心を高める。 ・鹿害問題を有する森林を歩き、野生動物と人との関わりに関心を持つ。 ・奈良県の森林のようすを知り、春日山との比較を行う材料（鹿害問題、生物多様性など）を得る。 	1. 春日山原始林についてのマップを作成する ・SDGsの観点で、春日山原始林で起きている問題を見つめ、食の連鎖構造を知る。 ・問題を部分（個）の問題としてとらえるのではなく、相互関係で考える。 																																										
2. 調べ学習を通して、春日山原始林の問題を知り、再度マップを作成する ・マップを作成し、様々な問題が組み合っていることを知る。 	春日山マップの例（前） ・知っていることの羅列（例）神山、天然記念物、樹林、など ・事実や知識が並べられていた（問題のつながりではない） ・実際に起こっていることとの関連は少ない 	春日山マップの例（後） ・問題がつながりを見せた（例）食害が少ないのはシカが食べてしまうから ・問題の連鎖を作った、被害をシカが受けている ・問題が連鎖した、具体名が出た 																																										

4・5、食物連鎖ゲーム（実習・まとめ） ●植物は光エネルギーを吸収して、光合成を行う。そのエネルギーは、草食動物（鹿）に伝わる。草食動物は、肉食動物（狼）に食べられ、そのエネルギーは、さらに肉食動物（狼）に伝わる。このように、エネルギーは食物連鎖を通じて伝わる。 ●植物は光エネルギーを吸収して、光合成を行う。そのエネルギーは、草食動物（鹿）に伝わる。草食動物は、肉食動物（狼）に食べられ、そのエネルギーは、さらに肉食動物（狼）に伝わる。このように、エネルギーは食物連鎖を通じて伝わる。 ●植物は光エネルギーを吸収して、光合成を行う。そのエネルギーは、草食動物（鹿）に伝わる。草食動物は、肉食動物（狼）に食べられ、そのエネルギーは、さらに肉食動物（狼）に伝わる。このように、エネルギーは食物連鎖を通じて伝わる。 ●植物は光エネルギーを吸収して、光合成を行う。そのエネルギーは、草食動物（鹿）に伝わる。草食動物は、肉食動物（狼）に食べられ、そのエネルギーは、さらに肉食動物（狼）に伝わる。このように、エネルギーは食物連鎖を通じて伝わる。	4・5、食物連鎖ゲーム（実習・まとめ）  - 赤帽はオオカミ役、白帽はシカ役 20名程度で行う活動型のアクティビティー - 特徴生徒は数を記録	4・5、食物連鎖ゲーム（実習・まとめ）  ●はオオカミ、▲はシカを表す - 食物連鎖における生物の個体数変動を学ぶ教材 - 個体数が大きく変化してしまうとどうなるかを考えさせた								
6、前鬼モニタリング調査報告会 283日で奈良県下北山村前鬼にモニタリング調査 - 調査の見られる森林での調査方法を学ぶ 	6、前鬼モニタリング調査報告会 - 調査の違いを把握するための調査場所内の調査 - 自然の楽しみを味わう  一目瞭然	6、前鬼モニタリング調査報告会 - モニタリング調査の報告会 - 実際の調査の方法や目的などを伝える 								
7、春日山を歩く（奈良めぐり） <table><thead><tr><th>春日山の自然</th><th>春日山の歴史</th></tr></thead><tbody><tr><td>春日山の自然は、奈良公園の自然とつながっている。春日山の自然は、奈良公園の自然とつながっている。春日山の自然は、奈良公園の自然とつながっている。</td><td>春日山の歴史は、奈良公園の歴史とつながっている。春日山の歴史は、奈良公園の歴史とつながっている。春日山の歴史は、奈良公園の歴史とつながっている。</td></tr></tbody></table>	春日山の自然	春日山の歴史	春日山の自然は、奈良公園の自然とつながっている。春日山の自然は、奈良公園の自然とつながっている。春日山の自然は、奈良公園の自然とつながっている。	春日山の歴史は、奈良公園の歴史とつながっている。春日山の歴史は、奈良公園の歴史とつながっている。春日山の歴史は、奈良公園の歴史とつながっている。	7、春日山を歩く（奈良めぐり） - 自然保護を行う方法やそれに携わる人と出会わせる。 - 自然保護活動を見聞し、保全の苦労や必然性を感じる。 	結果 ①春日山が有する自然は大切だと思えますか。 【思わない】1 2 3 4 5【思う】  ○ 100% 200% 300% 400% 500% - 活動を通して、春日山の自然を大切だと思う生徒が少し減少 - 有意な差が見られなかった（$G = 0.6379$, Fisherの正確確率検定） - もともと自然は大切と考えている生徒が多かった				
春日山の自然	春日山の歴史									
春日山の自然は、奈良公園の自然とつながっている。春日山の自然は、奈良公園の自然とつながっている。春日山の自然は、奈良公園の自然とつながっている。	春日山の歴史は、奈良公園の歴史とつながっている。春日山の歴史は、奈良公園の歴史とつながっている。春日山の歴史は、奈良公園の歴史とつながっている。									
結果 ①春日山の自然の何が貴重だといえますか。 <table><thead><tr><th>事前</th><th>事後</th></tr></thead><tbody><tr><td>豊かな自然環境など 貴重な植物など 水 自然 環境（森林） 空のまわっていること</td><td>自然環境の豊かさなど 春日山と春日大社など歴史とのつながり 貴重な自然環境 春日山の自然環境から自然 自然環境の豊かさ</td></tr></tbody></table> - 自然としていた内容が、少し具体化 - より具体的に貴重なものがある。具体的な保全や活用を 考えられるようになるのではない	事前	事後	豊かな自然環境など 貴重な植物など 水 自然 環境（森林） 空のまわっていること	自然環境の豊かさなど 春日山と春日大社など歴史とのつながり 貴重な自然環境 春日山の自然環境から自然 自然環境の豊かさ	結果 ①シカによって様々な問題が起きていることを理解している。 【理解していない】1 2 3 4 5【理解している】  ○ 100% 200% 300% 400% 500% - シカによる問題が起きていることを理解した生徒は多かった - 有意な差が見られた（$p < 0.01$, Fisherの正確確率検定）	結果 ①春日山で起きているシカの問題（鹿害問題）について、どのようなことが起きているか。起きていることを書いてください。 <table><thead><tr><th>事前</th><th>事後</th></tr></thead><tbody><tr><td>木（葉）を食べる ツグミの巣 鹿が歩いている 鹿が車を撞いている 鹿が農作物を食べている 鹿が道路を横断している 鹿が道路を横断している</td><td>鹿が木を食べることで、木が倒れてしまっている 鹿が車を撞くことで、車が壊れてしまっている 鹿が農作物を食べることで、農作物がなくなっている 鹿が道路を横断することで、車が事故を起こしている 鹿が道路を横断することで、道路が壊れている</td></tr></tbody></table> 事前には、一つの問題のみの記述であったが、事後には問題が重なった記述が見られた	事前	事後	木（葉）を食べる ツグミの巣 鹿が歩いている 鹿が車を撞いている 鹿が農作物を食べている 鹿が道路を横断している 鹿が道路を横断している	鹿が木を食べることで、木が倒れてしまっている 鹿が車を撞くことで、車が壊れてしまっている 鹿が農作物を食べることで、農作物がなくなっている 鹿が道路を横断することで、車が事故を起こしている 鹿が道路を横断することで、道路が壊れている
事前	事後									
豊かな自然環境など 貴重な植物など 水 自然 環境（森林） 空のまわっていること	自然環境の豊かさなど 春日山と春日大社など歴史とのつながり 貴重な自然環境 春日山の自然環境から自然 自然環境の豊かさ									
事前	事後									
木（葉）を食べる ツグミの巣 鹿が歩いている 鹿が車を撞いている 鹿が農作物を食べている 鹿が道路を横断している 鹿が道路を横断している	鹿が木を食べることで、木が倒れてしまっている 鹿が車を撞くことで、車が壊れてしまっている 鹿が農作物を食べることで、農作物がなくなっている 鹿が道路を横断することで、車が事故を起こしている 鹿が道路を横断することで、道路が壊れている									
残したい自然と活用記述 - あなたにとって、残したい・保全したいと思う自然はありますか。あると答えた人は、具体的にどの自然を残したいと思えますか。またその理由も教えてください。 1. 残したい自然がない 2. 残したい自然があるが、具体的にない 3. 残したい自然が具体的にない - 春日山の自然や環境を保全していくために、今の時点で自分ができることや今後といった活用が考えられたいと考えることについて書いてください。 1. 記述内容が人任せである。知りえた言葉の羅列 2. 記述内容が正しい。具体的にない 3. 記述内容が具体的にない	残したい自然と活用記述 2名の教員で話し合い、生徒の記述を分けた（全一致86%）  ○ 100% 200% 300% 400% 500% →残したい自然が具体的にない生徒は、そうでない生徒に比べて活用に対する記述内容が具体的にない傾向	成果と課題 【成果】 - 様々な体験を通して、シカによる影響について生徒の理解を深めることが出来た - 取り組み当初は具体的ではなかったが、最後には具体的な問題をつながりとして見られるようになる可能性が見られた（問題マップの作成が） 【課題】 - 生徒が取り組みの中で記述するが、記述から実情を捉えることが今後必要（質的評価） - マップの変化をどのように捉えるか良いのか →どのように継続すると良いのか考えて欲しいです								
展望 - 活動の普及 - 食物連鎖ゲームの小学校での実施 小学校5年生で食物連鎖を学習するので、その際に実施し、小学生でも理解できる教材の提供 - 取り組みのなかでの生徒の実情の把握										

・実践を通じて伝えたいこと：「自然が大切」ということは理解しているけれど漠然としている生徒が多いため、具体的なイメージを持って欲しい。そのために大台ヶ原など大きな自然と触れる体験や、前鬼モニタリングといった具体的な保全や調査手法についての体験も行った。

意見

・食物連鎖ゲームについては、生徒たちからどのような評価があったか。

→普段意欲があまり高くない生徒から、生き物の数はいつも一定だと思っていたが増減があることがよくわかったといった回答があった。

・昨年は社会科の教員が担当し、今年は理科の教員が担当したことで、アプローチが大きく異なる授業となったのではないかと。社会科は既にあるデータを分析することが多いが、理科はデータを作るこ

とができるという点が大きく違う。

- ・評価の部分で二人の教員の不一致が8.6%というのはすごいこと。

- ・どのように評価をしたか。

→アンケートの中で自然を守っていくために森の中へ柵をつけたいといった記述をした生徒がいたが、本人に本当にできると思うかをやんわりと聞いたところ、それは難しいと思うと答えていた。そういう場合は評価を少し下げている。

- ・アンケートの内容に加えて、なぜその回答をしたかをインタビューした上で評価しているという点はとても良い。新しい試みだと思う。

→インタビューは、良い試みだが、生徒が萎縮しないように心がけることが大切だ。

- ・マップの評価については、付箋に書き出された事象が、どのような関係性（つながり）かを意識的に書き込ませることがポイントではないか。そのつながりを理解したり考えたりすることが、探究的な学びにつながる。

- ・アンケート結果で「自然を守ることは大切だと思う」という生徒が減少したのはなぜか。

→一部の生徒には、少し指導をしたことで、モチベーションが落ちたということがあった。中学生なので、そういった場合の反応も考えられる。

→春日山のフィールドワークでナンキンハゼの駆除を行った。自然が大切と言いながら植物を抜く行為があるなどして、そのように感じたのではないか。

→そうした心の動きについても、実際に本人に聞いてみるのが一番である。さりげなくインタビューをできればよい。

- ・授業を作る際には様々なアプローチがある。「子どもたちにどんな学びを得て欲しいか」からスタートしたり、自分自身が関心のある事象に対して「子どもたちにも一緒に学んでもらおう」というもの。自分自身が関心のある事象に対して「子供たちがどのような反応をするかが楽しみ」というものなど。それぞれのスタイルで良い。

- ・今回の実践を通じて、ホールスクールアプローチの新たな視点があるように感じた。春日山のような素材は、どの教科担当が授業を担うかによって大きく変わってくるし、連携して行うことで学びの質が大きく変わってくるのではないか。一つ授業をつくったからといって、誰がやっても同じ授業にはならない。題材に適した教科で整理したうえで、それぞれが力を発揮できるようにアレンジしていくことが大事ではないか。

- ・教員はそれぞれ「鉄板」の授業を持っているもの。先生もこの授業を鉄板になるように深めていて欲しい。

■ポートフォリオから（一部抜粋）

ここまで春日山原始林の授業づくりを考えてきて、探究的な学びを作り出す授業の難しさを感じた。自分が授業を作る立場になった時、授業づくりセミナーで得た視点や感じたことを参考に自分の授業を分析していきたい。

春日山原始林授業づくりセミナー 第1回 フィールドワーク 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2020年8月2日（日）9:00~13:00

参加者：現職教員等：川崎（教職大学院）、山本（附属中学校）中澤（きんき環境館）

学生：下原、藤本、西條、北吉、古橋、稲富、

附属中学校：9名

教育大：杉山、中澤

■実施場所：春日山遊歩道（北部）

■実施概要：実施行程は以下の通り。

9:00 春日大社本殿バス停（春日大社国宝殿）集合・挨拶、自己紹介、コース説明

9:20 出発～水谷神社～春日山遊歩道（北部）～若草山山頂

12:30 若草山山頂到着～若草山入山（南ルート）

13:20 若草山登山口 解散

■概要報告

水谷川沿いに春日山遊歩道を歩き、若草山山頂まで、山頂から南ルートで降るコース。

参加者には、ルートマップを配布し、それぞれで発見したものを記入してもらうという形ととった。

道中、杉山より春日山原始林の文化的背景、自然環境の現状と課題、保全の取り組み等について、ポイントごとに解説・アクティビティの体験を行なった。

■解説ポイント

- ・春日大社龍王社（春日山と春日大社の関係について）
- ・水谷川・水谷神社（水谷川と春日大社、春日山原始林の関係について）
- ・原始林のナギ（ナギの特徴と、原始林におけるナギの課題について）
- ・天然記念物の碑・洞の仏塔石（春日山原始林の文化的背景について）
- ・イチイガシについて（原始林を構成する樹種について）
- ・月日磐・氷室について（月日磐の確認と氷室について）
- ・ツクバネガシ枯木とナラ枯れ（森林の循環とギャップ、ナラ枯れの問題について）
- ・植生保護柵について（植生保護柵の効果と、台風被害による影響について）
- ・感性の体操（音を聞く、目を閉じて光と風を感じる）
- ・台風被害によるギャップとナンキンハゼについて（ギャップ地へのナンキンハゼの侵入について）
- ・ムクノキについて（葉っぱの特徴について）
- ・ムササビについて、オオルリとの出会い（野鳥の生息について、ムササビの生息について）
- ・切割の道（御蓋山・春日山境界について）
- ・センチコガネ・オオセンチコガネ（二種の違いの確認）
- ・ナラ枯れ木とテイカカズラ
- ・春日杉倒木について（原始林内の倒木被害、土砂崩落の状況について）
- ・ヒメハルゼミについて（照葉樹林に生息するヒメハルゼミの死骸の観察）
- ・台風被害による森林の変化について（2018年台風被害による倒木被害の確認）
- ・モミとスギの樹形について（二種の樹形の違いの確認）

- ・ヤマビルの観察
- ・春日山原始林内の春日大社末社について（大神神社の確認と設置の理由について）
- ・若草山から原始林の眺めと景観について（原始林の特徴、春日山～御蓋山～奈良公園の緑が繋がる景観の確認）

■実施風景（写真）



■感想

- ・フィールドワークは3回目だが、毎回新しい発見がある。
- ・季節によってみれるもの等が変わってくると思う。今回も新しい発見があった。
- ・初めて春日山を歩いた。疲れたというのが正直な回答だが、ゆっくり歩いて、ポイントごとに見方などを解説してもらい面白かった。

■ポートフォリオから

- ・自然の観察とともに私たちがこの春日山原始林を後世に受け継いでいく一員として何かできることはないかというのを考えながら参加していきたい。
- ・大学生である私たちがこの春日山原始林の問題に向き合い、守っていける担い手になれるといいなと思う。

春日山原始林授業づくりセミナー 第2回 フィールドワーク 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2020年8月30日（日）17:00~20:30

参加者：現職教員等：渡邊、中澤、大田原

学生：柚木、長尾、南本、江口、長滝谷、西田、藤本、古橋

教育大：杉山、中澤

■実施場所：春日山遊歩道（南部）

■実施概要：実施行程は以下の通り。

16:30 近鉄奈良駅行基像前集合（一部は、春日大社表参道集合）バス移動

17:00 春日大社表参道飛火野にて全員集合

17:10 春日山遊歩道（南部）に向け移動

18:30 遊歩道内にて解説（ムササビについて）軽食・休憩

19:00~20:00 原始林内にて森の音などに耳を傾けて過ごす

20:30 春日山遊歩道南部出口にて解散

※破石バス停までは全員で移動した。

■概要報告

夕方前の春日大社境内地の飛火野に集合し、日が落ちる時間の春日大社境内地を抜けて高畑から春日山遊歩道へ移動。日没時間まで遊歩道を歩き、夜の気配に変わっていく時間を過ごす。軽食をとったのち、遊歩道をくだり、大きなギャップのある場所でシートを敷いて各自で寝転んだりするなどして時間を過ごし、ムササビの訪れを待つ。姿を見ることが叶わなかったが、ムササビの啼き声をきくことができた。

■解説ポイント

- ・飛火野からの御蓋山・春日山の景観
- ・ムササビによる松ぼっくりの食痕の確認。
- ・サカキの植樹エリア周囲の柵内、柵外の植生の違いについて
- ・奈良のシカ愛護会「鹿苑」について
- ・イチイガシについて
- ・ナギについて（春日大社との関係、葉脈・樹皮の感覚の違い等）
- ・春日山遊歩道のイチイガシ巨樹
- ・ムササビについて（葉の食痕、妖怪のたとえ）
- ・虫の音、アオバズク、シカなどの鳴き声を聞く
- ・ケヤキのシルエット
- ・ムササビの鳴き声など

■実施風景（写真）



■感想

- ・夜になるにつれて、視覚から聴覚へと感覚が変わっていくのが面白かった。
- ・夜の森に入ることはなかったので良い経験となった。

■ポートフォリオから

- ・夜の道に寝転がると森に1人であるような感覚になって怖いと感じるだろうと思っていました。しかし、実際にやってみると森と一体化したような落ち着いた気持ちになりました。
- ・春日山原始林は、歩くルートや時間帯を変えるだけでも新たな発見ができる場所だと今回改めて感じた。

春日山原始林授業づくりセミナー 第3回 フィールドワーク 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2020年9月13日（日）9:00~12:00

参加者：現職教員等：中澤（哲）、中村

学生：岡本

教育大：杉山、中澤

子ども：3名（小1、4歳、2歳）

■実施場所：春日大社境内地 飛火野周辺

■実施概要：実施行程は以下の通り。

9:00 春日大社表参道飛火野集合

9:00 アイスブレイクのアクティビティ（自己紹介、感性の体操）

9:30 夏の鹿寄せ見学

10:00 動物の食べ痕探し、鏡を使ったアクティビティ

11:00 ネイチャービンゴをしながら散策（飛火野～鹿苑～春日大社参道）

12:00 葉っぱじゃんけん、振り返り（ビンゴゲーム確認）、終了

■概要報告

春日大社境内地である飛火野からスタートし、鹿苑～ささやきの小道～飛火野裏の広場まで移動する予定であったが、この日は、奈良のシカ愛護会による「夏の鹿寄せ」が開催されていたため、見学することとした。ホルンの音に引き寄せられる鹿に多くの観光客が訪れていた。

小学1年生の男児と4歳の女児の参加があった。（2歳の幼児も参加はあったプログラムへの参加はなかった）冒頭は、五感で自然を感じるアクティビティを実施し、その後はフィールドビンゴのシートを配布し、その項目のものが見つかるような場所やアクティビティを実施した。鹿が食べるもの、食べないものがあること（ナンキンハゼ）、ムササビの食痕探し、鏡を使った視点を変えるアクティビティ、葉っぱの手触りや、ピカピカしているもの、フワフワしているものなど、自然の中で目についたものについて、子供と一緒に観察し感触や匂いなどを体験する形をとった。最終的に、用意したビンゴカードの25マスのうち22マスを埋めることができた。

■実施したアクティビティ・解説

- ・感性の体操（目を瞑って、風の方向、光の方向を感じる）
- ・フィールドビンゴ
- ・鹿寄せ見学
- ・鹿の食べるもの、食べないもの（食べる葉っぱと食べない葉っぱがあることに気づく）
- ・ムササビの食痕探し
- ・鏡を使った体験（スキヤキハイク）
- ・ナギについて、柵の中と外の違いの解説
- ・エンマコオロギの観察
- ・オオセンチコガネの観察

- ・カタツムリ（クチベニマイマイ）の観察
- ・イチイガシの観察
- ・きのこの観察（テングダケの仲間、イグチの仲間）
- ・コジイ（ツブラジイ）の実の観察

■実施風景（写真）



■感想

- ・自然環境学習のモデルを体験させていただき、自身の教育活動に活かしていきたいと思った。

■参考資料（フィールドビンゴ シート）

春日山原始林授業づくりセミナー 第3回フィールドワーク
自然体験プログラム・奈良公園の生き物
2020.09.13

奈良公園の自然さがし

奈良公園を歩きながら、枠内にあるものを見つけましょう！

 カハハ いい匂いの するもの	 木の实	 お気に入りの 場所	 鳥の羽・野鳥	 綺麗な色
 グルグル	 人間以外の うんこ	 ブツブツ	 昆虫	 花
 両生類	 妖怪 (顔や何か別のもの に見えるもの)	 今日見つけた 宝物	 ツルツルの 手触り	 木の赤ちゃん
 は虫類	 いい音が するモノ・場所	 ピカピカ	 生き物の たべあと	 臭いもの
 ふわふわ しているもの	 昆虫じゃ ない小さな 生き物	 お気に入りの 樹	 お気に入りの 落ち葉4枚	 ほ乳類

春日山原始林授業づくりセミナー 第4回 フィールドワーク 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2020年10月24日（土）9:00~13:00

参加者：学生：川崎（教職大学院）

教育大：杉山、阪本

■実施場所：奈良公園（春日大社参道）・春日山原始林

■実施概要：実施行程は以下の通り。

9:00 近鉄奈良駅前集合 移動

9:10 橋本町高札場裏のムクノキ大木の観察・解説

9:15 興福寺三重塔の奥のスダジイの観察、種子の確認など

9:30 春日大社一の鳥居周辺の赤松、影向の松、イチイガシなど観察

9:50 春日大社参道～浅茅ヶ原園地間にあるコウヨウザン、カキ、を観察

10:00 春日大社表参道のムクロジを観察・解説

10:10 国立博物館裏手（春日大社塔跡付近）サイカチ、アキニレ、フジを観察

10:30 大仏殿前から斜めに入る道（春日大社境内地）のヒノキバヤドリギ、オオバヤドリギを観察

10:40 鹿苑周辺のナギ、イチイガシ巨樹とドングリを観察

11:00 春日大社国宝殿側のケヤキ巨樹を観察、伐採後のナギとモミの年輪の違いを観察

11:20 水谷神社のイブキ、マユミの観察

11:30 春日山遊歩道へ。入り口のカラスザンショウを観察

11:40 遊歩道のモミ、仏頭石、フジ、月日磐など見学

11:50 枯死したツクバネガシ、ナラ枯れ被害のツクバネガシ、カヤなど観察

12:00 植生保護柵および落ちているツクバネガシのドングリを観察、ツブラジイの実を観察

12:10 ムクロジの観察、シカによる食害の観察（カラスザンショウ）、ムクロジの種子の泡立ちを観察

12:20 遊歩道を折り返し、遊歩道出口にて終了・解散

■概要報告

近鉄奈良駅周辺から、春日山原始林までの間で特徴的な樹木について解説しながら歩いた。「奈良公園の植物（2004北川）」を参考に掲載されているものも併せて紹介。普段見過ごしている木々の違い、種子の形や材の利用などについて話した。参加は1名と少なかったが、奈良公園内の木々についてと、シカの影響についても併せて解説したことで奈良公園の自然環境にシカの影響が色濃く現れていることへの理解にもつながったのではないかと感じた。特に、平坦部では、スダジイやイチイガシのどんぐりはシカに食べられてほとんど見ることができない状況や、ナンキンハゼについても浮雲園地から若草山が紅葉している現状や、至る所に実生が発生している状況なども確認した。

総じて気候も良く、気持ちよく歩くことができた。学校でのフィールドワークの取り組みで奈良公園を扱う場合には、樹木の違いや木の実の観察などを通じて自然の面白さを知るという内容から、奈良公園のシカと自然の関係（シバ→糞→糞虫）という点だけでなく、ナンキンハゼの拡大や、極端な植生などについての問いをいくつも投げかけることができる場であると改めて実感した。

■実施風景（写真）



橋本町高札場のムクノキ



興福寺南円堂裏のスダジイ



スダジイの実



春日大社参道のイチイガシ



イチイガシのどんぐりと葉



浅茅ヶ原のコウヨウザン



浅茅ヶ原のカキノキ



春日大社参道のムクロジ



主幹から竹が生えている

		
国立博物館近くのサイカチ	トゲが不規則に飛び出ている	サイカチの豆を食べるシカ
		
鹿苑近くのイチイガシ巨木	植生の遷移に関する解説	春日大社国宝殿のケヤキ巨樹
		
春日山遊歩道の洞の仏頭石	春日山遊歩道のイチイガシ巨木	

■参考資料（ワークシート）

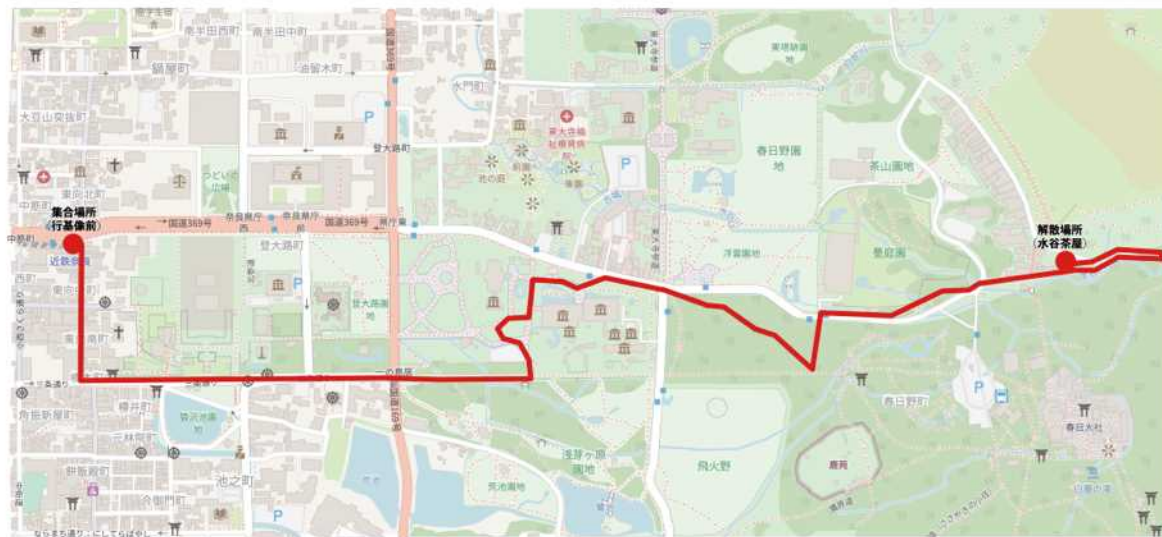
春日山原始林フィールドワーク

奈良公園・春日山原始林の巨樹とどんぐり

見つけたもの（史跡・自然・風景 etc）をマップに書き込もう

実施日

氏名



登場する木々

特徴などをメモしよう

ムクノキ（棕木・榎樹）

サイカチ（芭蕉）

オオバヤドリギ（大葉寄生木）

イロハモミジ（伊呂波紅葉）

クロマツ（黒松）

アキニレ（秋楡）

イヌガヤ（犬樫）

モミ（樅）

イチイガシ（一位檜）

フジ（藤）

ナンキンハゼ（南京橘）

ナギ（榎・竹柏）

スダジイ（榎）

クスノキ（楠）

ツブラジイ（円榎）

スギ（杉）

ムクロジ（無患子）

ヒノキバヤドリギ（檜葉寄生木）

ツクバネガシ（衝羽根榎）

カヤ（榎）

イヌガシ（犬樫）

サカキ（榎）

シキミ（榎）

カラスザンショウ（烏山榎）

春日山原始林授業づくりセミナー 第5回 フィールドワーク 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2020年12月12日（土）9:00~15:00

参加者：現職教員等：川崎（途中まで）

学生：川田、川西、木下、山口、長滝谷、北

教育大：杉山、中澤、阪本

読売新聞：元永

■実施場所：春日山原始林・滝坂の道、地獄谷国有林

■実施概要：実施行程は以下の通り。

9:00 春日大社国宝殿前集合

9:00 自己紹介、行程の説明

9:10 春日大社境内・禰宜道周辺（スギやナギ、イチイガシに関する解説）

10:20 白乳神社周辺 首のない石仏と廃仏毀釈について解説

10:40 滝坂の道入口、妙見宮参道前広場にて、五感の体操・森でねころぶ

11:20 寝仏・夕日観音・三体地藏・滝坂地藏の確認・解説

11:30 無患子の実の観察

11:50 朝日観音の確認

12:00 首切り地藏休憩所にて昼食

12:30 地獄谷国有林から高円山ドライブウェイへ

12:40 地獄谷石窟仏の確認

13:10 春日山石窟仏の確認

13:20 高山神社の確認

13:30 春日山遊歩道（南部）を下る

14:50 春日山遊歩道入口へ到着

15:00 解散

■概要報告

春日山原始林の南端を走る旧柳生街道、滝坂の道周辺の石仏を中心に鑑賞しながら歩いた。

参加者には、ルートマップ、石仏に関する資料、ルーペ、希望者に双眼鏡を貸与し、随時観察に活用するよう促した。冒頭は、春日大社境内の鹿燈籠、春日大社境内地の大杉やカミガモシダなどを観察しながら春日大社境内地を上禰宜の道を歩く。

高畑から滝坂の道へ入り、入り口となる妙見宮参道前の広場にて五感を使って森を感じるアクティビティを実施。その後は、石仏のポイントで立ち止まり、双眼鏡等を使って観察するほか、資料を読み上げ、仏像の特徴（表情、衣装、印などの特徴）を確認した。昼食後は、地獄谷国有林から地獄谷石窟仏を鑑賞したのち、春日山石窟仏を鑑賞。当初予定では、滝坂の道を下ることにしていたが、時間的な余裕があったため、遊歩道南部を下山。カエデの仲間（イロハモミジ、コハウチワカエデ等）の紅葉がまだ楽しめ、テーマである「春日山原始林の石仏と紅葉」と合致する内容となった。

■実施したアクティビティ・解説

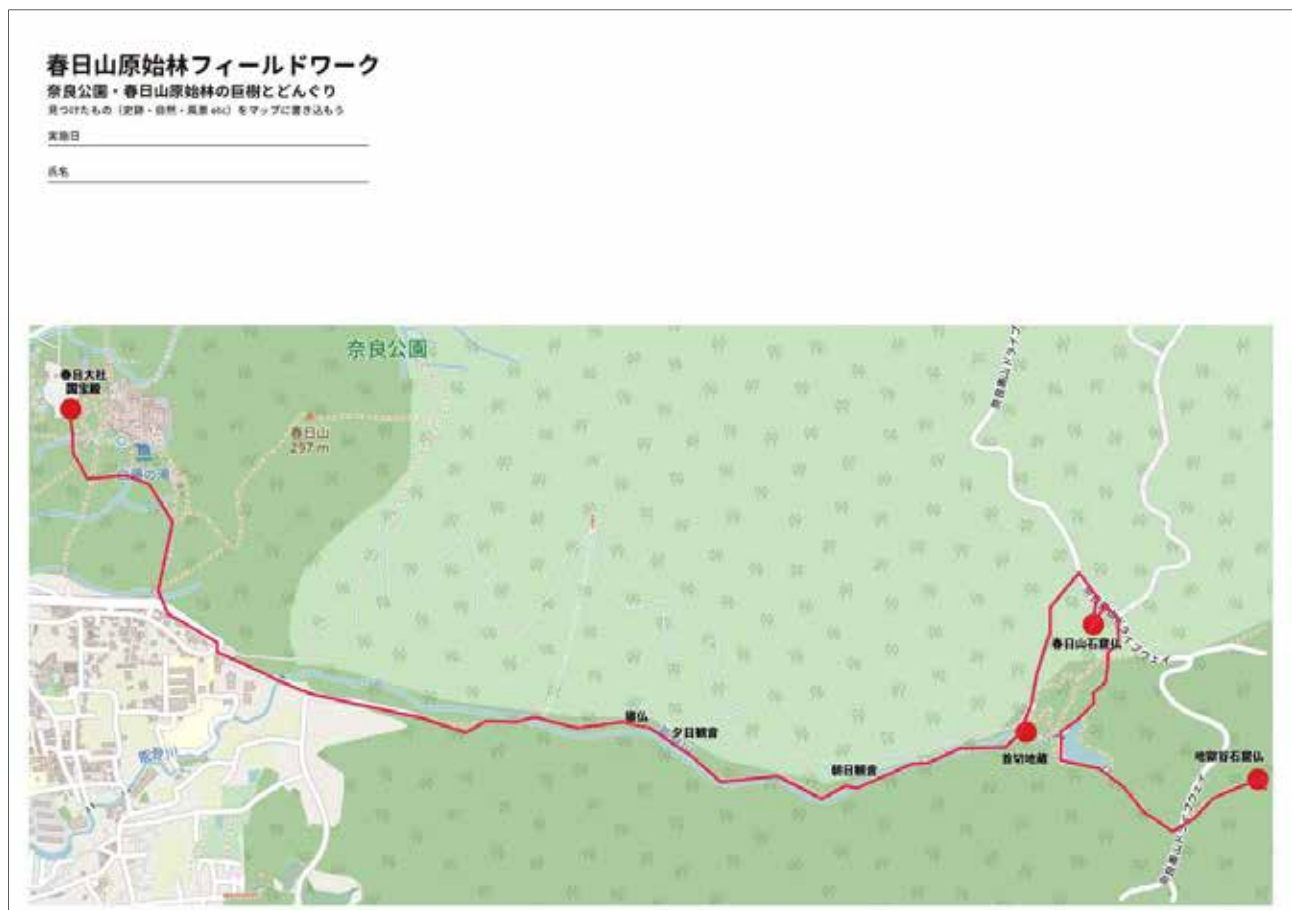
- ・鹿燈籠の観察・ナギについて解説・イチイガシについて・ナンキンハゼについて
- ・白乳神社裏の首の折れた仏像と廃仏毀釈・高畑の鹿垣・感性の体操・森で寝転ぶ
- ・鹿の採食圧の状況確認（過去写真との比較）・植生保護柵の観察・ムササビの食痕
- ・カギカズラの観察・寝仏・夕日観音・三体地蔵・滝坂地蔵の確認と解説
- ・無患子の泡立て体験・カラスザンショウの実の香りをかぐ・朝日観音の確認
- ・滝坂の道大杉の観察・首切り地蔵の観察・首切り地蔵大杉の解説
- ・地獄谷新池の解説・タカノツメの落ち葉の香りをかぐ・鹿の樹皮剥ぎの観察
- ・地獄谷石窟仏の確認と解説・春日山石窟仏の確認・高山神社の確認
- ・イロハモミジ等紅葉を楽しむ・コジイの実を観察

■実施風景（写真）





配布資料



春日山原始林授業づくりセミナー 第6回 フィールドワーク 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2021年1月30日（土）9:00~15:00

参加者：教育大：杉山、中澤、阪本

読売新聞：元永、きんき環境館：中澤

■実施場所：若草山山中（川上町）、奈良公園

■実施概要：実施行程は以下の通り。

近鉄奈良駅集合—自己紹介、行程の説明—バスにて今在家町まで移動—五劫院：公慶上人のお墓を参拝—川上町（若草山）—鹿垣見学—若草山山中（川上町）—飯守町—空海寺：棚田嘉十郎のお墓を参拝—東大寺知足院—東大寺講堂跡（昼食）—東大寺千手堂—吉城園—近鉄奈良（解散）

■概要報告

春日山周辺に現存する鹿垣の見学を目的に実施。バスで今在家町まで移動後、東大寺大仏を江戸時代に復興した公慶上人の墓のある五劫院を見学。その後、雑司町から急坂を上った先にあるフェンスで囲まれたあたりには、鹿垣の名残と思われるものがしばらく続いており、若草山山中に入ると、川上町の獣害対策として設置された鹿捕用の罠も残っていた（現在は使っていない模様）周辺は原始林とは異なり、ユリノキやコウヨウザンなどの街路樹等に使われる木が生えていた。また、シリブカガシのドングリがよく落ちていた。

若草山山中は歩道整備されている状況ではないため歩きにくく、冬場以外は適期とはいえない。事前視察では距離感がわからなかったが、実際に歩いてみると比較的近距离で目標とする鹿垣へ到着した。鹿垣自体は、江戸時代頃に作られたとされ、川上町の一部では終戦間際まで管理されていたという。鹿垣の上にはカシ類が植えられており、カシ類の成長によって土塁も崩壊しているようにも見えた。

予定よりもかなり早く目標地点に到着したため、中澤先生が以前調査した際に見つけた鹿垣を探しに三笠温泉郷よりさらに北東の森へ入ってみることにした。急斜面を進むが鹿垣は見つからず、代わりに現在のシカよけのフェンスが現れた。

農地をぐるりと囲む形でフェンスが張り巡らされ、土塁の鹿垣がなくなった現在もこうして獣害対策に取り組んでいることを実感した。その後ぐるりと回り農地に入り、奈良方面へ徒歩で移動。もと来た北御門町あたりまで戻ってから、平城旧跡の保存に活躍した棚田嘉十郎の墓がある空海寺、知足院の天然記念物ナラノヤエザクラを歩き、東大寺講堂跡にて昼食をとった。その後、東大寺千手堂にて、千手観音菩薩立像や鑑真和上像の拝観をしたのち、吉城園を見学。近鉄奈良にて解散した。

			
公慶上人のお墓	林内の箱罠	若草山山中の鹿垣	棚田嘉十郎のお墓

2020年度 近畿ESDコンソーシアム 学ぶ喜び・ESD連続公開講座 開催要項

1. 目的

新学習指導要領の前文および総則に「持続可能な社会の創り手」の育成が示されたことから、今後、全国の学校・園でESDの理念に即した学校教育が展開されていくと想定される。本公開講座は、学校教育の中核である学級経営や生徒指導、子ども理解や授業づくり、防災・減災教育などについて、現職教員や教員経験者等、学校現場に詳しい方を講師に招へいすることで、学校教育の実際について学ぶ機会として開催する。

2. 主催 近畿ESDコンソーシアム

3. 会場 奈良教育大学次世代教員養成センター 2号館 多目的ホール またはオンライン開催

4. 開催時間 19時～20時30分

5. 開催計画

第1回 令和2年7月22日（水） 「すばらしき教員人生」

講師：本学特任准教授 大西 浩明 氏

第2回 令和2年10月1日（木） 「ESDー世界遺産教育の基本」

講師：本学名誉教授 田渕 五十生 氏

第3回 令和2年10月16日（金）「知識のつなぎなおしと ESD」

講師：大分大学専任講師 河野 晋也 氏

第4回 令和2年11月25日（水）「子どもたちと共に成長する教師」

講師：奈良教育大学附属中学校 教諭 吉田 寛 氏

第5回 令和2年12月10日（木）「子どもの学びに火を付ける」

講師：前八名川小学校長 手島 利夫 氏

6. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等

奈良教育大学の大学生・大学院生・教職大学院生

7. その他

- ・参加料は無料
- ・ESDティーチャープログラムのESD演習にカウントできる

2020 年度 第 1 回学ぶ喜び・E S D 連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤静男

◇開催日時 2020 年 7 月 22 日（水）19 時～20 時 30 分

◇方法 Z o o m によるオンライン講演

◇参加者

現職教員等：阿彌、松谷、中澤哲也、新宮、春日、圓山、高良、中村、町田、山方、河野、駿河、川崎、高橋、賀川、浅井、山下、鈴木（五井平和財団）、尾上（森と水の源流館）

学生：西田、岩城、中村、津田、藤本、山崎、狗飼、岡本、亀井、根本、山田ひかり、山田桃子、櫛、北野、小池、山中、加藤、長滝谷、山口、福田、足立、塚田、大橋姫花、大橋快成、岩倉、川田、草田、長尾、高垣、谷垣、墨谷、小原

大学教員：大西、中澤、太田、吉田 計 57 名

◇テーマ 「素晴らしき教員人生」 講師：奈良教育大学准教授 大西 浩明

1983 年～ 37 年間の教員生活（すべて小学校）

自分が先生らしくなった、これでやっていけると思えるようになったのは 40 代になってから
教員として一人前になるのに 20 年間ぐらひはかかる

○阿彌先生（もと同僚）から見た大西先生とは

いつもすごいなあと思っていた こんな先生になりたい くやしいくらい

- ・子どもがすごく成長する どの子もコミュニケーション力
- ・学級のまとまり 協力的な子どもたちの姿

1. なってしまった小学校教員

一般大学で中・高の社会科の免許はとっていたが、教員になるつもりはなかった。

高校・大学で夢中になっていたのはキャンプ場の補助員（アシスタント）

子どもたちと仲良くなって手紙をもらったりした。それがうれしかった。

子どもと関わるのは楽しい→先生という道もあるかな。→県立小学校教員養成所一年制課程に入学
でも、本当は中学校の教員になりたかった。ピアノが苦手。でも、小学校教員になってしまった。

2. 自分だけが楽しければ・・・と思っていた

当時は夏休みが子どもと同じようにあった。これは楽しい！

授業なんか、なんとかなる。先生用の赤本（指導書）の通りやっていたら大丈夫。

バレーボールがしたかったので、バレーボールチームを作った。

バレーボールが中心、授業はそこそこ。これでいいと思っていた。十分に楽しかった。

3 年間たったころ 女性の校長先生が授業中に教室に入ってこられた・図工の時間に色の混ぜ方の練習でネギを描かせていた。「まあ、上手に描けているねえ」と子どもに声をかけていった。少し前にこれではアカンと注意したところだったので、腹が立った。

3. 授業を変えなくては！

校長先生から「勉強してきなさい！」と言われ、市社会科教育研究室で 1 年間、はじめて真剣に授

業づくりの勉強をした。その後、指導主事の先生から、「社会科の集まりがあるから行ってきて」と言われて行ったのが県小学校社会科研究会

翌年、近畿大会がある。授業実践をする必要が生じた。提案授業をするよう頼まれた。

3年生：スーパー、商店街の単元だった。県社研の先生方が、日曜日にもかかわらず校区のスーパーや商店街の見学に来ていただき、授業づくりの目の付け所を指導していただいたり、授業づくりを教えてもらったりした。

→ 子どもが生き生きするようになった。子どもが変わるのを実感した。

指導書通りしてはだめだ。「授業を変えなくては！」

県社研の先生方の授業を色々と見せていただいた。

「あの発問、いいな」「板書のしかたがいいなあ」

「教師が教えるような授業はアカン。子どもが自分から、面白がって学んでいく授業じゃないと」

「全員が関われる授業にしよう。」「体験に勝る学びはない。体験重視だ。」「意見の交流・練り合いが大事だ」「そこにゲーム性があればさらにいい」→バラエティ番組には授業につかえるものが色々目につく。(アンテナがはれるようになった)。自分の中でストックをつくっていく。はじめは社会科だけだったのが、他の教科にもしていった。

4. とにかく子どもの笑顔が見たい！

子どもの笑顔が一番身近で見ることができるのは学級担任だ。学級担任にこだわった。

○学級づくりでのこだわり

すべての子どもにとって居心地のいい空間を提供する。

ありのままの自分で過ごせる空間＝あるがままの友達を受け入れる。

学校は、一人では学べないことをみんなと一緒に学ぶところ。失敗しながらみんなと一緒に成長していくところ。みんながいるから楽しいところ。でも、楽しては、本当の楽しさは味わえない。だから、しんどいことをしよう。

○みんなで楽しくなるために（最初の1日目に子どもたちに伝えたこと）

- ・だれにでも、あいさつは大きな声で元気よく
- ・話を聞くときは、相手の目を見て
- ・マイナスの言葉を言わず、プラスの言葉を
- ・きちんと言葉でキャッチボール
- ・最大限の想像力を働かせて相手の気持ちを考える
- ・何でもみんなで考える

☆「まわりの人を笑顔にすること」をすべての行動の基準に！

何か問題が生じるたびに立ち返って考えさせた

○「心の中を書くノート」 週1回 書きたいことを書く 1ページにしっかり、心の中をそのままに書き、月曜日に提出。それ以外の宿題はなし 私も書きたいことを返事に書く

すごいうれしかったこと、めっちゃしんどかったこと、「このやろう！」と思ったこと、「こんなことができるんだ」と感激したこと、「あほなことしたなあ」とくやんだこと、「あの人すごいなあ」と見直したこと、自分ってすごいなあ、自分をほめてあげたいこと・・・

→ 学期に1回はその子に対して思っていることを、ノートに1ページ書いて渡した

○大なわチャレンジ 連続2000回を目指す

クラスの団結力が高まる

○体育はみんなで心のみがく場

体育を学級経営の芯にしていた みんなで体を動かしてみんなで高まる場

振り返りカードを書かせて、それを子どもみんなに返す そして感じたことを出し合う

○特別活動を意味づける

年中行事のようにしている活動（菊づくり）を問い直し、意味を考える

枯れる菊もある。根がはってないからだ。土の中で見えないところの努力の大切さを伝える。

縦割り活動：6年生全員がリーダーだ。年中を通して1年生～6年生が仲良くできることをやろう。何のために縦割り活動するのかを考えておくことが大切。

ケナフを栽培し、紙すきをして、卒業証書をつくろう。（1年～6年みんなで育てたケナフ）

○学級通信

べつになくてもいいと思っていたけど・・・

保護者には、担任の思いをきちんと伝えなければ

5. 教員を目指すすべての人へ

○こんなにすてきな仕事はない！

一人の人生のうちのほんの短い時間を共有しただけなのに、時を経て続く、人と人としての関係

○学び続けることの大切さ

「先生」と呼ばれることの責任の重さ「子どもへの情熱が教師の年齢」

もっと「いい授業」がしたい 教員という狭い世界から外に出ることが大切

最後に・・・

・職員室に戻ろう いろいろな先生に聞いてもらってください。子どもを話題に話をするために。

・「まあ、ええか」「もうええか」「なんとかなるから」と最後はそう思うようにしている

人生8勝7敗で、一つ勝ち越せたらそれで十分

フロアからの質問に答えて

・モチベーションの維持の仕方は？ おいしいものを食べておいしいお酒を飲む

最後は自分を見てもらうしかない

・どんな大人にしたい たくましく生きていける人になってもらいたい

「しんどいときにこそ、ぐっと地に足つけて生きていける人になってください」というメッセージを6年生には必ず書くようにしていた。

・今のうちにこれしとけ 違う世界に足を踏み入れたり、ふれたりしたらいい。

第2回学ぶ喜び・ESD連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2020年10月1日(木) 19時～20時30分

◇方法 ZOOMを用いたオンライン講演会

◇参加者数 36名

◇内容

「ESDー世界遺産教育の基本」 講師：奈良教育大学名誉教授 田淵 五十生氏

1. そもそも世界遺産とは？世界遺産誕生の経緯
2. 複合遺産の紹介 マチュピチュ ウルルカタジュタ
3. 危機遺産とその原因 紛争、密漁、過観光
4. 「石見銀財遺跡とその文化的景観」の持つ意味
5. 世界遺産「パラヌイ」の示唆するもの

1. そもそも世界遺産とは

アブシンベル神殿（ラムセス2世）がナセル大統領による近代化のためダムのために水没する
エジプトだけの宝ではない、人類全体の宝だ

工学エンジニア・ヨースタ・パッション（スウェーデン）27歳の時に工事を計画する。

イタリアの石工職人・ドイツの機械・フランスの輸送隊がアブシンベル神殿の移設

世界中の協力・募金による成功を祝して、1972年 世界遺産条約の成立

「全世界は遺跡の存続を求める権利を持っています」

「世界遺産基金」の創設 SDGsの目標17（グローバルなパートナーシップ）

自国では修復できない貴重な遺跡の救済： アンコールワット、ボロボドール

▼日本は20年遅れて世界遺産条約に加盟

文化財保護法があった（独自の法律で文化財を保護できる）

国際協力への意識が低かった。経済中心だった

2. 複合遺産 文化遺産・自然遺産の2つの選考基準をもつ 39件

（1）マチュピチュの歴史保護区 インカの空中都市（3000m.～4000m.）

ビルハム・ビンガムトンが発見

霧の中に隠れている

征服者 フランシスコ・ピサロ + 感染症（天然痘）国民の3/4が亡くなった）

段々畑（アンディオス）気温差で色々な作物が栽培できる → アンデス山脈

ジャガイモ・サツマイモ・トウモロコシ・カボチャ・トマト・ピーマン・トウガラシ・メロン

大航海時代に世界にもたらされた

（2）ウルル・カタジュタ（旧エアーズロック）オーストラリア大陸の赤い心臓

国際先住民年 先住民の立場からみる

先住民の文化を認めた

高さ300メートル、一枚岩）周囲は砂漠だが、影のところに灌木が茂った

アボリジニがもつ自然を大切にする文化が認められた（自然と共生する文化）

「盗まれた世代」原住民からアボリジニの言葉を奪う：英語しかできない

アボリジニは1万2000年前にオーストラリアに移動し、文化の発達から切り離された
無土器文化 優れた狩猟用具 狩猟採集段階でヨーロッパ人と出会う
奴隷とされた 子どもたちは施設に収容された

シドニーオリンピックの時に、キャシー・フレードマン アナング族の旗とオーストラリアの旗を
持ってウイニングランをしたが、アボリジニ虐待の歴史は、まだ、オーストラリアの人たちも知ら
れていなかった。「自分たちの過ちを記憶しない認めない民族には未来はない」

3. 危機遺産とその原因

戦闘・紛争 平和でなければ世界遺産も消滅する
密漁 多くの自然公園で絶滅危惧種が危機遺産になっている
過観光 静かな風情が失われる

(1) シリア・パルミラ遺跡：戦闘・紛争

IS 過激派のテロにより破壊

(2) コンゴの5つの国立公園が危機遺産に

ゾウの牙 中国・日本に輸出 ワシントン条約により禁止 しかしヤミでの取引がつづく
サイ：ガランバ国立公園 商業的密漁

(3) 京都・嵯峨野 過観光によって危機に陥っている

4. 「石見銀山遺跡とその文化的景観」の意味

「がっかり遺産」と言われるけれども、本当は貴重な意味を持つ。

「文化的景観」：遺跡を守る自然環境への評価（燃料である木炭を得るために森林を破壊しがち）
炭方六ヶ村による森林供給（クリの木） 循環型自然開発（20～30年）

ポトシ銀山との比較（ボリビア） 森林を破壊し、環境破壊してしまった

精錬法・灰吹法（朝鮮から伝わった最新技術）

銀財遺跡が完全の保全された世界遺産

5. 世界遺産ラパヌイ（旧イースター島）

ポリネシアトライアングル 約900年前あたりに到達

亜熱帯性の樹林帯 豊かな草原 土壌環境 高度な文明 モアイ像の建設

火山 凝灰岩（やわらかいので細工しやすかった）

今は木が生えていない

奴隷狩り 人口が111人になっていた

- ・無制限な森林伐採
- ・枯渇する資源
- ・温暖化の進行 気候変動 耕作地の減少
- ・地球環境の危機
- ・SDGsを達成しなければ77億人の地球がイースター化するおそれ
- ・コロナ禍より恐ろしい

2020 年度第 3 回学ぶ喜び・E S D 連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2020 年 10 月 16 日（金）19 時～20 時 30 分
- ◇方法 ZOOM を用いたオンライン講演会
- ◇参加者数 80 名
- ◇内容

「知識のつながりなおしと E S D-価値観の変容を目指した学び」

講師：大分大学教育学研究科教職開発専攻 河野 晋也 氏

中心的疑問

「価値観の変容はどうしたら起きるのだろうか。その時、子どもの中で何がどうなっているんだろう？」

1. 価値観について

価値観とは 自分が大事だと思うもの。または大切だと考えるときのものさし。

- ・価値観は思い付きや願望（抱負）とはちょっと違い、行動が伴っているもの、あるいは、習慣化しているものと関係があるのではないか。
- ・E S D が目指している価値観の変容とは、身についている、無意識にでもできるという状態を目指しているのではないか。

2. 価値観が変わったなという経験を話し合う。（ブレイクアウトセッション）

例えば、関西に来て、実習に行ってみて子ども観が変わった、就活して仕事観が変わったなど。

3. 持続可能な自分の暮らし

長崎：・浦上天主堂 戦争や平和を勉強していくとき、価値観が変わった。

誰もがだめだとわかっているのに戦争する、という価値観はなんだろう。

そんな簡単に価値観って変わるものだろうか。そもそもなぜ価値観の変容は起きるのだろうか。

（1）価値観の変容

知らない状況 まず知るところから 行動してみる 気づく 技術を身につける 習慣化する

知るだけでは価値観の変容にはたどりつけない 知識と価値観の間にあるものは何か

（2）学びのパラダイム転換（学びに対する考え方の転換）

かつては「教授パラダイム」 教員から生徒へ知識は伝達されるもの

学習パラダイム 学習は生徒が中心 知識は構成され、創造されるもの

「生きて働く知識・技能」とは、他の学習や生活の場面でも活用できるような知識・技能

知識・技能を活用して課題を解決する 知識が生きて働くことで習慣化する

習慣化の過程で考えたり、判断したりする場面が出てくる

どういう知識が生きて働くのか：ソマティック・マーカーが働く

（3）ブレイクアウトセッション 2 この中で E S D に関係する写真は？コロナに関係する写真は？

① E S D

- ・ウナギのないうな重（ウナギは絶滅危惧種）
- ・フェリー 各自が自動車で移動するよりもエネルギー消費量が少ない
- ・海洋の温暖化でとれる魚の種類が変わってきた・漁獲量が少なくなってきた。

② コロナ

- ・少人数の授業、3密を避けるために、自家用車を多用するようになった、空気が澄んだので星が見える、コロナになって写真の見え方がかわった、イルカの写真：家族旅行が減った

③気になっていること：心の中の比重が大きい、関心が高いもの

コロナ：価値観に影響を与えている

- ・他県ナンバーはいじられる ということを知ったことがあるのに気づかなかったのはなぜだろう？
なぜ、関連付けができなかったのだろう。→ 知らなかった、他の写真の方が気になった、
他のことを考えてしまった

使えない知識とは、関連付けられない知識

使えない知識：断片的知識（ディセッサ、1987） 知識は断片的な、小さな要素として存在している。

知識をばらばらに教えるのではなく、結び付け方を教えるのが新しい学習論

結びつけることで〇〇に関する価値観による知識の呼び出し

①呼び出しの優先度（ソマティック・マーカーでひっかかったものから気づき）

②信頼の優先度（呼び出した知識がこの場に相応しいものか判断する）

○その人が重視していないもの、気にしていないことに関する知識は、呼び出せないし活用できない。

「気にしてもらおう」ようにすることが重要

しかし①・②の優先度は生活をとおして身につけてきたものなので簡単に変わるものではない。

授業を通して考える

「火事から暮らしを守る」3年生・社会科

「自分たちの町を守るのは自分たち」という意識を持って欲しかった。ところが、子どもたちは知識をつないでくれなかった。「町を守るのは消防署」という「当たり前」がしみついている。

①認知的葛藤 思考のゆさぶり 思っているのと真逆の状況を提示する

②状況的文脈的学び 実際のそのような場面を専門家に聞いてみる

③建設的相互作用 「ねりあい」人の思考は、自分が正しいと感じているものとは異なる視点が意識されることによって見直しが起こり、広がりを持つ

呼び出しの優先度・信頼の優先度を変える（省察させる）自分で変えることになるように振り返りを重視する。

価値観は知識をどう結び付けるかに表れる

価値観の変容＝知識の結び付け方が変わる

こう考えるべきと教え込むことはできないが、

知識を活用する／構築する＝思考するということ 断片的な知識をつなぎなおすこと

知識の獲得 思考する 価値観につながっていく

- ・クリティカルシンキング（自分の当たり前を疑う・自分の価値観を疑う）
- ・システムズシンキング（社会を構造的に捉える、知識を構造化する）
- ・長期的思考力（拡大鏡としての役割）今は小さいことが、時間の経過で大きなことに

今の課題は今の大人が解決すべき

今の子どもには「18番目のSDGs」を見出す力、予測不可能な問題の出現に対応できる力を子どもたちに育むこと（未来に対しての練習問題としてのSDGs）。

2020 年度第 4 回学ぶ喜び・E S D 連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇ 開催日時 2020 年 11 月 25 日 (水) 19 時～20 時 30 分
- ◇ 方法 ZOOM をもちいたオンライン講演会
- ◇ 参加者数 70 名
- ◇ 内容

「子どもたちと共に成長する教師」

奈良教育大学附属中学校 社会科教諭 吉田 寛氏

気持ちだけは若い気持ちでやっている。子どもたちとの雑談を楽しみにしてやっています。

自己分析

① 教職を希望したきっかけ

中学校の時の恩師の影響

「人生は計算通りにはいかない。答えは決して 1 つではない。結果より過程を大切にしろ。」

こんな先生になりたい、というあこがれ。

あなたの心に残る言葉は？

② 「社会学」との出会い

大学で何を学ぶのか？（高校までの学びと何が違うか？）

高校まで 出された問題を解く。

大学 探究 何を大切にしながら生きていくのか？これからどのように生きていきかという

「思い」に出会う。自分探し。 思いを持てることが大切だ。

社会学：面白いな！ 人間と社会の関係性を探る。

国が変われば、時代が変われば、当たり前が当たり前でなくなる。

色々なことが多面的に見ることができる。

学ぶ楽しさを得ることができた。

③ サラリーマンは遠回り？（営業職・8 年間）

社会人経験を積んだほうがいいか？（大阪府・社会人枠で採用された）

社会人生活の中で「開き直すこと」と「遊び心」を身につけたことが、今も一番役に立っている。

ストレートで教員になっている方は「遊び心」を持った方がいい

「為せば成る、為さねばならぬ何事も、成らぬは人のなさぬ成りけり」： なんとかなる

営業担当だったころ：不良品に関して裁判になるかもという事態に

「命まで取られへんって」：救いの言葉 悩んでたことがちっぽけなこと

「人事を尽くして天命を待つ」「なんくるないさー」の心持ちを大切にしようとしている。

→ 保護者対応にも応用できる

企業はお金が絡んでいるので深刻だ。営業は学歴と関係がない。チームをまとめたり、周りを見る力が必要。チームで動くことがとても大事。学校現場より、会社の方がシステムとしてよくできている。

④ 生徒との向き合い方

「教師の多忙（多忙感）」 様々なことへの対応、コロナ対応も求められる。

コロナ禍での問い直し：そもそも「学校」って何のために行くのだろうか？

生徒：「友達に会える」

教師を目指す学生の切実な悩み

- ・スーパーティーチャーになれるか？
- ・学校現場はブラックなの？
- ・保護者対応が大変そう

保護者に育ててもらえばいいと思う。

保護者も不安になっている。「一緒にやっていくというスタンス」がいい。

- ・失敗は避けたい（マニュアルがあればなあ）

マニュアルありきでは息詰まる。もっと失敗してもいいと思う。

- ・経験を積み「技術・能力」は勝手に磨かれていく。生徒との向き合い方こそが大切。

☆生徒のことを第一に考えるということ

☆生徒に寄り添う気持ち

☆「平等」と「公正」 生徒に合わせた必要性

私の生徒感：一人一人を大切にする。「あなたらしさを大切にしたい」

相田光男「セトモノ」『「いのちのバトン」より

個を通して「集団」を育てる「個」のあつまりが「集団」

個の相互の可視化に取り組んでいる。

- ・生徒目線で考えてみる
- ・生徒に任せてみる。ただし、必ず看ている。
- ・認めてあげる
- ・生徒と共に過ごす時間を増やす。

⑤ 楽しい授業

中学校における ESD 社会科における ESD 「問いを深める」

多文化共生社会をテーマに

子どもたちの問いをカギに、心を揺さぶる授業を創りたい

生徒にとって楽しいものであってほしい

授業に ESD の視点を組み込んでみる

人との出会いと E S D

⑥ 総合的な学習の時間って、そもそもどのようなことにこだわりをもって進めていけばいいのか カリキュラムマネジメントが大切

「価値ある学び」とは

- ・「人に出会う学び」から自分自身の生き方への関心につながるようにしたい
- ・合理的・科学的な知識 + 感性・感動 → 行動の変容へ
「もやもやした気持ち」「常に考えてしまう。気になってしまう。」
- ・本質を求めて考える過程が大切だと思う
- ・ESD の評価は難しい すぐに答えがでないからです。答えを求めすぎるのもどうかと思う
- ・ESD を通して育てたい力は、周りを思いやり寄り添いながら、自分らしく生きていくこと

2020年度

奈良教育大学
「学び喜び・ESD連携公開講座」

第5回

これからの教育で大切なこと

～ 所さん！日本の学校教育が大変ですよ！！～

卒業して4月から先生になる学生さんも多いそうですね
本物の「主体的・対話的な社会的授業」を
体験させましょうね。結果として
ない授業って、大変だよ～

2020年12月10日
ESDGs推進研究室 手島利夫

子どもたちの生きていく世界を
持続不可能にしかねない多くの課題

この世界では、どのような教育を進めればよいのでしょうか。

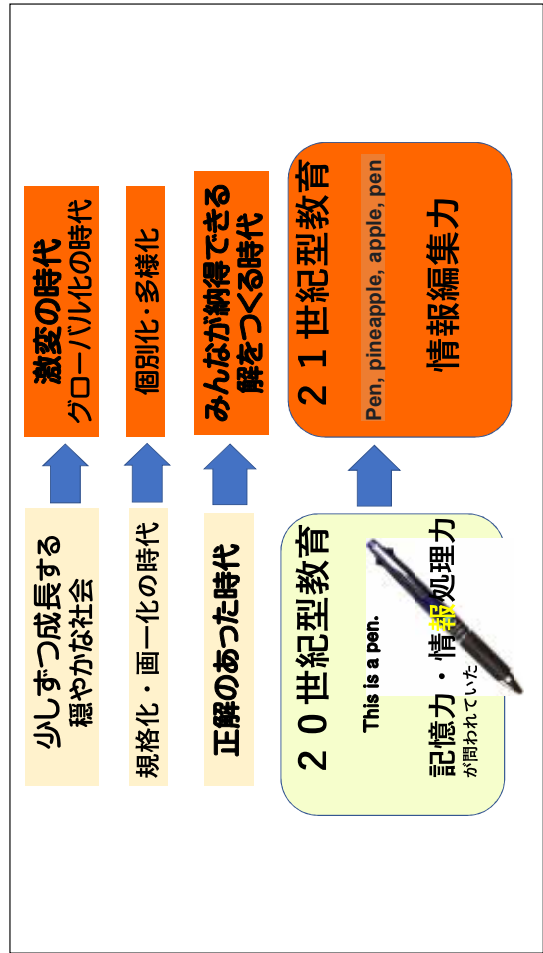
それを考え、取り組むのがSDGsであり、その中心にある**ESD**です。

ESDの推進こそ、学校教育の使命です。

これができなかったら、日本の学校に存在価値はありません。

コロナ禍でもわかるように、1つの問題があつという間に世界規模に広がり、しかも、多面的な広がりをもちながら、持続不可能な世界を創ってしまう。

旧来の枠にとらわれた学問、あるいは研究・開発のあり方では、対応が不可能になっている。世界で起こっている問題に対して、広い視野をもち、国境や分野を越えて横断的に連携していく視野や、資質や能力が求められている。



文部科学省学習指導要領のくわしい内容」・・・カリキュラム・マネジメントより

カリキュラム・マネジメントの3つの側面

これは側面ではなく、真髄です。

教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる

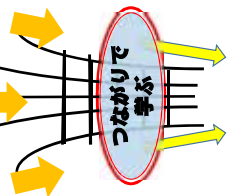
学校教育の効果に検証して改善する

地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

カリキュラムをマネジメントすることとは

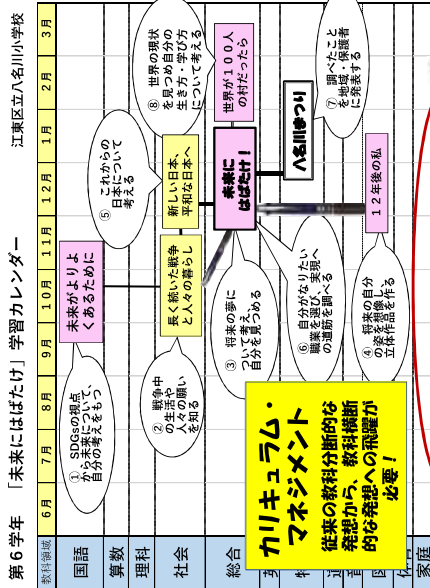
従来、教科・領域ごとに指導してきた内容を

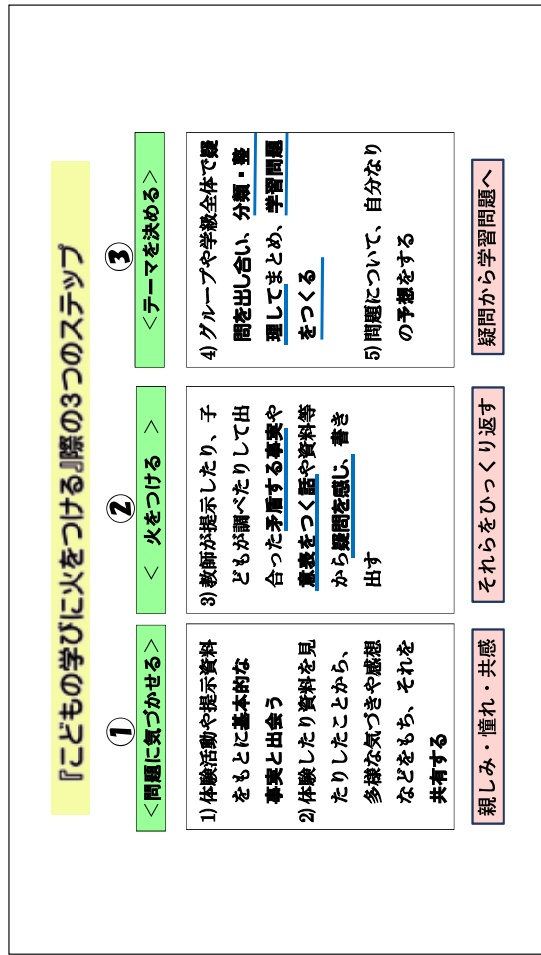
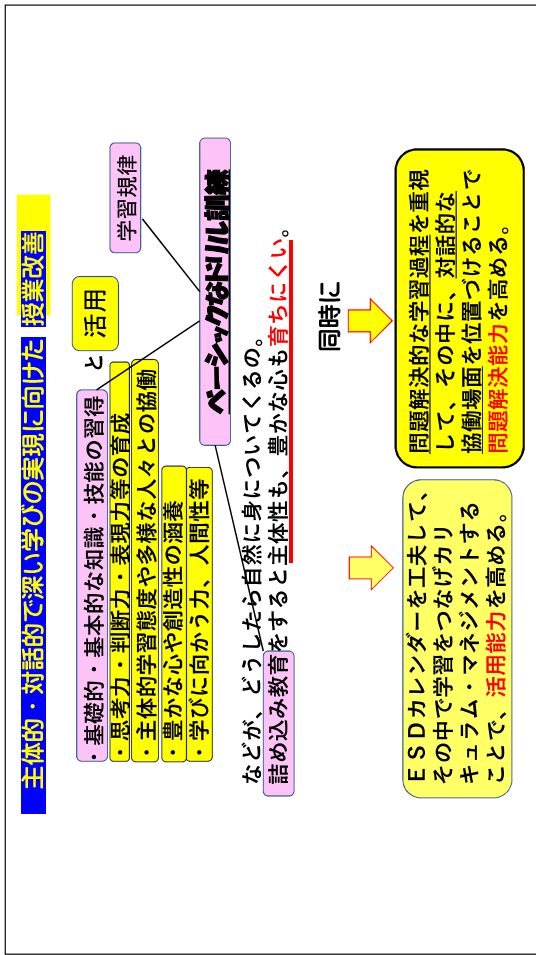
各教科
特別活動
特別の教科道徳
外国語
生活科
総合的な学習の時間

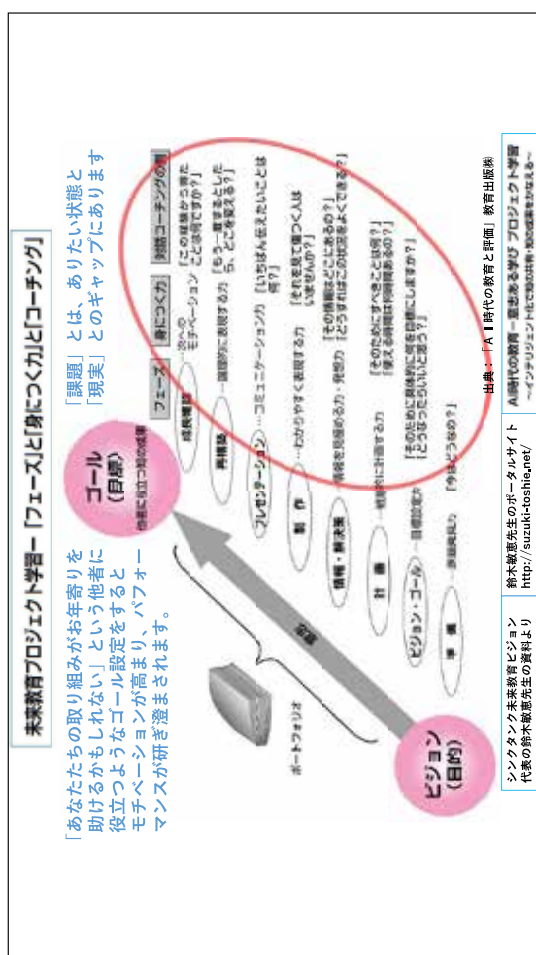


を創ること

第6学年 「未来にはばたけ」学習カレンダー







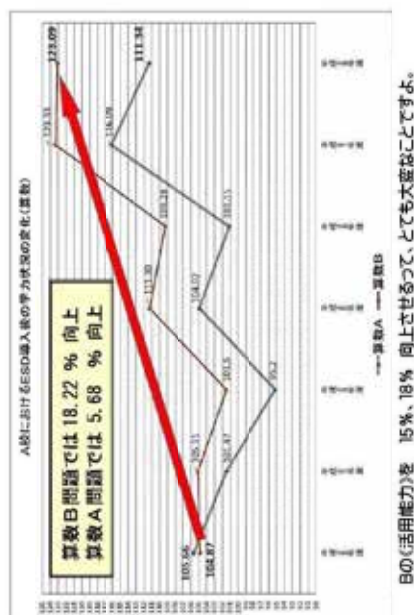
殊しく我信する場を意する

第7回八名川まつり発表内容



「ESDカレンダー」と「学びに火をつける指導」の成果

1年や2年で結果は出ませんでした。でも、結果が始めると、雪だるま式に向上します。



学力以外での児童の変化

- ① 学習全般に対する積極性が高まる 意欲
- ② 子ども同士の人間関係が穏やかになる 信頼 対話
- ③ 誰の意見に対しても尊重し、聞き合えるようになる 信頼
- ④ 大人に対する信頼感が高まる 信頼
- ⑤ どの学年もプレゼン能力が飛躍的に高まる 表現力 主体性
- ⑥ 全校集会など、児童の活動が主体的になり、質も向上 学びの質の向上
- ⑦ 高学年が頼りになる 自覚

教員の変化、保護者や地域の変化

- ① 子どもを怒鳴りつけるような指導が影を潜め、指導力の向上意欲
指導法の改善
- ② 子どもの学びに火をつける工夫をしようとする
- ③ 的確な指示・説明や称揚が増える 指導力の向上意欲
カリキュラム・マネジメント
- ④ 前年までの指導を共有・改善し、授業を進化させる
- ⑤ この学校で働けることに誇りと喜びを感じる
- ⑥ 保護者アンケートが感謝の言葉で始まるようになった 開かれた教育課程づくりへ
- ⑦ 保護者・地域は参観から参画へ、そして協力者へ

校長として気をつけていたこと

- ① 学校の最終責任者は校長（問題から逃げない）
- ② 自分と異なる意見の教員の声にこそ、耳を傾ける
- ③ 教師を委縮させるような指導をしない
- ④ ESDの視点から教育課程全てを職員とともに見直す
- ⑤ (児童)SDGsまつり・(職員)ESD実践交流会の継続
- ⑥ 職員に名刺を作って持たせる(開かれた学校の基本)
- ⑦ 学校とESDの営業に徹する



ところでみんな・・・、

この中で、学校教育を変えられる、
素敵な大人って、だ～れ？

先生たちは、教育委員会は、政治家さんは、

子どものためにと言いつつながら・・・

「学力向上」や「知・徳・体」にしがみついて
いつまで、

時代遅れの教育を引きずっているの？

ユネスコスクール オンライン近畿地方大会

主 催：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会 奈良教育大学 近畿ESDコンソーシアム
共 催：日本ESD学会 第4回 近畿地方研究会実行委員会
後 援：ESD活動支援センター 近畿地方ESD活動支援センター

プレ大会：11月1日（日）・8日（日） 10時00分～16時30分
本大会：11月15日（日） 9時30分～16時30分

すべてZoomを使用します。
参加無料！

お申込みは
こちらから→



ユネスコスクール間の児童生徒の交流による取り組み意欲の向上と、授業実践の相互参照による質的向上を図るとともに、次世代の担い手である児童生徒による「近畿ユネスコスクール子ども宣言」の作成と、実践者による「ユネスコスクールの現状と課題の整理」を作成し、ユネスコスクール全国大会に提供することで、全国大会の成功に資することを目的として開催します。みなさんといっしょに学び合ひましょう。

内容		11月1日(日)	11月8日(日)
		ユネスコスクール近畿地方大会プレ大会Ⅰ	ユネスコスクール近畿地方大会プレ大会Ⅱ
子ども宣言作成	10:00～12:00	ESD子ども会議Ⅰ	ESD子ども会議Ⅱ
実践交流会	13:00～14:30	実践交流会Ⅰ・ESD研究会Ⅰ	実践交流会Ⅱ
現状と課題の整理	14:30～15:30	参加者意見交流会Ⅰ	参加者意見交流会Ⅱ
ESD講演会	15:30～16:30	「Withコロナ時代のESD・学校教育」 元江東区立八名川小学校長 手島 利夫 氏	「ESDの授業づくり」 奈良教育大学特任准教授 大西 浩明 氏



11月15日(日)	
ユネスコスクール近畿地方大会	
指導・助言 文部科学省 国際統括官付 国際戦略企画官 日本ユネスコ国内委員会事務局次長 石田 善顕 氏	
9:30～11:00	ユネスコスクール子どもフォーラム
11:00～12:30	子ども宣言の作成
13:00～14:30	実践交流会Ⅲ・ESD研究会Ⅱ
14:30～15:30	参加者意見交流会Ⅲ
15:30～16:30	「ホールスクールアプローチ」 大牟田市教育長 安田 昌則 氏

○ ユネスコスクール子どもフォーラム

各校における取り組みをまとめた動画を視聴し、参加した児童生徒が意見を交換します。

○ 子ども宣言作成

プレ大会の子ども会議で明らかになった現状や課題をもとに、持続可能な社会のために今後どのように行動していくかについて「子ども宣言」を作成します。

○ 実践交流会・ESD研究会

3つの分科会に分かれて、3日間で計24本の実践・研究発表があります。

○ 参加者意見交流会

実践交流会・ESD研究会の分科会ごとに、参加者相互でユネスコスクールの現状と課題について話し合います。

○ ESD講演会

ESDについて最新のお話をうかがえます。

ユネスコスクール子どもフォーラム参加校

奈良市立都祁小学校（奈良）
神戸市立大沢中学校（兵庫）
立命館守山高等学校（滋賀）
和歌山県立橋本高等学校（和歌山）

奈良教育大学附属中学校（奈良）
京都外大西高等学校（京都）
関西創価高等学校（大阪）



奈良教育大学
なつきよん

実践発表者

	時間	第1分科会	第2分科会	ESD研究会
11月1日 （日）	1) 13:00 ～ 13:30	地域文化を探究する学習 小学校3学年総合的な学習の時間 ー「金魚のまち大和郡山」を事例にー 大牟田市立吉野小学校 島 俊彦	学校と森と水の源流と近畿ESDコンソーシアムのプラットフォームでつくるESD遠足の 実践 奈良市立平城小学校 新宮 済	地域資源を活用した学びの実現に向けて ～学校と地域が連携する有効性～ 近畿環境パートナーシップオフィス 中澤 敦子
	2) 13:30 ～ 14:00	ともに学ぶ 応其小学校 ～大好きな学校・地域にMINTの風を吹かそう！～ 橋本市立応其小学校 辻脇 昌義	水から(自ら)広げる豊かな学び 箕面こどもの森学園 (NPO法人コクレオの森) 佐野 純	コロナ禍における奈良ユネスコ協会青年部の取組 奈良ユネスコ協会 松浦 慎
	3) 14:00 ～ 14:30	大沢中学校の取組 神戸市立大沢中学校 小畑 幸一	平和学習 奈良に帰ってきた三角定規 ーまみいちPEACEプロジェクトー 広陵町立真美ヶ丘第一小学校 藏前 拓也	フィリピン残留日本人を通してSDGs16を考える 奈良教育大学 太田 満
11月8日 （日）	1) 13:00 ～ 13:30	パラスポーツって何だろう 奈良市立飛鳥小学校 圓山 裕史	これは使える！ フォトチャット 奈良教育大学附属幼稚園 鎌田 大雅	
	2) 13:30 ～ 14:00	学校統合に関わる課題について ～ユネスコスクールの継続に向けて～ 大阪市立御幸森小学校 高尾 祐彦	ESDの視点を取り入れた、思考力・判断力・表現力を高める授業の創造 名張市立蔵持小学校 森 恭一	
	3) 14:00 ～ 14:30	高時のオオサンショウウオを守るために ー ESDの視点をふまえた学習指導 ー 長浜市立高時小学校 足立 康輔	大阪市立晴明丘小学校自然観察学習園での活動 エリーニ・ユネスコ協会 富澤 裕美子	
11月15日 （日）	1) 13:00 ～ 13:30	生物多様性について考えよう ～小学校2年生生活科「どうぶつはかせになろう」の実践より～ 平群町立平群北小学校 中澤 哲也	探究活動促進のための教員データベース作成 ー立命館守山高校 共創探究科の実践ー 立命館守山高等学校 水谷 深志	ESD for 2030にもとづいたESD・SDGsワークショップとコーチング ーネットを使った社会人向け実践報告ー 地域連携プラットフォーム/ESD-J 長岡 素彦
	2) 13:30 ～ 14:00	春日山をシカが喰う～鹿害から春日山を考えるESD実践 奈良教育大学附属中学校 山本 浩大	関西創価高校の世界市民教育 関西創価高等学校 大月 昇	使命感と達成感を大切にした国語科×総合の教材開発 橋本市立あやの台小学校 中谷 栄作
	3) 14:00 ～ 14:30	コロナ禍における災害復興支援の可能性 ーネスコスクールの繋がりを活かしてー 奈良教育大学ユネスコクラブ 狗飼菜々子、谷垣徹、佐藤こころ	ユネスコスクールにおける地域連携教育とSDGSについて 和歌山県立橋本高等学校 中嶋 浩晶	概念変化に伴う価値観の変容 大分大学 河野 晋也

- ユネスコスクール以外の方や一般の方でも参加できます。1日のみ、半日のみでも構いません。
- お申し込みは、下記QRコード、または、下記近畿ESDコンソーシアムのホームページの申込フォームからお願いします。

<https://kinkiesd.xsrv.jp/>



- 申込みいただいた方に、Zoomに参加するURL・ミーティングID・パスワードをお知らせします。

お問い合わせ：奈良教育大学教育研究支援課 ESD事務担当 藤原・西田 Tel：0742(27)9367 Mail：k-soumu@nara-edu.ac.jp

近畿ユネスコスクール子ども宣言

2020年11月15日

今、私たちが暮らすこの地球は、国や人の対立・格差、生物多様性の損失、気候変動、自然災害の増加、感染症の流行など、様々な課題を抱えています。ユネスコスクールで学ぶ私たちは、これからの社会を担う者として、これらの課題について学びを深めてきました。2015年の国連持続可能な開発サミットで SDGs (持続可能な開発目標) が採択されてから 5 年が経ち、テレビや新聞、街中でもよく SDGs のロゴを見かけるようになりました。まさに今、SDGs の達成、持続可能な社会の実現に向けて、ユネスコスクールでの学びの成果が問われています。2020年11月、近畿地方各地の小学校から大学までのユネスコスクールで学ぶ仲間99人がオンラインで集い、近畿地方各地のユネスコスクールから集まった 337 枚の作文等をもとに、自分たちの学校・地域・世界が抱える課題、関心のある課題を共有し合い、課題の解決に向けてユネスコスクールの私たちにできることを話し合いました。

私たちは、持続可能な社会づくり、SDGs の達成を目指して、次の5つのことを宣言します。

1. 《多様性》

私たちはジェンダー、人種、地域、文化、職業などの違いを認め合いましょう。また、生物多様性を大切にしましょう。

2. 《価値観》

私たちは自分自身の考え方・捉え方を見直し、未来のために、今できることを考えましょう。

3. 《自分ごと化》

私たちは貧困、飢餓、人権、環境、紛争などの地球的な課題を深く理解し、自分にできることを考え、解決するために行動しましょう。

4. 《つながり》

私たちは一人一人の話し合いから始めて、ユネスコスクールの輪をみんなに広げていきましょう。

5. 《決意》

私たちは誰一人取り残さず、地球に住む全ての仲間とともに協力し、平和で幸せに暮らせる地球をつくりまします。課題の解決は一人では出来ません。私たちは仲間をつくり、仲間を広げ、仲間とともに行動します。

2020 年度ユネスコスクールオンライン近畿地方大会【参加者意見交流会のまとめ】

◎ユネスコスクールの現状と課題

1. 現状

- ・ ESD に取り組んでいる学校と取り組んでいない学校の差が大きい。学校としての理解度に疑問。
- ・ 学校として積極的に取り組むかどうかは、管理職の態度に左右される。
- ・ 学校全体で取り組んでいる学校では ESD 担当という校務分掌があり、研修会を開いたり、研修に参加して得た知識や情報を他の教員に伝えたりしている。
- ・ ESD に取り組んでいる教員が限られている。
- ・ 学校の先生はまじめな人が多いためか、クラブや授業を完璧にしようとするため、多忙にまた精神的ゆとりがなくなってしまう、新たに ESD に挑戦してみようという人が少ない。
- ・ 異動がある中で ESD 実践を継続していくのが難しい。

2. 学校のトランスフォームをどう起こすか

- ・ 学習指導要領の改訂、SDG s、教科書への E S D の記載など、今がチャンスだ。
- ・ ユネスコスクールの意義を学校が考える（再考する）べきである。
- ・ ユネスコスクールに加盟するメリットが見えにくい。可視化する必要がある。
- ・ ESD に関する教員の意識や知識の差が大きく、関心を高め、実践する教員を増やす必要がある。
- ・ N P O には課題を持ち寄ってお互いに学びあい、考えあい、共有していく場とコーディネーターが必要だ。学校には地域の N P O をつなぐ役割があるのではないか。
- ・ 地域で実践を発信すると、地域がどんなかわかり方をすればよいのかが見えてくる。もっと発信してほしい。
- ・ 中学・高校で教科の学びをつなぐのは難しいが重要である。カリキュラム・マネジメントが重要だ。

3. 連携・交流について

- ・ 小中高の一貫性を見ていく必要があるが、実際には難しい。
- ・ 小中の連携は比較的とりやすいが、高校は地域性が薄れてくるため、連携が難しい。
- ・ 学校が閉鎖的である。実社会（企業）とのつながりに目を向けてほしい。学校での学びを地域の方に発信していく。学校の役割を 180 度転換し、学校は地域のために何ができるかを考えるべきだろう。
- ・ コロナ禍においては、ネットワークを使った交流はやりやすくなっている。交流をしようという気持ちのある教員が限られている。研究会など様々な機会に自分から出向いて相手を探してほしい。
- ・ 異なる視点・立場の方々と交流することが大切だ。
- ・ ユネスコスクールと地域のユネスコ協会がつながっていない。

4. その他

- ・ コロナ禍においては、行動化は難しい面がある。
- ・ 評価について、学びの後に活動の場があれば、そこでの行動を評価できるのではないか。
- ・ 町自体が S D G s への関心が低い。

令和2年度近畿ESD コンソーシアム ESD・ボランティア活動フォーラム 概要報告

英語教育専修 修士2回生 谷垣 徹

1. 目的

2018年に大きな災害をもたらした西日本豪雨の発生要因の一つが、温暖化であったと気象庁から発表された。近年の温暖化の影響で、豪雨災害の発生頻度が高くなっているほか、地震や津波といった自然災害の発生も危惧されるところである。一方、海外に目を向けると、SDGsの目標1～6に示される基本的な生活の保障が十分でない途上国も多い。これら被災地や途上国の人びとを支援することは、SDGsのキーワードである「誰一人取り残さない」活動であり、今後ますます重要になっていくと思われるが、ボランティア活動の意義を多面的に考え、支援する側にとっての意義を明らかにすることにより、ボランティア関心層を広げ、活動の質を向上することを目的として、本フォーラムを開催する。

2. 主催 国立大学法人奈良教育大学、近畿 ESD コンソーシアム

3. 開催日時 2021年3月7日（日）9時～12時50分

4. 会場 奈良教育大学 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール
オンライン会議システム「Zoom」を用いた、ハイブリッド形式で行う。

5. 参加者 講師：養父市立建屋小学校 主幹教諭 坂本 和宏 氏
奈良教育大学 学生・院生（ユネスコクラブ、安全企画委員会）20名
教員・研究員 6名
一般参加者 4名（高校生、大学関係者、本学卒業生）

6. 日程

9時00分～9時10分 開会行事

開会挨拶（奈良教育大学 国際交流・地域連携担当副学長 高橋 豪仁）

9時10分～10時40分 基調講演 「ボランティアと心のケア」

講師 養父市立建屋小学校 主幹教諭 坂本 和宏 氏

10時50分～11時50分 事例報告

1. ユネスコスクールの繋がりを活かした新しい災害復興支援

奈良教育大学ユネスコクラブ

狗飼菜々子、足立繁郁、佐藤ころ、井原奈佑、木下結等、松岡花

2. 安全企画委員会の取り組みについて

奈良教育大学安全企画委員会

山野遼汰郎、金森美羽、中谷正哉

11時50分～12時40分 シンポジウム「ボランティア活動の意義を多面的に考える」

シンポジスト 坂本氏・ユネスコクラブ・安全企画委員会

司会 櫛 乃里花、谷垣 徹

12時40分～12時50分 閉会行事

閉会挨拶（奈良教育大学 防災訓練プロジェクトチーム座長 笠次 良爾）

【基調講演】「ボランティアと心のケア」

講師： 震災・学校支援チーム EARTH 養父市立建屋小学校 主幹教諭 坂本 和宏 氏

1 コロナ時代の今・・・学校では？

マスク姿でのコミュニケーション：怖いのは「慣れ」？

コロナ後の世界は：それ以前の世界に完全に戻ることはない → 生活習慣の大きな変化

2 阪神・淡路大震災の記録より

「夢やったらええのに」…心のきず

3 知識・技能を持つことの大切さ

防災行動のあり方・普段からの備えの大切さ → 心のケアの土台に

心のケアの第1歩は、自分の生命・体の安全確保

4 2冊の本から学ぶ

①「自然災害とストレスマネジメント～それでも僕らは歩みだす」

阪神・淡路大震災：教職員はなぜ追いつめられたか

防災体制の充実と心のケアとは一体である。

ひとたび災害のインパクトを経験した人間は、もう元の同じ人間ではありえない。

東日本大震災の被災地の避難所 「心のケア おことわり」という張り紙

②「大災害と子どもの心」

心のケア：弱者に対する世話や配慮をイメージさせる。

→ 心のケアは「セルフケア」（人間に本来備わっている自己回復力）

セルフケアの視点のない心のケアは「単なるおせっかい」

「体をほぐしてみませんか？」「あったかいお茶いかが？」「絵本の読み聞かせ会です」

具体的、身近、選択できる、主体的参加がしやすい

東日本大震災後の心のケアのモデル

①安全・安心体験

②ストレスマネジメント体験

③心理教育体験

④生活体験の表現

⑤被災にともなう体験の表現

⑥避けていることへのチャレンジ

⑦喪の作業

ストレスへの対処法

①問題焦点型対処（問題に立ち向かう対処） ⇔ ②情動焦点型対処（気持ちについての対処）

5 心のケアの汎用性について

教職員の立場からの心のケアの在り方

- ①「心のケア」は「セルフケア」ということを基本におさえること
- ②防災体制の充実により、安全・安心な環境を整えること
- ③ストレス反応とその対処について、学習活動に位置づけること
- ④教師が子どもの話に耳を傾け、肯定的に受け入れる態度を持続けること

◇リラックス法の実践（緊張と弛緩の繰り返し、体と心は繋がっている）

6 北但馬地震での中学校の活動から、ボランティアの役割について学ぶ

- ・中学生は、頼もしい存在になれます。
 - ・中学生は、守られる立場だけれど守る立場になれます。
 - ・中学生は、自分も周りも幸せにできます。
 - ・中学生は、地域や社会を動かす原動力になれます。
- 被災者が主体者となってボランティアをすることの意義

8 終わりに

家族がいる、友達がいる、あなたを大切に思う人がいる → 一番の心の支え

日常的に「共助」の気持ちを持つこと → 一番の防災

阪神・淡路大震災は「ボランティア元年」と言われた。

災害を知る（知識） 災害に備える（技能） 絆を深める（人としての生き方・あり方）

→すべて心のケアにつながる

ボランティアは「心のケア」である。

【事例報告】ユネスコスクールの繋がりを活かした新しい災害復興支援

奈良教育大学ユネスコクラブ

狗飼菜々子、足立繁郁、佐藤ころも、井原奈佑、木下結等、松岡花

ユネスコクラブの紹介

（目的）ESD を実践できる教員になる・ESD を楽しく追究する

（活動）①ESD・SDGs に関する勉強会「新型コロナウイルス感染症とわたしたち」「防災企画」

②他大学・団体との活動交流 「ユネスコクラブ全国サミット」

③子どもと関わる活動 「ユネスコスクール子ども会議」

◇ユネスコクラブと災害復興支援

これまでの活動： 陸前高田市文化遺産調査団（東日本大震災）、十津川道普請（台風 12 号）、
西日本豪雨（現地でのボランティア活動 13 回）
被災地ボランティアシンポジウム開催

令和2年7月豪雨発生後「私たちにできることは？」

相手がある、顔の見える支援がしたい

→ 被災したユネスコスクール

大牟田市立みなと小学校と繋がる

・メッセージ動画の作成 ・寄せ書きポスターの送付

先生とのやり取りから「オンライン学習交流会」へ



ユネスコクラブの発表の様子

ESD に関心のある児童「みなと ESD 進め隊！」との交流会

(第1回) 奈良の紹介 奈良のシカ、東大寺、大仏さま、春日山原始林

(第2回) 大牟田の紹介 明治日本の産業革命遺産の宮原坑、豪雨災害の被災状況

ESD 海洋教育の取り組み、大牟田市のおいしい食べ物

【実践報告】安全企画委員会の取り組みについて

奈良教育大学安全企画委員会 山野遼汰郎、金森美羽、中谷正哉

安全企画委員会の紹介

(目的) 大学内・地域と連携した安全な環境づくりのための活動

それに関わる知識の習得やスキルの啓蒙を行うこと

(活動) ①災害時の対策を学ぶ、実践する。

②災害に関するイベントの企画・運営

防災訓練、講演会、研修会

③奈良市学生消防分団に参加



安全企画委員会の発表の様子

【大学内での活動】

○市民メディカルラリーへの参加

ファーストエイド（応急手当）、心のケア（PFA）、
避難所アセスメント、トリアージ、心肺蘇生法

○防災訓練での取り組み

従来の訓練に、トリアージ、毛布を用いた搬送、布を用いた腕の固定 の訓練を取り入れた。

○防災対面研修会の実施

ファーストエイド（応急手当）、心肺蘇生法（胸骨圧迫）



シンポジウムの様子

【大学外での活動】

○辞令交付式 ○規律訓練

○応急手当講習 ○放水訓練体験

【シンポジウム】「ボランティア活動の意義を多面的に考える」

シンポジスト：坂本氏、ユネスコクラブ、安全企画委員会 コーディネーター：櫛乃里花

①ボランティアに参加しようと思った or 事業を起こそうと思った「きっかけ」

- ・周りの人の影響 他の人の頑張りに背中を押される気持ち
- ・何か力になれることはないか 子どもと関わる機会 ESD について勉強したかった 自分の成長
- ・先輩からの誘い 防災に関する知識の不足

○災害に関わるきっかけとなった原体験や、やろうと思った心境など

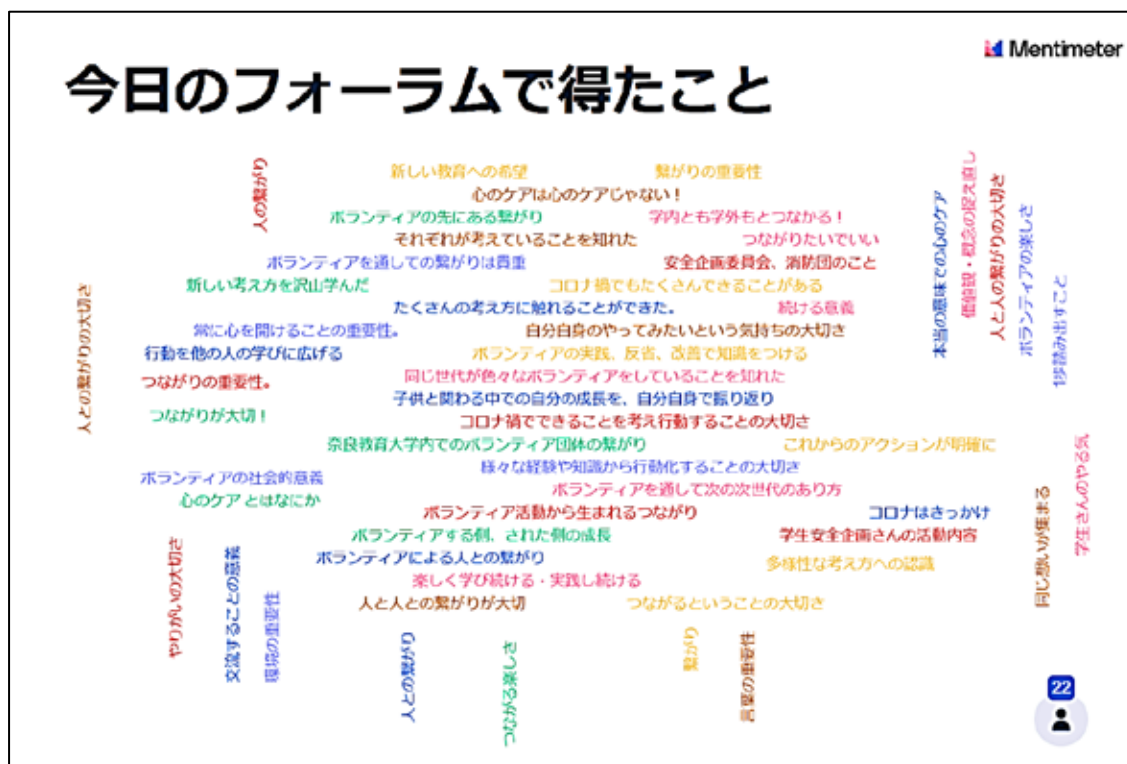
- ・災害に関わる経験 格差があってもならない 勉強すればするほど楽しくなった 知的好奇心
- ・自分は何も成長できていない 成長のきっかけがほしかった
- ・スーパーボランティアの尾畠さんのボランティアをされている姿を見て

②ボランティアを実施して得たこと、自身の中で変わったこと

- ・女性消防団との関わり 自分も知識を高めたいと思った
- ・やりがいを感じた 共に成長できる関係
- ・新学習指導要領で求められる「協働で物事を成し遂げる力」→ボランティアはその中核的な力
- ・社会と繋がっているという実感 いろんな人の考え方に触れる
- ・「水害で失ったものは多いけど、水害あったからあなたたちと出会えたんだよ」温かさ
助ける・助けられる側を越えて、自分たちが元気をもらった 人と人とのつながり

③これからのボランティアについて 次はどんなアクションを起こしたいか

- ・安全企画委員会の認知度を上げたい 多くの学生に研修会参加してもらいたい
- ・人とのつながりを感じられるオンラインのボランティアを考えていきたい
- ・ボランティアで得たスキル、スピリッツを社会の中で生かされる、生きがいとして持ち続ける



【学生による ESD 活動支援】

春日山原始林をフィールドとした ESD 実践 活動報告書

国語教育専修 3 回生 西條秀哉

1. 企画名 「第 28 回 春日山原始林観察会 夏の森できのこをみつけよう！」
2. 日時 2020 年 7 月 4 日（土）10 時～12 時
3. 場所 春日山原始林
4. 講師 京都大学フィールド科学教育研究センター・特定助教 赤石 大輔 氏
5. 参加学生 国語教育専修 3 回生 西條 秀哉
教育学専修 2 回生 岩城 雄大
6. 概要 夏の春日山原始林でキノコの観察を楽しみつつ、春日山照葉樹林の現状について知る機会を提供する

7. 活動を通した学び

本活動を通して、以下の 3 点の学びが挙げられる。1 点目にきのこの種類について、2 点目にきのここと春日山原始林の関係について、3 点目に春日山原始林の現状についてである。

1 点目のきのこの種類に関しては、具体的にハラタケ目、イグチ目、ベニタケ目の 3 種類に大きく分けることができる。それぞれ外見や触り心地に違いがあり、特徴さえわかればおおかたどの分類のきのこのかを判断することができた。きのこにも様々な種類があるということは知っていたが、今回のフィールドワークにて、その分類分けがより細かくなった。まだ、理科の授業にて応用できるイメージは想定することができていない。しかし、小中学校で行う遠足や課外活動にて児童生徒や教員がきのこを見つける機会に、その作りや分類分けを教えることができれば、児童生徒とのコミュニケーションのきっかけにつながったり、きのこの話題を通じてその遠足や課外活動での興味関心を高め積極的な参加を促したりすることができるのではないかと考える。

2 点目のきのここと春日山原始林の関係については、春日山原始林の特質に大きく関係している。春日山原始林は世界文化遺産に指定されているので、研究目的以外での採取が禁止されている。だからこそ、他の地域の森とは違った特殊な植生環境になっており、きのこに関しても様々な種類が 2 時間だけでも発見することができた。また、きのこは春日山原始林に生息する多くの生き物の食料にもなっているということを知ることができた。きのこ自体毒がある種類もあるので、毒があるか否かを見分けられる人間しか好んで食べないのかと考えていたが、鹿や昆虫、ナメクジやリスなど沢山の生き物がきのこを食べて生きているということを新たに学ぶことができた。また、きのこが大きな木の近くで栄養を吸収し、暗くて光合成のできない背の低い植物がきのこから栄養をもらうという植物ときのこの関係も学ぶことができた。きのこには、動物にも植物にも恩恵のある働きがあるということが今回のフィールドワークで学んだ最も大きな学びだと思う。

3 点目の春日山原始林の現状については、きのこを探しているときに気づいた。歩道から川にかけた土や植物が生い茂っている坂の部分に、コケや植物がなく、山肌が見えてしまっていた。これにより、きのこは見つけやすくなって本活動中は都合がよかったが、実際はかなり深刻な問題だと話を聞くことができた。坂の部分の植物やコケを鹿が食べてしまうことで、土肌が出てきて雨によって川に流されてしまったり、鹿が食べない植物がそこに生えてしまい、春日山原始林の植生環境が変わってしまったりとこれから先持続不可能な状況に陥ってしまう予兆だと感じた。

上記のように、今回のフィールドワークで、改めて森に生息する生物がそれぞれ自分と他の種とでお互いに関わりあって生きているということを学ぶことができた。

【学生による ESD 活動支援】

春日山原始林をフィールドとした ESD 実践 活動報告書

特別支援教育専修 2 回生 山中 彩加

1. 企画名 「自然を楽しもう 春日山自然学校プロジェクト 2020・秋
親子で楽しむネイチャーゲーム」
2. 日時 2020 年 10 月 11 日（日）10 時～12 時 30 分
3. 場所 春日山原始林
4. 講師 奈良県シェアリングネイチャー協会
5. 参加学生 社会教育専修 2 回生 岡本 真実
特別支援教育専修 2 回生 山中 彩加

6. 概要

春日山原始林で自然を楽しむネイチャーゲームを親子で体験し、原始林の自然と親しむ。

7. 活動を通した学び

ESD に関わる活動支援として、「自然を楽しもう 春日山自然学校プロジェクト 2020・秋 親子で楽しむネイチャーゲーム」にスタッフとして参加した。私が今回のネイチャーゲームを通して学んだことを、以下の 3 点述べたい。第 1 にゲームを通した自然の良さへの気付きについて、第 2 に複数の視点から考えることで深まる学びについて、第 3 にコロナウイルス感染症への配慮についてである。

第 1 のゲームを通した自然の良さへの気付きについてである。今回のネイチャーゲームでは、見るだけでなく耳をすませたり自然の匂いを感じたり、感触など、様々なゲームを通して自然の中を歩き、楽しさや自然の良さに気付くことができると分かった。

第 2 の複数の視点から考えることで深まる学びについてである。複数の視点から考えることで、普段の生活では着目しないような視点から自然を感じることができると考える。例えば、今回のネイチャーゲームではフィールドビンゴを行ったが、その項目の中には「両手で抱えられない木」や「苔が生えている木」のように、木だけでも複数の項目があり、複数の視点を取り入れることで、「この木はとても大きいけどあの木は…」や「この木の下にある植物は何だろう」といったように、子どもたちの中でさらに視点が広まっていくと考えられる。

第 3 のコロナウイルス感染症への配慮についてである。コロナウイルスの影響で様々なイベントの開催が取りやめられている中、今回のイベントでは、野外での活動にすることや、子ども 1 人もしくは親子で達成できる比較的簡単なゲーム内容にすることで、子どもたちも取り組みやすく、また接触を避けながら活動を楽しむことができるということが分かった。

今回の活動を通して、主にこのような 3 点のことを学ぶことができた。学んだことを今後の活動にも生かしていきたい。



ネイチャーゲームの様子

【学生による ESD 活動支援】

大牟田市立みなと小学校 第1回オンライン学習交流会 活動報告書

音楽教育専修 3 回生 狗飼 菜々子

1. 日時 2020 年 10 月 14 日 (水) 13:10~13:40
2. 場所 Zoom によるオンライン会議
3. 参加者 学部 3 回生 狗飼 菜々子 (音楽教育専修)、足立 繁郁 (社会科教育専修)
学部 2 回生 井原 奈佑 (幼年教育専修)
学部 1 回生 松岡 花 (音楽教育専修)、木下 結等 (教育学専修)
次世代教員養成センター 准教授 中澤 静男、特任准教授 大西 浩明
大牟田市立みなと小学校 みなと ESD 進め隊! 児童・教員
4. 内容 ①みなと ESD 進め隊! の児童と本学ユネスコクラブ学生の顔合わせ
②ユネスコクラブ学生による、奈良の紹介 (東大寺・春日山原始林など)
5. 活動を通じた学び

2020 年 10 月 14 日 (水) 13 時から、Zoom によるオンライン会議で福岡県大牟田市立みなと小学校との交流会を行った。大牟田市立みなと小学校は先日の豪雨被害を受けた福岡県の小学校で、ユネスコスクールでもある。コロナ禍である今、同じユネスコスクールである奈良教育大学の私たちが子どもたちのために何か出来ることはないかと、YouTube 上でのビデオメッセージなどで交流を行っており、今回オンラインでの交流会が実現した。みなと小学校サイドの参加者としては、ESD に興味のある、幅広い学年の児童が参加した。

私が今回の活動を通して学んだこと、感じたことは三つある。

一つ目は、コロナ禍でも自分たちが出来ることはないかと考え、行動を起こすことの大切さである。本当であれば被災地へ足を運び、直接支援を行えば一番良かったが、今回は新型コロナウイルス感染症の影響でそれが出来なかった。それでも、自分たちが今できる最善の方法を考え、行動した結果、このようなオンライン交流を行うことができた。今回の交流会が今後続いていくことで子どもたちの支援が出来ればと考えている。

二つ目は、子どもたちの反応が想像以上に良く、企画してよかったと心から感じたことだ。今回の交流会では、私たち学生から奈良教育大学について、ユネスコクラブについて、そして東大寺と春日山原始林についてクイズなどを交えながら、スライドを使って紹介した。どのような企画にすれば子どもたちに喜んでもらえるかを考えながら、学生同士で1か月以上準備を行ってきたため、実際に楽しそうにしている子どもたちの表情を見たときは安堵感でいっぱいになった。

三つ目は、子どもたちと関わる際の話し方、スライド作成の工夫である。私自身、これまであまり小学生と直接関わる機会が多かった訳ではなく、当日まで不安と緊張でいっぱいであったが、子どもたちが見やすいスライドになるよう、他の学生にアドバイスをもらいながら準備を行った。話すスピードも速くならないよう、子どもたちが安心できるようなトーンで話すことを心掛けた。

交流会は今回で終了ではなく、継続的に行っていくことが決まっている。次回は今回の交流会以上に良いものになるよう、また準備を行っていきたい。



第1回オンライン学習交流会の内容

【学生による ESD 活動支援】

奈良公園でネイチャーゲームとクラフト 活動報告書

特別支援教育専修 2 回生 山中 彩加

1. 企画名 市民環境講座 奈良公園でネイチャーゲームとクラフト（クリスマスリース作り）
2. 日時 2020 年 11 月 23 日（月・祝）9 時 30 分～12 時
3. 場所 奈良公園、ならまちセンター
4. 講師 奈良市まほろばシェアリングネイチャーの会
5. 参加学生 特別支援教育専修 2 回生 山中 彩加
国語教育専修 1 回生 高垣 有貴

6. 概要

奈良公園にて二つのネイチャーゲーム（木のシルエット、フィールドパターン）、そしてならまちセンターにてクリスマスリース作りを行った。学生は受付、安全管理、リース作りの補助等を行った。ネイチャーゲームの「木のシルエット」は体を使って木の形を再現するもの、「フィールドパターン」は紙に書かれた丸や三角形のものを自然の中から探し出す活動である。クリスマスリース作りでは、子どもたちがそれぞれ好きなリースの土台、材料を選び、どんぐりや松ぼっくり、落ち葉等をつけて装飾した。

7. 活動を通した学び

ESD に関わる活動支援として、「市民環境講座 奈良公園でネイチャーゲームとクラフト（クリスマスリースづくり）」にスタッフとして参加した。私が今回の活動を通して学んだことを、以下の 3 点述べたい。第 1 にじっくり見ることでの気づき、第 2 に自然の良さへの気づき、第 3 に手や耳などの感覚を使った楽しさである。

第 1 のじっくり見ることでの気づきについてである。ネイチャーゲームの「フィールドパターン」では、葉の形や石の形を見て、子どもたちが丸や三角の形以外にも、難しいハートの形や渦巻形のものを積極的に探す様子が見られた。「木のシルエット」でも同様に、普段からあまりじっくりと見るのではないと思われる、自然に生えている植物や落ちていた石や葉を、ネイチャーゲームを通して細かな部分まで着目して観察する様子が見られた。

第 2 の自然の良さへの気づきについてである。ネイチャーゲームやリース作りなどの活動は、楽しみながら自然の良さに気づききっかけになると考えた。

第 3 の手や耳などの感覚を使った楽しさについてである。今回は親子での参加だけでなく、子ども同士の参加もあった。また、年齢層も幅広く、小学生の年齢に満たない子どもも参加していた。感触や匂い、音など、感覚を働かせながら小さな子どもでも難しさを感じず、楽しく参加できるゲームや製作であると感じた。年齢層が低くても子どもたちが楽しみながら学ぶことができる取り組みとして、とても有意義な活動であると考えた。

今回の活動を通して、このような 3 点のことを学ぶことができた。得た学びを今後の活動にも生かしていきたい。



ネイチャーゲームの様子

【学生による ESD 活動支援】
NEW 市民環境講座 奈良公園でネイチャーゲームとクラフト
(クリスマスリースづくり) 活動報告書

美術教育専修 1 回生 高垣有貴

1. 企画名 「NEW 市民環境講座 奈良公園でネイチャーゲームとクラフト(クリスマスリースづくり)」
2. 日時 2020 年 11 月 23 日(月・祝) 午前 9 時半～正午
3. 場所 県庁前の園地・ならまちセンター
4. 講師 奈良市まほろばシェアリングネイチャーの会
5. 参加学生 特別支援教育専修 2 回生 山中 彩加
美術教育専修 1 回生 高垣有貴

6. 概要

9:00 受付開始(環境政策課)

ネイチャーゲームスタッフ、ならまちセンターへ搬入後、行基前に移動

9:15 受付開始

9:30 開始の挨拶(主催者 会長)、NG スタッフ紹介

県庁前の園地へ移動

9:50 前後 県庁前の園地にてネイチャーゲーム開始

木のシルエット

移動時およびアクティビティ時にリースに使用したい葉っぱやどんぐりがあれば拾う

10:40 頃 ならまちセンター移動(園地～興福寺～ならまちセンター)

到着後、トイレ休憩

11:00 リースづくり開始

机で作業をしてもらう

11:45 終了、終わりの挨拶(主催者 会長)

あとかたづけ

12:00 退出、解散

7. 活動を通した学び

私は今回の活動で、三つのことを学んだ。

一つ目は、子どもたちへの話しかけ方である。ただ話しかけるのではなく、子どもたちが楽しくなるような、感性を発達させてあげられるような話しかけ方が大切だと先生方の対応を見て学んだ。例えば、シカのふんを踏まないように歩いている子に対して、私なら「シカのふんを踏まないように歩いているの?」と話しかけていたが、近くにおられた先生が「シカのふんを踏まないように上手に歩けるかな?」と声をかけておられた。そうすると、子どもは楽しそうにびよんびよん跳ねながら歩きはじめ、声のかけ方次第で子どもはこんなにも変わるのだと感じた。それからは、「こんなどんぐりもあるよ!」「その葉っぱとてもきれいな色やね!」「ハートの形の物はどれだろう?」などと、自然の色んなものに興味が湧いたり、探してみようと思えるような声掛けを心がけた。

二つ目は、企画内容の工夫だ。全員が集まってもらうために吹く笛を、今回はアヒルの鳴き声が出る笛を使っておられた。その笛を吹くと子どもたちは「おもしろい音～」と笑いながら集合場所に集まっ

ていた。また、落ち葉やまつぼっくりを拾う際に使う袋として、ビニール袋ではなくバンダナを配りそれで袋を作った。これによって、環境に良いものを使う大切さも感じてもらえると思った。こうした一つひとつの工夫がとても重要だと学んだ。

三つ目は、地域のすべての人たちが楽しめる企画作りだ。最近、今回のようなイベントの参加申し込みもオンラインが多いという。しかし、孫と参加したいなどといったお年寄りにはスマホを持っていない方も多く、参加申し込みの往復はがきも無くすべきではないという話を行った。このように、地域に住むすべての方が快適にすごせるような企画作りが必要だと学んだ。

今回の活動で、これら三つのことを私は学んだ。また、子どもだけの参加もあり、その子たちに積極的に話しかけていたら、あちらから楽しそうに話しかけてくれるようになりとても嬉しかった。今回のイベントは当日来られた方以外にもたくさんの方の協力があって成り立っていることも忘れてはいけないと感じた。多くのことを学べたESD実践だった。これからも参加し、もっと成長していきたい。



ネイチャーゲーム



クリスマスリースづくり

【学生による ESD 活動支援】

大牟田市立みなと小学校 第2回オンライン学習交流会交流企画 活動報告書

社会科教育専修3回生 足立 繁郁

1. 日時 2020年12月3日(水) 13:10~13:40
2. 場所 Zoomによるオンライン会議
3. 参加者 学部3回生 足立 繁郁(社会科教育専修)、狗飼 菜々子(音楽教育専修)
学部1回生 梅原 彩華、松岡 花、松本 有未、森 恵里奈(音楽教育専修)
川口 綾菜、福西 隆生(英語教育専修)
次世代教員養成センター 中澤 静男、社会科教育講座 河本 大地
大牟田市立みなと小学校 みなと ESD 進め隊! 児童・教員

4. 内容

2020年12月3日、Zoomを用いて、福岡県大牟田市立みなと小学校と第2回目となる交流会が行われた。今回の交流会では、みなと小学校の子どもたちが四つのテーマに分けて、大牟田市やみなと小学校について紹介してくれた。まず一つ目は、大牟田の世界遺産について、世界遺産に登録されている明治日本の産業革命遺産の構成資産である宮原抗を取り上げ、紹介していた。次に二つ目は、令和2年7月豪雨災害についてだ。実際に災害を体験した子どもたちの経験をもとに紹介していた。そして三つ目は、みなと小学校の ESD の取り組みについてだ。学年別にみなと小学校でどのような ESD の取り組みが行われているかについて紹介していた。最後に、大牟田のおいしい食べ物についてだ。大牟田名物草木饅頭について紹介していた。四つのテーマの紹介後、奈良教育大学の学生から質問をし、みなと小学校の子どもたちと交流を深めた。



みなと小学校の交流の様子

5. 活動を通した学び

今回の活動を通して、私は二つのことを学んだ。一つ目に令和2年7月豪雨災害について、二つ目に、みなと小学校の ESD の取り組みについてだ。

まず一つ目は令和2年7月豪雨災害についてだ。今回の交流会では、みなと小学校の子どもたちが、令和2年7月豪雨災害について紹介してくれた。校舎が浸水し、小学校から出られなくなったことや、自衛隊や県外の方々から支援を受けたことについてなど、実際に体験したからこそ分かる、豪雨災害の実態について、知ることができた。子どもたちが話してくれたことを受け止め、私も誰かに伝えていきたいと思った。

次にみなと小学校の ESD の取り組みについてだ。みなと小学校の ESD の取り組みの特徴として、海洋教育を中心に取り組んでいることを知ることができた。3年生の有明海の生態系調査や、4年生の浜辺のゴミの調査など、子どもたちが実際に海に行き、調べる学習が行われていることを子どもたちが紹介していた。奈良県は海に面していないので、海洋教育は扱うことが少ないテーマだ。よって今回このような活動があることを知ることができて良かったし、今後に生かしたいと考えている。

今後も交流会を継続し、奈良教育大学ユネスコクラブとみなと小学校の親交を深めるとともに、交流を通してみなと小学校の子どもたちから、学びたいと思う。

【学生による ESD 活動支援】

あつまれ ECO キッズ！オンラインプログラム 活動報告書

社会科教育専修 2 回生 根本 優

1. 企画名 「つくって遊ぼう～牛乳パック de え工作～」
2. 日時 2021 年 1 月 17 日（日）13：00～15：00
3. 場所 Google Meet によるオンライン配信
4. 参加学生 学部 2 回生 南方 玲美（特別支援教育専修）、根本 優（社会科教育専修）
窪西 孝仁（数学教育専修）
学部 1 回生 木下 結等（教育学専修）、川田 大登（国語教育専修）
北野 結衣（社会科教育専修）、松岡 花（音楽教育専修）
松本 有未（音楽教育専修）、南本 桃花（美術教育専修）

5. 概要

2021 年 1 月 17 日、Google Meet を用いて、「あつまれ ECO キッズ！オンラインプログラム」が行われた。本活動では、各団体が参加した子どもたちにオンライン上で ECO に関するクイズを出題したり、クラフトを体験してもらったりした。今回ユネスコクラブでは「つくって遊ぼう～牛乳パック de え工作」をテーマに輪ゴムをつけた牛乳パックが高く飛び上がるおもちゃである「パッチンカエル」の作り方及び遊び方を参加した子どもたちに紹介した。



今回紹介したパッチンカエル

6. 活動を通した学び

今回の活動に参加して、私は二つのことを学んだ。一つ目に遊びの中にも ECO があること、二つ目にオンライン上で伝えることの難しさである。

一つ目の遊び方の中にも ECO があることについて詳しく述べる。企画に参加するにあたって ECO に関する遊びについて考えたときに、ECO という言葉に縛られてしまい、なかなか思いつくことができなかった。最近では、ゲーム機など電気を使ったおもちゃをよく目にし、電気を使わないおもちゃで遊ぶことも ECO な遊びになるという助言を奈良ストップ温暖化の会 NASO の杉山さんからいただいてから、環境への配慮を前面に押し出したものでなくても身近な遊びの中にも ECO の要素が含まれていることに気づいた。例えば今回のパッチンカエルならば、身近にある牛乳パックを再利用しており、さらに電気を使うことがないため、ECO な遊びであるといえる。子どもたちの身近な遊びの中にも実は ECO な要素が含まれていることをこれから伝えていきたい。

二つ目のオンライン上で伝えることの難しさについて詳しく述べる。今回は例年とは異なり、子どもたちとオンライン上でのやり取りであり、さらに私たちは今回クラフト体験だったため、画面越しに作り方や遊び方を紹介しなければならなかった。パッチンカエルを作るとき、言葉だけの説明では伝わらづらい場面がいくつかあり、分かりやすく作り方を伝えるために PowerPoint に図を示したり、発表者が実際に作っているところを映したりするなどの工夫をした。このような工夫をしたことで子どもたちはスムーズに作ることができていた。一緒に作りながら教えるということができない分、対面の時より作っている様子を映すだけでなく、図を示したりするなど複数の方法で詳しく伝えることが大切だということを学んだ。

以上の 2 点が今回の活動を通して学んだことである。

【学生による ESD 活動支援】

奈良教育大学附属幼稚園「ECO キャップ & SDGs」動画作成

英語教育専修 3 回生 後藤 旭

◇ 参加学生

学部 3 回生 後藤 旭 (英語教育専修)

学部 2 回生 佐藤 こころ (音楽教育専修)

学部 1 回生 川口 綾菜 (英語教育専修) 三嶋 菜月 (英語教育専修)

◇ 動画の内容

奈良教育大学ユネスコクラブに所属する学生 4 名で、奈良教育大学附属幼稚園園児に向けて ECO キャップ及び SDGs に関する動画を作成した。ECO キャップに関する動画では、奈良教育大学附属幼稚園で行っているペットボトルキャップの回収運動を学生による動画の撮影及び Power Point で説明している。具体的には、なぜ回収しているのか、回収された後どのように役立っているのか等の内容である。また、SDGs に関する動画では、SDGs とは何か、SDGs に取り組む意義等を SDGs の目標 3・12・14・15 番を例に挙げながら学生による動画の撮影及びペープサートで説明している。動画作成から編集まで、すべて学生が行った。



◇ 作成に関わった学生の感想

この動画作成では、幼稚園児に SDGs や ECO キャップについての説明をしたときに、果たして彼ら、彼女らがどこまで理解できるのか、そしてどの範囲まで理解してもらうべきなのかを考えるのが難しかった。普段の生活で私が幼稚園児と関わる機会はほとんど無かったため、昨年度も ECO キャップの教材作成に携わっていた先輩やその他のメンバーの意見を参考にして、「幼稚園児が理解できる」動画作成に努めた。

また、スライドの中にアニメーションを入れたり効果音・BGM を入れたりするなどして、視覚や聴覚に訴えかけ、幼稚園児が飽きずに楽しんで学ぶことができるような動画の作成を心がけた。私は主に ECO キャップの動画作成に関わったが、最初と最後の部分のテロップを入れる際にはその色を登場人物の服の色に合わせたり、そのテロップを横からスライドさせたりして、どちらのセリフなのかを園児にとって視覚的にも分かりやすいような編集にトライしました。また中間部の ECO キャップ博士の部分では、セリフに合わせた音楽を探して肝心のセリフをつぶしてしまわないよう音量を調節したり、効果的にエフェクト機能を使ったりした。動画編集を行ったのは初めてだったが、今回の動画作成で一通りの動画作成方法を学ぶことができた。その意味でも、この動画作成は非常に良い経験になった。

今回附属幼稚園の園児向けの動画作成に携わって、上記のように自身が成長することもできたし、園児にも SDGs や ECO キャップの取り組みについて理解してもらえる内容のものが作れたのではないかなと思う。附属幼稚園生の皆さんが SDGs や ECO キャップへの興味・関心を高める機会になれば幸いである。(英語教育専修 1 回生 三嶋 菜月)

お わ り に

新型コロナウイルス感染症拡大の 2020 年度にあつて、こうしてここに近畿 ESD コンソーシアムの年次報告書を取りまとめることができました。本年度のコンソーシアム活動の最大の事業は、ユネスコスクール近畿地方大会でした。これは、文部科学省の「ユネスコ未来共創プラットフォームの発展に資するユネスコスクールネットワーク活性化事業」として、11 月 1 日（日）、8 日（日）、15 日（日）の 3 日間にわたって実施したものです。講演会、実践交流会・ESD 研究会、ユネスコスクール子どもフォーラム等、様々なプログラムを全てオンラインで実施しました。詳細については、別冊子を作成しましたのでそちらをご参照頂き、本報告書では、子どもフォーラムで作成した「近畿ユネスコスクール子ども宣言」のみを掲載しました。

コロナ禍のため、例年実施していた陸前高田市での文化遺産調査・防災教育研究調査、木頭ゆず収穫ボランティア、「東大寺 寺子屋」の支援、ESD 子ども広場、等、様々な事業を中止せざるを得ませんでした。一方で、現職教員を対象とした「ESD ティーチャープログラム」は、対面形式とオンライン形式での講習を併用して、例年以上に充実したものとなりました。マスター認定者が 2 名、ティーチャー認定者が 42 名と昨年度の 2 倍の修了者を輩出しました。長浜市、大牟田市、山形市での受講者もあり全国各地で実施しました。本年度は特に奈良教育大学附属中学校から 12 名もの修了者があり、その多くは、本年度末に刊行する『学校教育における SDG s ・ ESD の理論と実践』（協同出版）に ESD の授業実践を執筆して頂いています。

また、本報告書に掲載している学ぶ喜び ESD 連続公開講座、及び 3 月 7 日に実施した「ESD・ボランティア活動フォーラム」は、オンライン、あるいはハイブリッド形式で実施することができました。

コロナ禍が終息するかどうか見通しが立ちませんが、次年度も引き続き、ESD を通して SDG s の達成を目指す近畿 ESD コンソーシアムの活動にご理解・ご協力下さいますようお願い申し上げます。

2021 年 3 月

奈良教育大学 副学長（国際交流・地域連携担当）
近畿 ESD コンソーシアム 運営委員長 高橋豪仁

【学生による ESD 活動支援】

奈良教育大学附属幼稚園「ECO キャップ & SDGs」動画作成

英語教育専修 3 回生 後藤 旭

◇ 参加学生

学部 3 回生 後藤 旭 (英語教育専修)

学部 2 回生 佐藤 こころ (音楽教育専修)

学部 1 回生 川口 綾菜 (英語教育専修) 三嶋 菜月 (英語教育専修)

◇ 動画の内容

奈良教育大学ユネスコクラブに所属する学生 4 名で、奈良教育大学附属幼稚園園児に向けて ECO キャップ及び SDGs に関する動画を作成した。ECO キャップに関する動画では、奈良教育大学附属幼稚園で行っているペットボトルキャップの回収運動を学生による動画の撮影及び Power Point で説明している。具体的には、なぜ回収しているのか、回収された後どのように役立っているのか等の内容である。また、SDGs に関する動画では、SDGs とは何か、SDGs に取り組む意義等を SDGs の目標 3・12・14・15 番を例に挙げながら学生による動画の撮影及びペープサートで説明している。動画作成から編集まで、すべて学生が行った。



◇ 作成に関わった学生の感想

この動画作成では、幼稚園児に SDGs や ECO キャップについての説明をしたときに、果たして彼ら、彼女らがどこまで理解できるのか、そしてどの範囲まで理解してもらうべきなのかを考えるのが難しかった。普段の生活で私が幼稚園児と関わる機会はほとんど無かったため、昨年度も ECO キャップの教材作成に携わっていた先輩やその他のメンバーの意見を参考にして、「幼稚園児が理解できる」動画作成に努めた。

また、スライドの中にアニメーションを入れたり効果音・BGM を入れたりするなどして、視覚や聴覚に訴えかけ、幼稚園児が飽きずに楽しんで学ぶことができるような動画の作成を心がけた。私は主に ECO キャップの動画作成に関わったが、最初と最後の部分のテロップを入れる際にはその色を登場人物の服の色に合わせたり、そのテロップを横からスライドさせたりして、どちらのセリフなのかを園児にとって視覚的にも分かりやすいような編集にトライしました。また中間部の ECO キャップ博士の部分では、セリフに合わせた音楽を探して肝心のセリフをつぶしてしまわないよう音量を調節したり、効果的にエフェクト機能を使ったりした。動画編集を行ったのは初めてだったが、今回の動画作成で一通りの動画作成方法を学ぶことができた。その意味でも、この動画作成は非常に良い経験になった。

今回附属幼稚園の園児向けの動画作成に携わって、上記のように自身が成長することもできたし、園児にも SDGs や ECO キャップの取り組みについて理解してもらえる内容のものが作れたのではないかなと思う。附属幼稚園生の皆さんが SDGs や ECO キャップへの興味・関心を高める機会になれば幸いである。(英語教育専修 1 回生 三嶋 菜月)

お わ り に

新型コロナウイルス感染症拡大の 2020 年度にあつて、こうしてここに近畿 ESD コンソーシアムの年次報告書を取りまとめることができました。本年度のコンソーシアム活動の最大の事業は、ユネスコスクール近畿地方大会でした。これは、文部科学省の「ユネスコ未来共創プラットフォームの発展に資するユネスコスクールネットワーク活性化事業」として、11 月 1 日（日）、8 日（日）、15 日（日）の 3 日間にわたって実施したものです。講演会、実践交流会・ESD 研究会、ユネスコスクール子どもフォーラム等、様々なプログラムを全てオンラインで実施しました。詳細については、別冊子を作成しましたのでそちらをご参照頂き、本報告書では、子どもフォーラムで作成した「近畿ユネスコスクール子ども宣言」のみを掲載しました。

コロナ禍のため、例年実施していた陸前高田市での文化遺産調査・防災教育研究調査、木頭ゆず収穫ボランティア、「東大寺 寺子屋」の支援、ESD 子ども広場、等、様々な事業を中止せざるを得ませんでした。一方で、現職教員を対象とした「ESD ティーチャープログラム」は、対面形式とオンライン形式での講習を併用して、例年以上に充実したものとなりました。マスター認定者が 2 名、ティーチャー認定者が 42 名と昨年度の 2 倍の修了者を輩出しました。長浜市、大牟田市、山形市での受講者もあり全国各地で実施しました。本年度は特に奈良教育大学附属中学校から 12 名もの修了者があり、その多くは、本年度末に刊行する『学校教育における SDG s ・ ESD の理論と実践』（協同出版）に ESD の授業実践を執筆して頂いています。

また、本報告書に掲載している学ぶ喜び ESD 連続公開講座、及び 3 月 7 日に実施した「ESD・ボランティア活動フォーラム」は、オンライン、あるいはハイブリッド形式で実施することができました。

コロナ禍が終息するかどうか見通しが立ちませんが、次年度も引き続き、ESD を通して SDG s の達成を目指す近畿 ESD コンソーシアムの活動にご理解・ご協力下さいますようお願い申し上げます。

2021 年 3 月

奈良教育大学 副学長（国際交流・地域連携担当）
近畿 ESD コンソーシアム 運営委員長 高橋豪仁

令和２年度 近畿ＥＳＤコンソーシアム活動実施報告書

2021年3月31日

近畿ＥＳＤコンソーシアム 国立大学法人 奈良教育大学
〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学
教育研究支援課

E-mail k-soumu@nara-edu.ac.jp

Tel 0742-27-9367

Fax 0742-27-9147